

第1学年 生活科（交通安全）

あたらしい1ねんせいをしょうたいしよう

場 所 1年1組教室

対 象 第1学年1組 27名

指導者 軸屋 奈保子

1 単元の目標

- ・道路の安全な歩き方、横断の仕方を新1年生になる保育園児に伝えることを通して、安全な歩行について、理解を深め実践できるようにする。
- ・保育園児の立場に立って危ない場面を考え、安全な登下校の仕方について伝え、進んで交流することができるようにする。

2 学習指導要領との関連

生活科 内容

- (1) 学校生活に関わる活動を通して、学校の施設の様子や学校生活を支えている人々や友達、通学路の様子やその安全を守っている人々などについて考えることができ、学校での生活は様々な人や施設と関わっていることが分かり、楽しく安心して遊びや生活をしたり、安全な登下校をしたりしようとする。
- (8) 自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を通して、相手のことを想像したり伝えたいことや伝え方を選んだりすることができ、身近な人々と関わることのよさや楽しさが分かるとともに、進んで触れ合い交流しようとする。

3 題材（単元）について

(1) 児童の実態

本学級の児童は、5月に行われた交通安全教室で、交通ルールを守らないとどうなってしまうのか、スタントマンの実演を見学した。その中で、児童は注意を怠ることで大きな事故につながることを、実演を通して学習した。また、10月には、実際に亀有警察署の方や学童誘導員さんのお話を聞き、横断歩道を渡って正しい横断の仕方を学んでいる。しかし、最近では毎日の登下校や学校の生活にもすっかり慣れて、友達とおしゃべりしながら歩いていて危険な箇所に気付かなかつたり、横断歩道を急いで渡ろうとして止まれなかつたりして、ひやりとする場面も見られる。安全のルールやマナーは頭では分かっているが、実際にきちんと実践できるようになるまで、まだ繰り返しの指導が必要である。

(2) 題材設定の理由

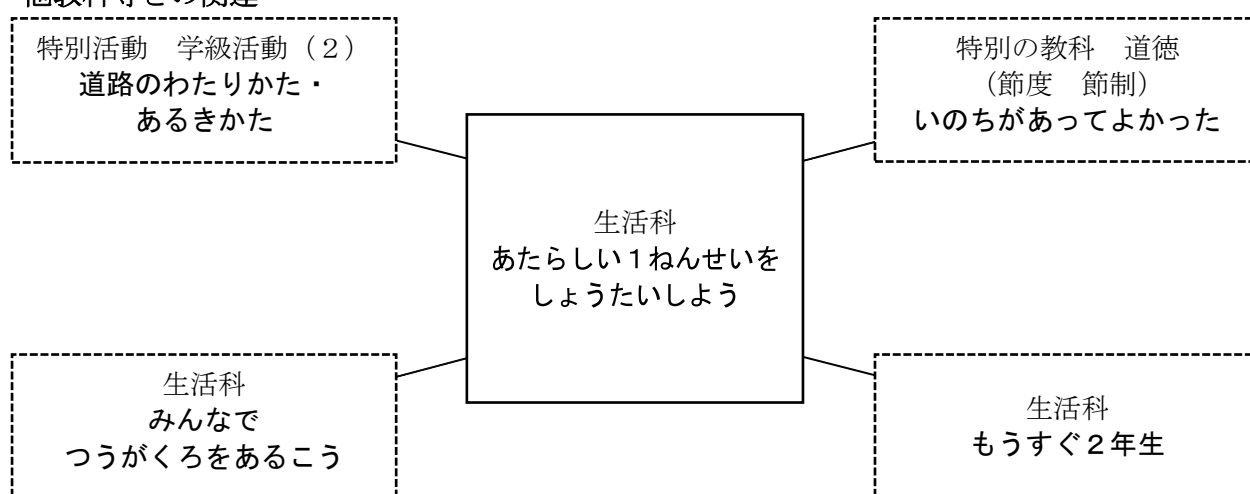
1年生は目線もまだ低く、車道への飛び出しや見通しの悪い道路での事故の割合が、他学年に比べてかなり高い傾向にあり、交通安全運動7歳の交通安全プロジェクトが全国で行われている。単元「もうすぐ2年生」で、来年度1年生になる保育園児を教室に招待し、小学校の学習や生活の様子を伝える学習活動を行う。保育園児を招待する活動の中で、安全な通学路の歩き方について伝える活動を取り入れる。第1時では児童が4月に入学した時のことを振り返り、うれしい反面、不安だったことを思い出させ、新しい1年生になる保育園児にどんなことをしてあげたいかを考えさせて計画を立てる活動を行う。第2時では、保育園児に分かりやすく伝えることができる方法を考える活動を行う。第3時の本時では、花の木保育園の園児たちに通学路の安全な歩き方について、どのようなことを伝えたらよいかを考えさせる活動を行う。そして、次時以降ではこれまでの学習や自分の行動を振り返り、新1年生に伝える会の準備を行い、安全への理解を深め、自信をもって取り組むことができるようにするとともに、保育園児

の気持ちを想像しながら関わり方を決め、発表会を通して保育園児と関わることのよさに気付くようにさせたい。

4 評価規準

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	保育園児の立場になって安全を意識して考え、保育園児と関わることのよさや楽しさに気付いている。	学校生活に関わる活動を通して、安全な登下校について自分なりに考えたり表現したりして、保育園児に伝えたいことを決めている。	保育園児に喜んでもらえるよう、分かりやすく学校のことや登下校の安全のことを伝えようとしている。

5 他教科等との関連



6 安全教育の視点に迫るための手立て

児童が保育園児の立場に立ち、交通安全を自分事として考えることができる手立て

- (1) 児童が登下校する付近の道路を実際に調べる活動を通して、安全を守るための設備や人々、危険が予想される場所に気付かせ、安全への意識を高める。

児童が安全に気を付けた通学路の歩き方を理解することができる手立て

- (2) 10月に学習した安全な横断歩道の横断の仕方を思い出せるよう、写真や映像を提示する。

児童が安全に通学路を歩くために何が大切かを考え、適切に意思決定をすることができる手立て

- (3) 横断歩道の安全な横断の仕方や、歩道の歩き方の動画や写真を基に、自分だったら「どのような場面で」「どのように」気を付けるのかを考え、保育園児にどのようなことを、どのように説明したらよいかを適切に決定させる。

7 指導計画 (全7時間)

時	○主な学習活動	◎指導上の留意点 ◇評価 ☆安全教育の視点に立った留意点
1	○1年前に、自分がもうすぐ1年生になる頃のことを思い出し、伝え合う。 ○花の木保育園児を花の木小に招待	◎1年生入学時は、うれしい反面、不安な気持ちもあることを振り返る。 ◎どのようなことをしてあげたらよいかを考え

	<p>し、小学校体験会を開くことを知らせる。</p> <p>○新しい1年生にとって分かりやすく楽しい会になるように計画を立てる。</p> <p>①学習のこと（国語、算数、体育等）</p> <p>②生活のこと（休み時間、給食、登下校等）</p>	<p>るように促す。</p> <p>☆横断歩道の安全な歩き方も教えてあげられたらよいことを伝える。</p> <p>◇横断歩道の安全なありき方を理解している。（知識・技能）</p> <p>◎「優しく」「分かりやすく」「仲よく」等、活動全体を見通した一人一人のめあてをもたせ意欲的に考えることができるようにする。</p> <p>◇保育園児の気持ちを考え、友達と関わり方を話し合っている。（思考・判断・表現）</p>
2	<p>○新しい1年生に伝えたいことを分かりやすく伝える方法を決める。</p> <p>①学習のことを、タブレットで動画を撮って知らせたい。</p> <p>②クイズで遊びのことを知らせたい。</p> <p>③自分たちの通学路で危ない場所、気を付けるところを考える。</p>	<p>◎学習のこと、生活のことで、保育園児が4月からの学校生活の手掛かりにできるような活動を考えさせる。</p> <p>◎自分たちの通学路について、ひやりとした場面になったことを振り返り、気を付けなければならない場面や危ない場所等を考えさせる。</p> <p>◇保育園児にとって分かりやすいように伝える方法を考えている。（思考・判断・表現）</p>
3 本 時	<p>○保育園児に、通学路の安全な歩き方、横断の仕方を教えるときどのようなことに気を付けたらよいかを考える。</p>	<p>◎保育園児の視点に立ち、まずどのようなときに気を付けなければならないかを考えさせる。次に「どのように」気を付けるのかを考えさせる。</p> <p>☆横断歩道の渡り方や歩道の歩き方、雨の時等、具体的な場면을提示して考えさせる。</p> <p>◇保育園児の立場に立って安全な歩行の仕方について考えている。（思考・判断・表現）</p>
4	<p>○それぞれのグループで、学習のことや生活のこと、交通安全のことに分かれて、クイズや学習、塗り絵や紙芝居、実演等の分かりやすく楽しい方法を考える。</p>	<p>◎役割分担を決め、保育園児が「分かりやすく」「楽しく」「仲よく」できるように考えてできそうなものを選択させる。</p> <p>◎話し合ったことを基に学習、生活、交通安全の発表の担当で伝えたい大事なことを、忘れずに伝えることを知らせる。</p> <p>◇保育園児の立場に立って考えている。（思考・判断・表現）</p>
5 ・ 6	<p>○小学校体験会の準備をする。</p>	<p>◎一人一人の活動のめあてを確認し、グループで協力して、意欲的に活動できるようにする。（主体的に学習に取り組む態度）</p>
7	<p>○小学校体験会（新1年生に伝える会の本番）</p>	<p>◎一人一人が自覚をもって、保育園児に学校のことを教えたり、いっしょに遊んだりできるよう、今まで準備してきたことをうまく表現するように促す。</p> <p>◇友達と協力して、保育園児と楽しく関わっている。（思考・判断・表現）</p>

8 本時の展開 (3 / 7時)

(1) ねらい

通学路や花の木保育園近くの道路を安全に歩行するために、どのようなことに気を付けて伝えればよいかを考えることができるようにする。

(2) 展開

○学習活動	◎指導上の留意点 ◇評価 ☆安全教育の視点に立った留意点
①入学した頃に道路を歩いた経験を思い出す。 ・初めて歩いて不安だった。 ・道が分からなくて困った。 ②本時のめあてを確かめる。	◎お家の人と登下校の練習をしたり、下校したりしたときの気持ちを考えさせる。
めあて 花の木ほいくえんの子たちにつうがくろのあんぜんなあるきかたについて、 どのようなことをつたえたらよいかをかんがえよう。	
③10月に横断歩道の安全な横断歩道の安全な横断の仕方を学習したことを思い出す。	☆写真を使って10月に学習したことを想起させる。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block; margin-left: 20px;">手立て(2)</div>
④写真や動画を見て、どのような場面で、どのようなことに気を付けているのかを考える。 ・急いでいるとき 飛び出さないようにする。 ・友達と登下校するとき 広がらないように歩く。 前や信号をよく見る。 横断歩道の前で止まる。 ・雨の日 周りをよく見て歩く。 ⑤安全な歩行の仕方を保育園児に教える際に大切なことを話し合う。 ・道路の歩き方について ・信号のある横断歩道の横断の仕方 ・信号のない横断歩道の横断の仕方 ・見通しの悪い道路の歩き方 ・雨の日の歩き方	☆保育園児の視点に立ち、まず「どのようなとき」に気を付けなければならないかを考えさせる。次に「どのようなこと」に気を付けさせるのかを考えさせる。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block; margin-left: 20px;">手立て(1)</div> ☆横断歩道の横断の仕方や歩道の歩き方、雨の日の歩き方等、具体的な場面を考えさせてワークシートに書かせる。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block; margin-left: 20px;">手立て(3)</div> ◎保育園児が花の木小に入学したら、気を付けてほしいことを考える。 ☆安全に歩くために大切なことと、なぜそのように歩かなければならないのかを保育園児に伝わるように考えさせる。 ◇保育園児の立場に立って安全な歩行の仕方について考えている。 (思考・判断・表現) 【発言・ワークシート】
⑥次時の活動を知る。 ・保育園児の小学校体験会を開くために、グループで準備することを知る。	☆花の木保育園児が、安全に登下校できるように、分かりやすく大事なことを伝えられるように意欲をもたせる。

9 授業観察の視点

・教師が作成した動画を視聴することは、児童が保育園児の立場に立ち、安全な歩行について分かりやすく教えてあげようとするために、有効であったか。

第1学年 特別活動（生活安全）学級活動（2）イ よりよい人間関係の形成
ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成

自分の心と体を守ろう＜生命（いのち）の安全教育＞

場 所 1年2組教室
1年3組教室
対 象 第1学年2組 26名
3組 27名
指導者 2組 上條 健盛
3組 土屋 由実子

1 学級活動（2）で育成を目指す資質・能力

- ・ 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全といった、自己の身の回りの諸課題の改善に向けて取り組むことの意義を理解するとともに、そのために必要な知識や行動の仕方を身に付けるようにする。
- ・ 自己の生活上の課題に気づき、多様な意見を基に、自ら課題解決を意思決定することができるようにする。
- ・ 自己の生活をよりよくするために、他者と協働して自己の生活上の課題の解決に向けて粘り強く取り組んだり、他者を尊重してよりよい人間関係を形成しようとしたりする態度を養う。

2 学習指導要領との関連

特別活動 学級活動 内容(2)

イ よりよい人間関係の形成

学級や学校の生活において互いのよさを見付け、違いを尊重し合い、仲よくしたり信頼し合ったりして生活すること。

ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成

現在及び生涯にわたって心身の健康を保持増進することや、事件や事故、災害等から身を守り安全に行動すること。

<生命（いのち）の安全教育の目標>

性暴力の加害者、被害者、傍観者にならないようにするために、生命の尊さを学び、性暴力の根底にある誤った認識や行動、また、性暴力が及ぼす影響などを正しく理解した上で、生命を大切に考える考えや、自分や相手、一人一人を尊重する態度等を、発達段階に応じて身に付ける。

<低学年のねらい>

自分と相手の体を大切にすることを身に付けることができるようにする。また、性暴力の被害に遭ったとき等に、適切に対応する力を身に付けることができるようにする。

3 題材（単元）について

(1) 児童の実態

本学年の児童は、明るく、人懐っこく、友達と活発に関わりながら過ごしている。そのような中で、休み時間等に他人に抱き付いたり、理由なく触れたりする場面が見られるようになった。着替えを行う場面では、プライベートゾーンが見えてしまっても気にしなかったり、見てしまったりすることに抵抗感のない児童もいる。自分の体は自分だけのものであり、自分の体を大切にしようとする意識が低いように感じる。これらのことから、周りとの距離感をつかむことも難しくなっているのではないかと考えられる。

(2) 題材設定の理由

低学年では、自分と相手の体を大切にすることを身に付けることができるようにするとともに、性暴力の被害に遭ったときに適切に対応する力を身に付けることができるようにしていく。本単元では、プライベートゾーンについて「見ない」「見せない」「触らない」「触らせない」というキーワードを基に、なぜ他人に気軽に触ったり触らせたりしてはいけないのかを考えさせる。これらのことを自分事として捉えて、児童自身が深く考えられるように教材の工夫をしていく。

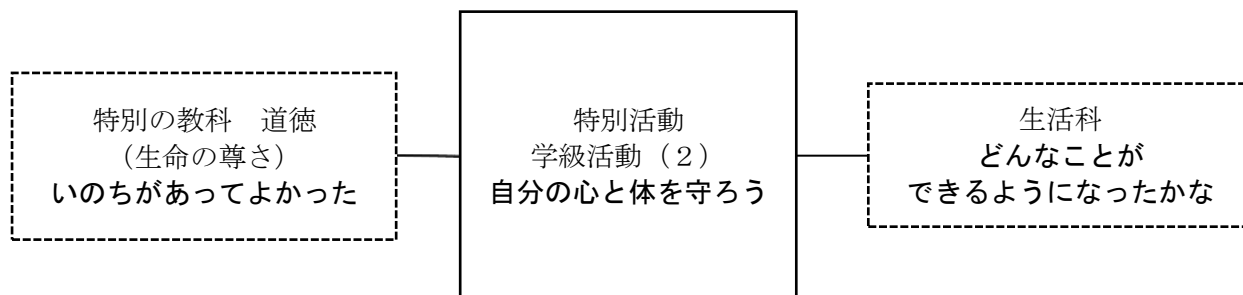
本単元の第1時では、自分の体を大切にするためにできることを考え、プライベートゾーンについて知る。第2時では、第1時で学習したことを基に、相手との距離感について考えたり、距離感が守られていないと感じたときの対処方法を考えたりする。全2時間の学習を通して、自分の体の大切さに気付かせ、日常生活の場面を想定した事例を通して身の守り方を考え、日常的に自分の身体を守る行動を意識させていきたい。

また、「生命（いのち）の安全教育」を取り扱う上で、児童一人一人が性暴力の被害者になっていないか十分に配慮しなければならない。そのため、保護者会で事前に「生命（いのち）の安全教育」で指導する内容について伝えている。

4 評価規準

観点	よりよい生活を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
評価規準	自己の身の回りの諸課題の改善に向けて取り組むことの意義を理解し、基本的な生活を送るための知識や行動の仕方を身に付けている。	自己の身の回りの諸課題を知り、解決方法などについて話し合い、自分に合ったよりよい解決方法を意思決定して実践している。	自己の生活をよりよくするために、見通しをもったり振り返ったりしながら、進んで課題解決に取り組み、他者と仲よくしてよりよい人間関係を形成しようとしている。

5 他教科等との関連



6 安全教育の視点に迫るための手立て

児童が性暴力の被害に遭ったときをイメージし、自分事として考えることができる手立て

- (1) 児童が自分事として捉えることができるように、イラスト付きのカードを使って、具体的にイメージすることができるようにした。自分が嫌なことをされる側になって考えることで、体を守るための行動に気付かせる。

自分の心や体は自分だけのもので大切であることを理解するための手立て

- (2) プライベートゾーンについては、男の子と女の子の水着のイラストを黒板に掲示して説明し、児童が視覚的にイメージしやすくするとともに、児童の印象に残るようにする。
 (3) 生命（いのち）の安全教育動画教材や絵本を活用することで、自分の体を大切にすることができることやしていることを考えさせ理解を深められるようにする。

児童が安全確保のために何が必要かを考え、適切に意思決定をすることができる手立て

- (4) 日常生活において、誰もが性被害に遭う可能性がある。よって、児童の身近に起きる危険をイメージし、自分の身を守るために必要な行動を考え、適切に意思決定をすることができるよう、具体的な事例を挙げて考えさせる。

7 指導計画（全2時間） 1年2組 第1時 1年3組 第2時

時	○主な学習活動	◎指導上の留意点 ◇評価 ☆安全教育の視点に立った留意点
1 二 組 本 時	○自分の体を大切にすることができることは何かを考え、プライベートゾーンの場所と守るための4つの約束を知る。	◎日常生活の場面を想定した事例を提示し、自分の体は自分だけの大切なものであることを感じられるようにする。 ☆プライベートゾーンのみが大事であるという伝え方にならないように注意する。 ◇「プライベートゾーン」の部位と守るためのルールを理解している。（知識・技能）
2 三 組 本 時	○相手との適切な身体の距離感について考え、自分の身の守り方や、守られていないと感じたときの対処方法を理解する。	◎絵本に出てくる日常生活の各場面を取り上げ、イラストカードで掲示し、児童にとって身近な出来事として考えさせる。 ☆体の大切な部分や体を守るための行動について、分かりやすい言葉でまとめて理解を促す。 ◇自分が嫌な気持ちになったときのことを想像し、進んで課題解決に取り組んでいる。（主体的に学習に取り組む態度） ◇相手との距離感や嫌な気持ちになったときのことを考えながら、自分の身の守り方を考えている。（思考・判断・表現）

8 本時の展開（1／2時）＜1年2組＞

(1) ねらい

自分の体を大切にするためにできることを考え、自分の体は大切なものであり大切にしていこうとする気持ちを持ち、プライベートゾーンを守る約束を理解できるようにする。

(2) 展開

○学習活動	◎指導上の留意点 ◇評価 ☆安全教育の視点に立った留意点
<p>①自分の体は自分だけの大切なものであることを知る。 ・他人も同様であることも知る。</p> <p>②本時のめあてを確かめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">めあて じぶんのからだを大せつにするためにできることをかんがえよう。</div>	<p>☆生命（いのち）の安全教育動画教材を使用し、日常生活の場面を示して、自分の体は自分だけの大切なものであることを伝える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; display: inline-block;">手立て(3)</div>
<p>③自分の体を大切にするためにできることは何か考え、発表する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 個人で考える。 2. ペアで考える。 3. 全体で考えを共有する。 <p>④自分だけの大切なところを考え、プライベートゾーンを理解する。</p> <p>⑤プライベートゾーンを守る4つの約束を理解する。</p>	<p>◎ワークシートを用いて、自分や友達の考えを共有することで、視野を広げさせる。</p> <p>☆自分の体を大切にしていきたいと意欲を高められるような言葉掛けをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; display: inline-block;">手立て(2)(3)</div> <p>☆絵本「だいじだいじどーこだ？」の読み聞かせをし、プライベートゾーンの場所の理解につなげる。</p> <p>☆「見ない」「見せない」「触らない」「触らせない」の4つの約束を押さえる。</p> <p>◇「プライベートゾーン」の部位と守るためのルールを理解している。</p> <p>（知識・技能）【発表・ワークシート】</p> <p>☆けがや病気ของときは、自分を守るためにお家の人やお医者さんに自分が同意して診てもらうことが大切であることを押さえる。</p>
<p>⑥本時の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分や友達の意見を基に、これから自分の体を大切にしていくために取り組みたいことを書く。 ・自分が考えたことを発表する。 <p>⑦次時の学習の見通しをもつ。</p>	<p>☆友達も大切にしていきたいと振り返る児童がいた場合、その考えを価値付ける。</p> <p>☆プライベートゾーンを守る4つの約束を確認する。</p> <p>☆自分の体が守られていないときの事例を伝え、適切な行動を考えていくことを伝える。</p>

9 授業観察の視点

- ・生命（いのち）の安全教育動画教材を取り扱うことで、自分の体を大切にするためにできることを考えることができていたか。
- ・プライベートゾーンについて、イラストを使って説明することは、児童が視覚的にイメージしながら理解する上で有効であったか。

8 本時の展開 (2/2時) <1年3組>

(1) ねらい

自分が人から見られたり触られたり嫌な思いをしたときに、どのように身を守ればよいかを考えることができるようにする。

(2) 展開

○学習活動	◎指導上の留意点 ◇評価 ☆安全教育の視点に立った留意点
<p>①プライベートゾーンを守る4つの約束を振り返る。</p> <p>②本時のめあてを確かめる。</p>	<p>☆学習中に体調が優れない際は、サインを送ってほしいことを伝える。</p> <p>◎水着のイラストを再度提示する。</p> <p>☆プライベートゾーンの場所を再度確認する。</p> <p>☆プライベートゾーンの約束を守ることは、自分の心身を守ることであると伝える。</p>
<p>めあて じぶんのからだをさわられそうになったとき、どうすればよいかをかんがえよう。</p>	
<p>③『いいタッチわるいタッチ』の絵本を読み、よいタッチと悪いタッチを振り分け、それぞれどのような気持ちになるのかを考える。</p> <p>④悪いタッチをされたとき、どのように身を守るかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを全体で共有する。 身の守り方の三原則「いやだ・にげる・あんしんできるおとなにはなす」を知る。 <p>⑤実際に、身の守り方の三原則が実践できるか、具体的な事例を基に考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 知らない人に声をかけられた場合 知り合い、家族が相手の場合 	<p>☆どのようなタッチが良いのか、あるいは悪いのかを、イラストを基に考えさせる。</p> <p>☆心地よい距離感とは人それぞれではあるが、悪いタッチは絶対にダメだということを押さえる。</p> <p>☆「文科省・生命(いのち)の安全教育動画教材(幼児期)2じぶんだけのだいじなところ」を使用し、年齢に応じた理解を促す。</p> <p>◇自分が嫌な気持ちになったときのことを想像し、進んで課題解決に取り組んでいる。(主体的に学習に取り組む態度)</p> <p>【ワークシート・発表】</p> <p>☆具体的な事例を取り挙げることにより、もしもの事態を自分事として捉えられるようにする。</p> <p>☆相手を知っているから良いのではなく、プライベートゾーンを触る行為こそが悪いことを抑える。</p>
<p>⑥本時の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分にとって信頼できる大人を明確にする。 今日の学習で大切だと思ったこと、感じたことを一つ以上ワークシートに書き、発表する。 	<p>◎本時の内容をしっかりと振り返ることができるよう、必要に応じて個別に声掛けをする。</p> <p>◇相手との距離感や嫌な気持ちになったときのことを自分なりに考えている。</p> <p>(思考・判断・表現) 【ワークシート・発表】</p>

9 授業観察の視点

- 自分の身を守るための学習をするにあたり、本時で取り扱った絵本の選択は適切であったか。
- 児童が安全確保に必要な事を考え、適切に意思決定をするために、事例検討は有効であったか。

第2学年 特別活動（生活安全）学級活動（2）イ よりよい人間関係の形成

ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成

いいタッチ・いやなタッチ＜生命（いのち）の安全教育＞

場 所 2年1組教室

対 象 第2学年1組 29名

指導者 荒木 規子

1 学級活動（2）で育成を目指す資質・能力

- ・ 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全といった、自己の身の回りの諸課題の改善に向けて取り組むことの意義を理解するとともに、そのために必要な知識や行動の仕方を身に付けるようにする。
- ・ 自己の生活上の課題に気付き、多様な意見を基に、自ら解決方法を意思決定することができるようにする。
- ・ 自己の生活をよりよくするために、他者と協働して自己の生活上の課題の解決に向けて粘り強く取り組んだり、他者を尊重してよりよい人間関係を形成しようとしたりする態度を養う。

2 学習指導要領との関連

特別活動 学級活動 内容（2）

イ よりよい人間関係の形成

学級や学校の生活において互いのよさを見付け、違いを尊重し合い、仲よくしたり信頼し合ったりして生活すること。

ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成

現在及び生涯にわたって心身の健康を保持増進することや、事件や事故、災害等から身を守り安全に行動すること。

<生命（いのち）の安全教育の目標>

性暴力の加害者、被害者、傍観者にならないようにするために、生命の尊さを学び、性暴力の根底にある誤った認識や行動、また、性暴力が及ぼす影響などを正しく理解した上で、生命を大切に考える考えや、自分や相手、一人一人を尊重する態度を、発達段階に応じて身に付ける。

<低学年のねらい>

自分と相手の体を大切にすることを身に付けることができるようにする。また、性暴力の被害に遭ったとき等に、適切に対応する力を身に付けることができるようにする。

3 題材（単元）について

（1）児童の実態

本学級の児童は、第1学年でプライベートゾーンについて学習した。しかし、本学級の児童は、着替えの際に裸で走り回ったり、パーソナルスペースが測れず、友達との距離が近くなりすぎてトラブルに発展したりすることが多い。また、友達と触れ合うことが好きな児童も多一方で、友達に触られたくないと感じている児童も増えているが、触られたくないと感じている児童を理解してあげることができずにいる。

さらに、どのようなことが性被害・性暴力となるのかを理解できている児童は少なく、万が一、被害にあった場合でも、自分が何をされているのかも分からない児童が多いと思われる。

(2) 題材設定の理由

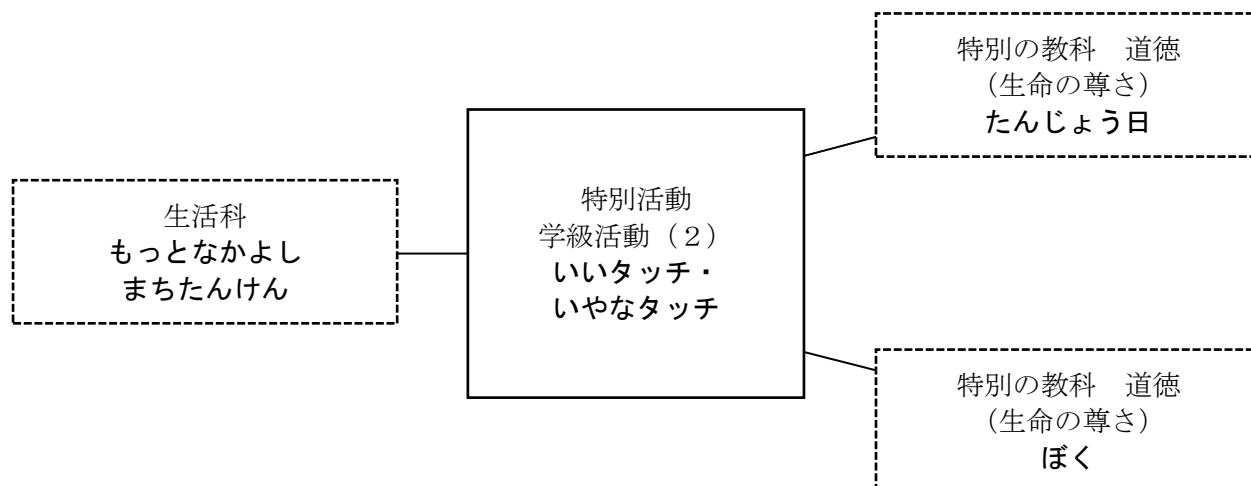
第1学年では、プライベートゾーンの学習を行い、相手との距離感や嫌な気持ちになったときのことを考えながら、不審者からの身の守り方を考えてきた。しかし、児童の性犯罪・性暴力の被害に目を向けると、加害者は知らない人だけでなく家族や親族等の身近な人である場合がある。実際に、警視庁がまとめている資料によると、過去10年間の児童虐待事件の検挙は過去最多となり、性的虐待においては3倍以上も増えている。このように、相手が身近な人であれば、児童が性暴力被害に気付いていなかったり、嫌だと感じる行為があっても嫌だと伝えることができなかつたりしているのではないかと予想される。

そこで、第2学年では、身近な友達との身体の距離感について考えられるような場面を設定して学習を進めていく。そして、「いいタッチ・いやなタッチ」を考えながら、人によって感じ方が違うことを理解させていきたい。友達と関わる場面でも、「いやなタッチ」があることを知り、困ったことがあったら信頼できる大人に伝えることが大切であることを実感できるようにしていく。さらに、動画を視聴したり絵本を見たりして、友達以外の身近な人からでも「いやなタッチ」を感じることを知らせていきたい。

4 評価規準

観点	よりよい生活を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
評価規準	自己の身の回りの諸課題の改善に向けて取り組むことの意義を理解し、基本的な生活を送るための知識や行動の仕方を身に付けている。	自己の身の回りの諸課題を知り、解決方法などについて話し合い、自分に合ったよりよい解決方法を意思決定して実践している。	自己の生活をよりよくするために、見通しをもったり振り返ったりしながら、進んで課題解決に取り組み、他者と仲よくしてよりよい人間関係を形成しようとしている。

5 他教科等との関連



6 安全教育の視点に迫るための手立て

児童が性被害に遭った場合を想像し、自分事として考えることができる手立て

- (1) 児童のアンケートから、友達との関わりの中で不快に感じる場面を学習で取り上げることで、自分事として捉えられるようにする。

身近な人でも嫌なタッチがあることを理解するための手立て

- (2) 性犯罪から自分を守るための動画を見せたり、絵本を見せたりすることで、身近な人でも嫌なタッチがあることを理解させる。

児童が安全確保のために何が必要かを考え、適切に意思決定をすることができる手立て

- (3) 嫌なタッチと感じる具体的な場面についての話し合いを通して、自分の身を守るために必要な行動を考え、適切に意思決定ができるようにする。

7 指導計画（全1時間）

時	○主な学習活動	◎指導上の留意点 ◇評価 ☆安全教育の視点に立った留意点
事前	○アンケートに記入する。	◎1年生で学習したプライベートゾーンや「いいタッチ・いやなタッチ」について振り返る。
1本時	○友達「いやなタッチ」から自分を守る方法を考える。 ○映像を視聴したり絵本を見たりして、身近な人でも嫌なタッチを感じることがあることを知る。	◎アンケートの結果から、友達との関わりの中の「いやなタッチ」についての具体的な場면을挙げる。 ◇友達でも、嫌なタッチがあることを理解し、自分の身の守り方を考えている。 (思考・判断・表現) ◇身近な人でも「いやなタッチ」があることを理解している。 (知識・技能)
事後	○性犯罪に目を向けた絵本を紹介する。	☆学習中に体調がすぐれない際は、サインを送ってほしいことを伝える。 ◇今後の生活で、嫌なタッチを感じた時には、嫌だということを伝えたり大人に知らせたりしようという意識を高めている。 (主体的に学習に取り組む態度)

8 本時の展開（1／1時）

(1) ねらい

身近な人が性暴力の加害者になる場合があることを理解し、自分の身の守り方を考えることができるようにする。

(2) 展開

○学習活動	◎指導上の留意点 ◇評価 ☆安全教育の視点に立った留意点
①アンケートの結果を見る。 ・友達と関わる場面には、「いいタッチ」や「いやなタッチ」があることを知る。 ②本時のめあてを確認する。	☆学習中に体調などがすぐれない際は、サインを送ってほしいことを伝える。 ◎人によって感じ方が違うことを押さえる。
めあて 自分の心や体をまもる方ほうを考えよう。	

<p>③友達との関わりの中で「いやなタッチ」と感じる場面を設定して、どうすればよいか考える。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自分の考えを、ワークシートに記入する。 2. どうすればよいか、全体で考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・「やめて」って言えたらよかった。 ・大人に知らせる。 3. 「やめて」と言えない友達がいたらどうするかについて考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・代わりに言ってあげる。 ・大人に知らせる。 <p>④「わたしのからだはわたしのもの」の動画を見る。</p>	<p>☆アンケートの結果から友達との関わりの中の場面を設定する。</p> <p style="text-align: right;">手立て(2)(3)</p> <p>◎机間指導しながら、考えを書けている児童を意図的に指名していく。</p> <p>◇友達でも、嫌なタッチがあることを理解し、自分の身の守り方を考えている。 (思考・判断・表現) 【ワークシート・発言】</p> <p>◎自分の心や身体を守るために、「いやだと言う。」「大人に知らせる」ことが大切であることを押さえる。</p> <p>☆プライベートゾーンや「いいタッチ・いやなタッチ」について押さえる。</p> <p style="text-align: right;">手立て(2)</p> <p>◇身近な人でも「いやなタッチ」があることを理解している。 (知識・技能) 【ワークシート・発言】</p>
<p>⑤学習の振り返りを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分はよいと思っても、友達は嫌な気持ちをしているかもしれない。 ・怖いことがあったら、信頼できる大人に知らせる。 	

9 授業観察の視点

- ・アンケートの結果から具体的な場面を設定して話し合うことは、自分事として考えるのに有効であったか。
- ・「いやなタッチ」を感じるときは、知らない人だけではないということを理解するために、動画を使う手立ては有効であったか。

第2学年 特別活動（災害安全）学級活動（2）ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成

自分の身を守る方法を考えよう

場 所 2年2組教室

対 象 第2学年2組 27名

指導者 今川 和哉

1 学級活動（2）で育成を目指す資質・能力

- ・ 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全といった、自己の身の回りの諸課題の改善に向けて取り組むことの意義を理解するとともに、そのために必要な知識や行動の仕方を身に付けるようにする。
- ・ 自己の生活上の課題に気付き、多様な意見を基に、自ら解決方法を意思決定することができるようにする。
- ・ 自己の生活をよりよくするために、他者と協働して自己の生活上の課題の解決に向けて粘り強く取り組んだり、他者を尊重してより良い人間関係を形成しようとしたりする態度を養う。

2 学習指導要領との関連

特別活動 学級活動 内容（2）

ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成

現在及び生涯にわたって心身の健康を保持増進することや、事件や事故、災害等から身を守り安全に行動すること。

3 題材（単元）について

（1）児童の実態

本学級の児童は、第1学年の頃から定期的に地震に対する避難訓練を行っている。そのため、学校では、ほとんどの児童が机の下にもぐる、防災頭巾を被って避難するという自分の身を守る安全な行動をとることができている。しかしながら、これまで実施してきた地震に対する避難訓練は学校にいる場合のみを想定しているため、自宅や通学路等、学校以外の場所で地震が起きた場合の対応について触れる機会はなかった。また、東日本大震災等の大きな地震を経験してないことから、地震の恐ろしさについてはあまりよく理解していないのではないかと考えられる。

このような実態を踏まえ、地震に対する危機意識を高め、地震災害をより自分事として捉えさせていくとともに、学校以外の場所でも自分の身を守る行動がとれる力を身に付けさせていきたい。

（2）題材設定の理由

第2学年では、これまで計画的な安全指導や避難訓練を丁寧に行うことで、防災への意識を高めようとしてきた。9月の引き渡し訓練では、事前に関東大震災の様子について、図書資料を活用して児童に伝えた。しかし、地震が発生したときの恐ろしさについて実感が薄いためか、危機意識の低さを感じた。

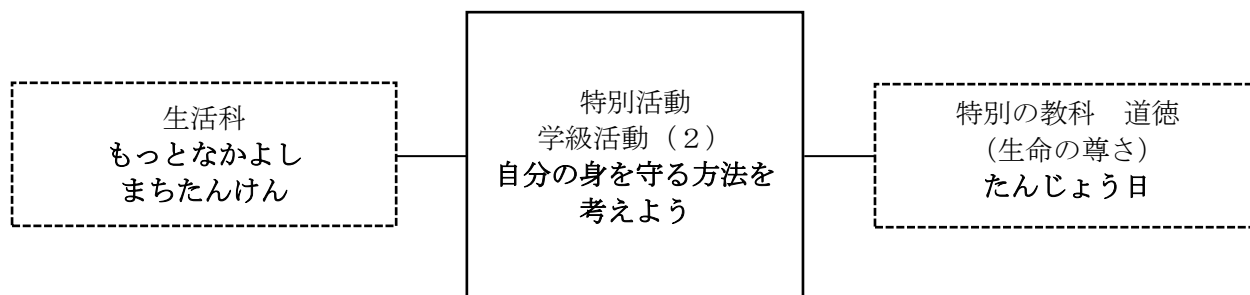
そこで本時では、まず、避難訓練をしたことがない、登校中の通学路や家で寝ている場面で、地震が起きた際、どんなところが危険なのかを考えさせていく。そして、見付けた箇所がなぜ危険なのかも考えさせることで、普段から自分の身の回りの危険なものを意識できるようにしていきたい。その際には、「大阪教育大学e安全教育教材」の教材プリントを使用して具体的な場面をイメージさせていく。

危険なものを全体で確認した上で、地震が発生したとき、どのように自分の身を守ったらよいのかを話し合い、自分事として考えることができるように学習を進めていく。地震が収まった後にはどのような行動をとったらよいのかについても考えさせたい。

4 評価規準

観点	よりよい生活を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
評価規準	自己の身の回りの諸課題の改善に向けて取り組むことの意義を理解し、基本的な生活を送るための知識や行動の仕方を身に付けている。	自己の身の回りの諸課題を知り、解決方法などについて話し合い、自分に合ったよりよい解決方法を意思決定して実践している。	自己の生活をよりよくするために、見通しをもったり振り返ったりしながら、進んで課題解決に取り組み、他者と仲よくしてよりよい人間関係を形成しようとしている。

5 他教科等との関連



6 安全教育の視点に迫るための手立て

児童が地震発生時の状況をイメージし、自分事として考えることができる手立て

- (1) 東京防災「TOKYO”X”DAY」を活用することで、地震災害をより自分事として捉えさせる。
- (2) 教材プリント（大阪教育大学e安全教育教材）を活用し、児童が地震発生時の状況をイメージしやすいようにする。

地震発生時の身の守り方を理解するための手立て

- (3) 登校中や在宅時の危険な場所を見つけてその理由を考える活動を通して、災害発生時の身の守り方を具体的に理解しやすくする。

地震発生時に自分がとるべきことを考え、適切に意思決定することができる手立て

- (4) 一人で考えてから全体で話し合いをすることで、いろいろな意見を踏まえて適切な意思決定ができるようにする。

7 指導計画（全1時間）

時	○主な学習活動	◎指導上の留意点 ◇評価 ☆安全教育の視点に立った留意点
事前	○過去の様々な地震災害について知る。	☆地震災害のことが書かれている様々な本を児童がいつでも手に取れるように、学級文庫に置いておく。
本時	○通学路や自宅における地震発生時の危険な場所を見つけて、その理由も考える。 ○地震発生時の身の守り方について考える。	☆地震発生場所を、登校中と自宅にする。 ◇危険な場所とその理由について理解している。（知識・技能） ◇自分の身を守るために大切なことを考えている。（思考・判断・表現）
事後	○地震クイズに答える。	◇今後の生活で、災害時に、自分の身を守ろうという意識を高めている。 （主体的に学習に取り組む態度）

8 本時の展開 (1 / 1時)

(1) 本時のねらい

通学路や自宅における地震発生時の危険な場所を理解し、自分の身を守るために大切なことは何かを考えることができるようにする。

(2) 展開

○学習活動	◎指導上の留意点 ◇評価 ☆安全教育の視点に立った留意点
<p>①東京防災「TOKYO”X”DAY」の読み聞かせを聞き、感じたことを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・怖い。 ・びっくりした。 ・地震がきたらどうしよう。 	<p>◎「TOKYO”X”DAY」はスライドで編集したものを提示する。</p> <p style="text-align: right;">手立て(1)</p> <p>☆資料を通して児童が感じた地震に対する危機感を、「地震から身を守るために大切なことを考える」というめあてにつなげる。</p>
<p>めあて じしんからみをまもるために大せつなことは何かを考えよう。</p>	
<p>②自宅で地震が起きた際、部屋にある危険な箇所について考える。</p> <p>③家で地震が起きた際、どのようにして身を守ったらよいか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・机の下にもぐる。 ・枕やふとんで頭を守る。 ・家族と避難場所に行く。 <p>④登下校中、地震が起きた際、通学路にある危険な箇所について考える。</p> <p>⑤登下校中、地震が起きた際、どのようにして身を守ったらよいか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブロック塀やガラス、看板から離れる。 ・ランドセルで頭を守る。 ・しゃがむ。 <p>⑥ 登校時、地震が収まった後、どうするか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家へ行く。 ・学校へ行く。 ・避難所へ行く。 ・物が落ちてこない場所に移動する。 	<p>☆教材プリントを活用して、危険な箇所とその理由について押さえる。</p> <p style="text-align: right;">手立て(2)(3)</p> <p>☆ワークシートに記入したことを確認して、全体で話し合うようにする。</p> <p style="text-align: right;">手立て(4)</p> <p>◇危険な場所とその理由、身を守る方法を理解している。(知識・技能)【ワークシート・発言】</p> <p>☆教材プリントを活用して、危険なものとその理由について押さえる。</p> <p style="text-align: right;">手立て(2)(3)</p> <p>☆ワークシートに記入したことを確認して、全体で話し合うようにする。</p> <p style="text-align: right;">手立て(4)</p> <p>◇危険な場所とその理由、身を守る方法を理解している。(知識・技能)【ワークシート・発言】</p> <p>☆区の防災マップを提示し、学区内の避難所の場所を確認する。</p> <p>◇自分の身を守るために大切なことを考えている。(思考・判断・表現)【発言】</p>
<p>⑦ 本時の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地震が起きたとき、身の回りにある物で頭を守ったり、危険なものから離れたりすることが大切だと思った。 ・近くの避難所を確認しようと思った。 	

9 授業観察の視点

- ・東京防災「TOKYO”X”DAY」を提示することや危険な場所を見つけてその理由を考える活動は、児童が災害発生時をイメージし、自分事として考えるために有効であったか。
- ・災害発生時における具体的な場面での行動を児童に話し合わせることは、安全確保のために適切な意思決定をするために有効であったか。

第2学年 特別活動（生活安全）学級活動（2）ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成
学校であんぜんに生活するためには？

場 所 2年3組教室

対 象 第2学年3組 28名

指導者 坂本 麗奈

1 学級活動（2）で育成を目指す資質・能力

- ・ 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全といった、自己の身の回りの諸課題の改善に向けて取り組むことの意義を理解するとともに、そのために必要な知識や行動の仕方を身に付けるようにする。
- ・ 自己の生活上の課題に気づき、多様な意見を基に、自ら解決方法を意思決定できるようにする。
- ・ 自己の生活をよりよくするために、他者と協働して自己の生活上の課題の解決に向けて粘り強く取り組んだり、他者を尊重してよりよい人間関係を形成しようとしたりする態度を養う。

2 学習指導要領との関連

特別活動 学級活動 内容（2）

ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成

現在及び生涯にわたって心身の健康を保持増進することや、事件や事故、災害等から身を守り安全に行動すること。

3 題材（単元）について

（1）児童の実態

本校は、第2学年のみ新校舎で生活をしているため、他学年に比べて特別教室までの移動の距離が長い。また、給食のワゴンも長い距離を運ばないといけないため、教室移動等の際にはルールの確認を徹底し、事故が起きないように注意を払っている。5月に、生活科で1年生に向けて学校案内を行った際には、校内を案内するときのルール作りをすることで、安全に活動しようとする意識が高まった。それにより、無事に案内を終えることができ、達成感を味わうことができた。

毎月の安全指導や学級活動などでも、校内を安全に過ごすための約束の指導を行っている。また、生活委員会の児童による校内を走っている児童の調査の結果から、低学年の児童は校内を走っている人数が少ないという結果が出ている。

しかし、本学級の児童にアンケート調査を行ったところ、「校内を走ったことがある」と答えた児童は90%、「学校内でけがをしたことがある」と答えた児童は、25%であった。「学校内で危険！と感じたことがある」は、55%もあり、半数の児童が危険を感じているようである。

普段の様子では、集団で行動しなくてはならない教室移動の際の廊下歩行は、児童が右側通行を意識し、安全に配慮して移動する様子が見られる。ところが、個人の行動となる休み時間や急いでいる際には、校庭に出るために走ったり、教室や廊下で鬼ごっこをして転んだりする等安全に意識して生活をしていくことができていない児童が目立つ。しかし、「校内を安全に過ごすためのルールを知っている」という質問には、95%の児童が「知っている」と答えた。集団として安全に対する意識はあるものの、児童が安全指導や学級活動での安全に関する学習で学んだことを自分事として捉えられていないように感じる。

(2) 題材設定の理由

本単元は、普段校内で生活をしている上で、危険だと感じたことを基に、その危険を解消していくためにはどうしたらよいかを考え、校内の安全は自分のためにあるものだという自覚をもたせることをねらいとしている。

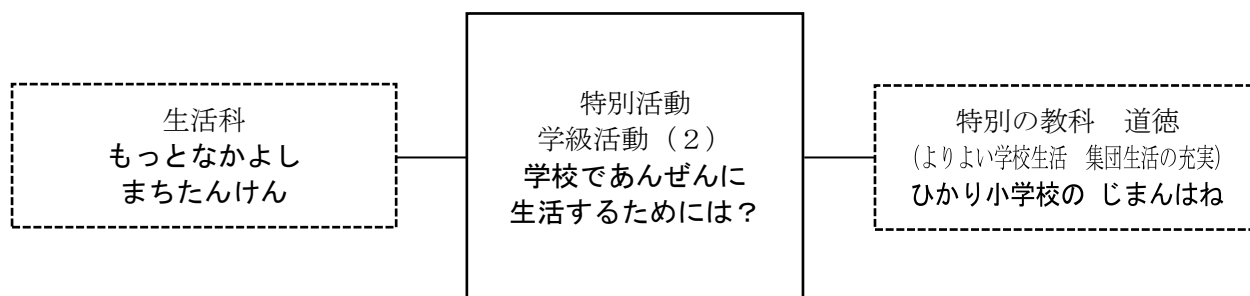
場所と行為を明確に書き表し、その場所ではどのような行為から危険を感じたのかを考え、対応策を見付けることで、安全に対する意識と行動が伴うような学習を展開していく。第1時では、けがをしたことがある場所や、危険を感じたことがある場所を校内マップにまとめる活動から、行為と理由をワークシートに書き、場所、行為、理由を明らかにさせ、けがをした状況が自分事として捉えられるように活動を行う。第2時は、行為に重点を当て、第1時で挙げた危険な行為を行わないための対応策を考える。見付けた対応策を、第3時で1年生に伝えることで、より安全に対する意識を高め、行動と結び付けられるようにする。

本単元を通して、学校内の生活にさらに目を向け、校内に潜む危険を回避できるような意識を育てたい。また、その意識が行動に反映され、来年度以降も安全に学校生活を送れるように、安全への理解を深められるようにしたい。

4 評価規準

観点	よりよい生活を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
評価規準	自己の身の回りの諸課題の改善に向けて取り組むことの意義を理解し、基本的な生活を送るための知識や行動の仕方を身に付けている。	自己の身の回りの諸課題を知り、解決方法などについて話し合い、自分に合ったよりよい解決方法を意思決定して実践している。	自己の生活をよりよくするために、見通しをもったり振り返ったりしながら、進んで課題解決に取り組み、他者と仲よくしてよりよい人間関係を形成しようとしている。

5 他教科等との関連



6 安全教育の視点に迫るための手立て

児童が危険と感じる場所や行為を、自分事として考えることができる手立て

- (1) 校内図を常に掲示し、いつでも校内の危険だと感じた場所を振り返り、危険を意識できるようにする。
- (2) 学級全体の危険を感じたことのアンケート結果を提示し、安全に対して意識付けができるようにする。

校内の安全な生活の仕方を理解するための手立て

- (3) 危険な場所が多いところや危険な行為をワークシートにまとめて、いつでも振り返ることができるようにすることで、安全に生活するための行動を理解しやすいようにする。
- (4) 危険な行為を防ぐための方法をグループで考えることで、多様な意見からまとめられるようにする。

(5) 危険な行為をした理由を短冊に書き、黒板に掲示することで、どのような理由が多いのかを視覚的に掲示し、安全な行動を考えられるようにする。

児童が安全確保のために何が必要かを考え、適切に意思決定をすることができる手立て

(6) 副読本「みんなのあんぜん」を活用し、安全のための行動を適切に意思決定ができるようにする。

7 指導計画（全3時間）

時	○主な学習活動	◎指導上の留意点◇評価 ☆安全教育の視点に立った留意点
1 本 時	○学校案内をしたことや、普段の生活を思い出しながら、校内の危険だと感じた場所を挙げていく。 ○自分がけがをしたり、危ないと感じたりした経験を基に、危険だと感じた場所で何が起きたのかを話し合う。	◎普段の生活を学級の実態として見られるように事前にアンケートを行う。 ◎危険と感じたところが可視化されるように校内マップを用意する。 ◎場所・行為・行動に注目し、ワークシートに記入できるようにする。 ☆危険な行為を行った理由を出しやすいように、普段の行動を振り返りながら、『なぜ』を意識して考えられるようにする。 ◇自分の経験を基に、危険だと思われる行為を考えている。（思考・判断・表現）
2	○危険があった場所には、どのような危険な行為があったのかをまとめる。 ○学校で安全に生活するためにはどうすればよいかを考えて、班ごとにまとめる。	◎話し合ったことを班で共有できるように、タブレットを活用する。 ◎ポスターや新聞、模造紙等まとめる方法をいくつか用意しておく。 ☆副読本「みんなのあんぜん」を活用し、教室や廊下の危険や約束を再度確認する。 ◇危険な行為を回避する方法を、話し合っている。（主体的に取り組む態度）
3	○1年生を招待し、班でまとめたことを発表する。	◎グループごとに発表の仕方を工夫する。 ◎1年生にグループごとに聞いてもらう。 ◇学習したことを押さえ、危険な行為を回避するための行動を伝えている。（知識・技能）

8 本時の展開 (1 / 3時)

(1) ねらい

自分がけがをしたり、危ないと感じたりした経験を基に、どのような危険があるかを話し合い、考えることができるようにする。

(2) 展開

○学習活動	◎指導上の留意点 ◇評価 ☆安全教育の視点に立った留意点
① 普段の様子を調査したアンケート結果を見る。 〈アンケート内容〉 校内で危険を感じたことがある。 校内でけがをしたことがある。 ② 本時のめあてを確認する。	☆ 普段の生活を学級の実態として見られるように事前にアンケートを行う。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block; margin-left: 20px;">手立て(1)</div>
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: fit-content; margin: 0 auto;">めあて きけんをかんじた理ゆうを考えよう。</div>	
③ けがをした場所や、危険を感じたことがある場所にシールを貼る。 ・ 階段が多いね。 ・ 廊下も結構いるね。 ・ 教室も多いよ。 ・ みんな同じようなところでけがをしたり、危険を感じたりしているね。 ④ けがをした場所や、危険を感じたことがある場所をまとめる。 ・ 昇降口が多い。 ・ 図工室の前は黄シールが多い。 ⑤ どうしてけがをしたり、危険を感じたりしたのかをワークシートに書き、発表する。 ・ 廊下で急いでいて走っていて転んだ。 ・ 教室で鬼ごっこをしていてぶつかった。 ・ 階段でふざけていてすべった。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block; margin-left: 20px;">手立て(5)</div> ⑥ 発表を参考に、アンケート結果を見る。 〈アンケート内容〉 校内を走ったことがある。	◎ 危険と感じたところが可視化されるように校内マップを用意する。 ◎ けがをした場所には赤シール、危険を感じたことがある場所には黄シールを貼る。 ☆ 体育科等の授業中や、校庭遊びのけがは含まないことを押さえる。 ☆ 授業中や遊びにそぐわない中でのけがは含む。 ◎ 場所・行為・行動に注目し、ワークシートに記入できるようにする。 ☆ 危険な行為を行った理由を出しやすいように、普段の行動を振り返りながら、『なぜ』を意識して考えられるようにする。 ◇ 自分の経験を基に、危険だと思われる行為を考えている。 (思考・判断・表現) 【行動観察・ワークシート】
⑦ 振り返りを書いて発表する。 ・ 走ってはいけないと分かっていたけど、走ってしまっていた。	◎ 指名して発表を行い、次時につながるようにする。

9 授業観察の視点

- ・ シールを貼ることは、危険な行為を考えるために有効であったか。
- ・ 危険だと感じた場所や行為、行動を児童に考えさせることは、自分事として捉えることに有効であったか。

第3学年 特別活動（生活安全）学級活動（2）ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成
君たちは どう生きるか（「廊下歩行」について考えよう）

場 所 3年1組教室

対 象 第3学年1組 34名

指導者 清水 千尋

1 学級活動（2）で育成を目指す資質・能力

学校生活を送る上での様々な規律を見つめ直し、自分たちの普段の行動を振り返る活動を通して、規律の大切さやそこに込められた願いに気付くとともに、安全な学校生活を送るために自分たちができる改善策を考えるようにする。

2 学習指導要領との関連

特別活動 学級活動 内容（2）

ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成

現在および生涯にわたって心身の健康を保持増進することや、事件や事故、災害等から身を守り安全行動すること。

3 題材（単元）について

（1）児童の実態

本学級は、学年相応に素直で、友達とも積極的に関わり、お互いのよさを称賛することができる児童が多い。また、学習中は自分の考えを明確にもつことができない受動的な児童に声を掛ける優しい一面も見られる。しかしその反面、忘れ物が多かったり、身の回りの整頓ができなかったりと、自分の持ち物を管理できない児童が全体の2割ほどを占める。また、自分の行動には無頓着なものの、人の行動について厳しく注意したり、自分の気分で相手に攻撃的になったりする年齢相応な姿も多く見られる。そんな本学級の一番の課題は、友達と関わる中で、楽しい気持ちが優先され、学校の規律や気持ちよく過ごすためのルールを守れないことである。特に、「話を聞く。」「忘れ物をしない。」「廊下は走らない。」「廊下は右側を歩く。」「友達と互いに気持ちよく過ごす。」等のきまりについては、頭では理解していても行動が伴わないことが多く、継続的に指導する必要があることが課題となっている。

（2）題材設定の理由

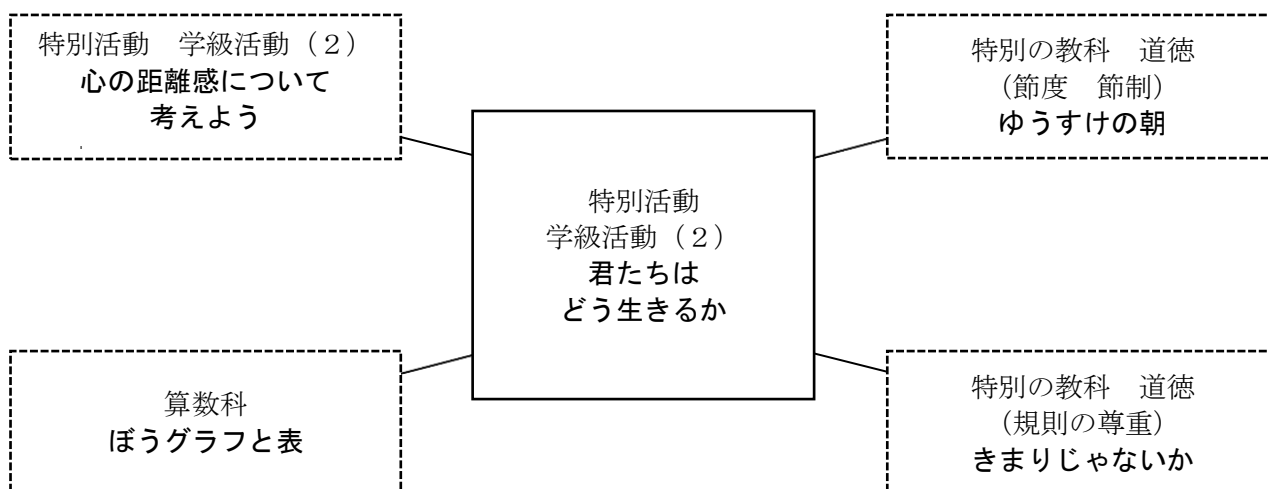
第3学年の算数「ぼうグラフと表」では、学校内でのけがを表にまとめて学習する。その学習から安全教育につなげ、学校内で安全に過ごすためにはどのようなことに気を付けたらいいかという学習に広げていく。今回はその学習を発展させ、「廊下は走らない」という学校の規律について取り上げる。

学校における規律の大切さやその意味について、本学級の児童も頭では理解しているが、行動がなかなか伴わない現状がある。その結果、廊下や校舎内を走り注意をされたり、話を聞く意識が低いことで学習活動の理解が不十分になり気持ちよく学習を進められなかったりし、余計な説明や指導の時間が必要になる。一方で、本学級の児童に限らず「自分の生活を見直し、よりよく生活するためにどんなことに気を付けていくべきか。」ということを考えさせるとき、一般的には「なぜしてはいけないのか。」という視点で学びに向かうことが多いが、それが児童の理解と行動の乖離の原因となっていることも考えられる。そこで、自分が規律からはみ出してしまう原因への対応にどのような方法があるか学び、自分のこれからの行動を意思決定させることで、よりよい学校生活を送る一助としたいと考えた。

4 評価規準

観点	よりよい生活を送るための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
評価規準	日常生活への自己の適応に関する諸課題の改善に向けて取り組むことの意義を理解し、よりよい生活を送るための知識や行動の仕方を身に付けている。	日常生活への自己の適応に関する諸問題に気付き、解決方法などについて話し合い、自分に合ったよりよい解決方法を意思決定して実践している。	自己の生活をよりよくするために、見通しをもったり振り返ったりしながら、意欲的に課題解決に取り組み、他者と協力し合ってよりよい人間関係を形成しようとしている。

5 他教科等との関連



6 安全教育の視点に迫るための手立て

規律やルールを守ることの大切さを自分事として考えるための手立て

- (1) 算数科「ぼうグラフと表」で学校内でのけがを学んだことと、事前に行う Google Forms での学級の実態調査とを合わせて活用することで、自分の廊下歩行について振り返ることができるようにする。

自分や友達が廊下を走る原因を理解するための手立て

- (2) 学級の課題に対して、従来の「どうして廊下を走ってはいけないのか」という視点だけでなく、「走ってはいけないと分かっているのに、どうして走ってしまうのか。」という視点で考えさせ、全体で共有することで、一つの課題における原因は人によって違うこと、原因によって改善策は異なることを理解させる。

自分が廊下を走らないために適切な改善策を意思決定することができるようにするための手立て

- (3) 自分が「廊下は走ってはいけないと分かっているのに、走ってしまう」原因は何なのかを考え、全体で共有することで、自他の走ってしまう原因の違いを知り、自分に合った改善策はどのようなものなのかを考えられるようにする。
- (4) 廊下を走らないようにするための改善策をスライドで提示することで、児童が視点や思考の幅を広げ、自分に合った改善策を考えられるようにする。

7 指導計画（全1時間）

時	○主な学習活動	◎指導上の留意点 ◇評価 ☆安全教育の視点に立った留意点
事前	○アンケートに記入する。	☆自分の廊下歩行についての実態をアンケートに記入させ、児童がなぜ廊下を走ってしまうのかを考えられるようにする。 ◇廊下を走ってはいけない理由を理解している。 (知識・技能)
1本時	○自分の生活を振り返り、どうして廊下を走ってしまうのかを考える。 ○自分が走ってしまう原因に適した自分にできる改善策を考える。	☆自分たちが廊下を走っている原因を考えさせ、安全に廊下歩行するための手立てを考えさせる。 ◇話合いに意欲的に参加している。 (主体的に学習に取り組む態度) ◇グループで話し合ったことを基に、自分が実践できそうだと思うものを学習カードに記入している。 (思考・判断・表現) ◇自分で選んだ方法について、その理由を明確にして学習カードにまとめている。 (思考・判断・表現)
事後	○自分の廊下歩行を振り返り、友達と実践を伝え合う。	☆実践を伝えあうことにより、さらに自分の実態に即した方法があれば、取り入れてみるように助言する。 ◇安全な廊下歩行のために自分ができる解決策を、見直している。 (思考・判断・表現)

8 本時の展開（1／1時）

(1) ねらい

「廊下は走らない」という学校の規律について考え、自己の課題を見付けるとともに、自分が実践できる解決策を考えることができるようにする。

(2) 展開

○学習活動	◎指導上の留意点 ◇評価 ☆安全教育の視点に立った留意点
①算数「ぼうグラフと表」の学習を振り返る。 ・場所によって、けがの種類が違った。 ・けがの原因も違った。 ・安全に生活するためには、歩くことが大切だと意見が出てきた。	☆算数の学習を基に、校内で安全な生活をするためのポイントを振り返る。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block; margin-left: 20px;">手立て(1)</div>
②本時の学習課題を知る。	
めあて なぜ人は廊下を走ってしまうのか、また自分が走らないために工夫できることは何かを考えよう。	
③「なぜ廊下を走ってしまうのか」という課題について、自己を振り返り、ワークシートに記入する。 ・あまり意識せずに走っている。	☆「廊下は走らない」という規律がある理由について確認した後、よくないと分かっているのに、なぜ自分は走ってしまうのか原因を考えさせる。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block; margin-left: 20px;">手立て(2)</div>

<ul style="list-style-type: none"> ・ちょっとならいい気がしてしまう。 ・みんな走っているし、いいかなと思う。 <p>④自分が走ってしまう原因を踏まえ、どうしたら走らないようになるかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何か「走っちゃだめだ」と分かるものが廊下にあるといい気がする。 ・時間に余裕をもって行動したらいい。 ・資料にあったように、コーンを置いてみるといいかな。 ・コーンを置くだけじゃ、自分が意識しないと走ってしまいそう。 ・呼びかけてくれる人がいたら、歩くように意識ができる気がする。でも、それだと人任せになってしまうな。 	<p>◎廊下を走ることで、けがにつながることを確認する。</p> <p>☆「廊下は走りたくなる場所である」という資料を提示し、グループで自由に話をさせ、原因にあった対応策を考えられるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">手立て(3)</div> <p>◇話合いに意欲的に参加している。 (主体的に学習に取り組む態度)【発言】</p> <p>☆他の学校での取り組みを紹介し、自分たちにできそうなものを考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px auto;"> <ul style="list-style-type: none"> ・廊下の真ん中にコーンを置く →コーンに各学級が考えた標語を貼る ・モデルになったつもりで歩く ・ぶつかりやすい曲がり角では手を出して合図するようにする </div> <p>◎必要に応じて、紹介事例のように生活委員会等と連携できることも伝える。</p> <p>◎グループで話すことで、「誰かにやってもらう」ではなく「自分たちに実践できること」を考えられるようにする。</p> <p>◇グループで話し合ったことを基に、自分が実践できそうだと思うものを学習カードに記入している。 (思考・判断・表現)【学習カード】</p>
<p>⑤考えた方法の中から、自分が廊下を走らないために、取り組んでみたい改善策を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・廊下の曲がり角で手を出してみよう。走ると手をぶつけそうだし、歩くのがよさそう。 ・学校全体に働きかけるのは難しそうだから、まずは自分でモデル歩きをしてみようかな。 <p>⑥学習のまとめをする。</p>	<p>☆適切に改善方法を選べるように「自分が廊下を歩くため」の改善策であると意識させる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">手立て(4)</div> <p>◇自分で選んだ方法について、その理由を明確にして学習カードにまとめている。 (思考・判断・表現)【学習カード】</p>

9 授業観察の視点

- ・自分が廊下を走ってしまう原因を児童に考えさせることで、児童は自分が廊下を走らないようにするための改善策を、選んだ理由を明確にして意思決定できていたか。
- ・廊下を走ってしまう原因や改善策のスライドを提示することで、児童は自分の廊下歩行を振り返ったり、自分に実行可能な取り組みを考えたりすることができていたか。

第3学年 特別活動（生活安全）学級活動（2）ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成
校内の安全な行動について考えよう

場 所 3年2組教室

対 象 第3学年2組 34名

指導者 関口 慎一

1 学級活動（2）で育成を目指す資質・能力

学校生活の中でけがをした経験を振り返り、安全に対する適切な行動の仕方を考え、実践できるようにする。

2 学習指導要領との関連

特別活動 学級活動 内容（2）

ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成

現在および生涯にわたって心身の健康を保持増進することや、事件や事故、災害等から身を守り安全に行動すること。

3 題材（単元）について

（1）児童の実態

本学級の児童は、体育の授業や休み時間はとても元気よく活動している。ただ、校庭で鬼ごっこをするときや、人の多い廊下に出るとき等、周りを見ずに走って転んだり、前を見ずに歩き、周りの人にぶつかったりすることがある。このことから自分の行動がけがにつながりかねないことに意識が向かない児童が一定数いることが分かる。

毎月の安全指導や日々の学級の指導の中で、廊下をふざけて歩かないことや教室で走ってはいけないこと等、繰り返し指導しているが、実際には、行動が伴わず結果的にルールを守れない児童がいる。そこで、安全な行動の仕方について改めて振り返り、どのように行動することが、安全でけがのない生活につながるのか考えていく。

（2）題材設定の理由

算数科「ぼうグラフと表」で、異なる2種類のことを表や棒グラフにまとめる学習を行った。本単元では、その学習を生かし、本学級の児童が起こすけがの場所と種類を2次元表にまとめることで、けがが身の回りに多くあることを意識させる。そして、自分のけがの体験を振り返り、その原因を踏まえて、どのように行動すればけがを減らすことができるかについて考えさせる。

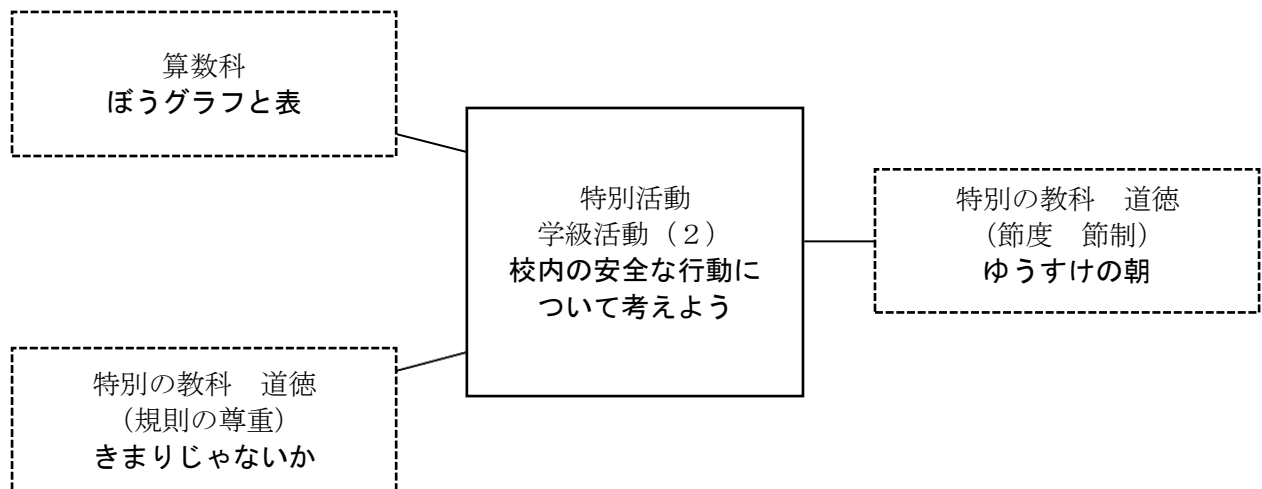
本学級では、特に「校庭」「教室」「廊下」で「すりきず」や「打撲」をする児童が多いため、本時ではこの中で「校庭でのすりきず」と「教室での打撲」に焦点を当てる。そして、なぜその場所でけがが多いのかについて十分に考えさせる時間を取り、どうすればけがを防ぐことができるのか皆で話し合う。

その後、けがをしないために気を付けて生活する期間を設け、自分が決めたことが実際にできたかを振り返り、学習で意識した自分の行動のよさについて実感させる。

4 評価規準

観点	よりよい生活を送るための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
評価規準	日常の生活への自己の適応に関する諸課題の改善に向けて取り組むことの意義を理解し、よりよい生活を送るための知識や行動の仕方を身に付けている。	日常生活への自己の適応に関する諸問題に気付き、解決方法などについて話し合い、自分に合ったよりよい解決方法を意思決定して実践している。	自己の生活をよりよくするために、見通しをもったり振り返ったりしながら、意欲的に課題解決に取り組み、他者と協力し合っよりよい人間関係を形成しようとしている。

5 他教科等との関連



6 安全教育の視点に迫るための手立て

児童がけがの場面を理解し、自分事として考えることができる手立て

- (1) 保健室の資料を活用して、3年2組のけがの様子を2次元表にまとめることで、学級全体でどの場所でどのようなけがが多いのかを実感させる。

けがの原因を理解するための手立て

- (2) 廊下を走る場面や校庭で周りを見ずに遊ぶ場面の動画を見て、どのような行動をしたときに、けがが起これるかを想像させる。

児童が学校生活の安全のためにどのような行動が必要かを意思決定できるようにするための手立て

- (3) けがが多い「校庭のすりきず」や「教室の打撲」に焦点を当て、なぜその場所にけがが多いのか考えられるようにする。
- (4) ふざけたり、不注意な行動をしたりする理由を考えさせることで、自分の今までの行動を深く振り返り、これからの学校生活に生かせるようにする。

7 指導計画（全3時間 算数科1時間 学級活動2時間）

時	○主な学習活動	◎指導上の留意点 ◇評価 ☆安全教育の視点に立った留意点
1 算数科	○自分がけがをした状況を振り返り、校内における安全な生活に関心をもつ。 ○3年2組のけがの種類と場所を2次元表にまとめ、課題を見付ける。	☆校内のけがの状況を2次元表にまとめ、どの場所でどのようなけがが多いのかについて気付かせる。 ◇けがの種類と場所を2次元表にまとめている。 (知識・技能)
2 学活 ① 本時	○自分の経験や2次元表から、けがの原因を考える。 ○けがをしないためにどのように行動すればよいかを話し合う。	◎けがの原因を2次元表から考えさせる。 ◇話合いに意欲的に参加している。 (主体的に学習に取り組む態度) ☆2次元表から校内のけがの実態を分析し、けがをしないためにはどのように行動するのがよいのかを考えさせる。 ◇どのように行動すれば、けがを防ぐことができるかを考えている。(思考・判断・表現)
3 学活 ②	○前回の学習で自分が決めた行動ができてきているかを確認する。 ○安全を意識した行動をすることで、けがの発生の件数がどう変化したのかについてまとめる。	☆前時の学習を振り返り、どのような行動ができたかを発表し共有をする。 ◇前回の学習を振り返り、自分がしようと決めた行動のよさについて考えている。 (思考・判断・表現)

8 本時の展開（1/2時）

(1) ねらい

校内でけがをしないためには、どのようなことに気を付けて行動すればよいかを考えることができるようにする。

(2) 展開

○学習活動	◎指導上の留意点 ◇評価 ☆安全教育の視点に立った留意点
①自分がどこでどのようなけがをしたのかを振り返る。 ・校庭で転んでけがをしたことがある。 ・廊下でぶつかってけがをした。	☆自分がけがをした状況を思い出し、身近にある出来事として関心を高めさせる。
②3年2組がしたけがの実態を2次元表から確認する。 ・校庭ですりきずをしている人がとても多い。 ・教室で打撲をしている人がいる。 ・廊下でけがをしている人が多い。	☆前時に作成した2次元表を提示し、どこでどのようなけがをしている人が多いのかを確認する。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block; margin-top: 10px;">手立て(1)</div>
めあて 学校でけがをしないために、どうすればよいか考えよう。	
③「校庭ですりきず」をしたり「教室で打撲」したりする原因を考えてワークシートに書いて話し合う。 「校庭のすりきず」 ・鬼ごっこのときにふざけて、前を見ずに走ってぶつかっていた。	☆「校庭ですりきず」と「教室で打撲」に焦点を当て考えさせる。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block; margin-top: 10px;">手立て(3)</div> ◎「校庭」と「教室」でけがの種類が異なることを気付かせ、どのような原因でけがをする

<ul style="list-style-type: none"> ・鉄棒から落ちてすりむいた。 「教室の打撲」 ・教室で鬼ごっこをして机にぶつかった。 ・いすにふざけて座って転んだ。 <p>④なぜ、ふざけたり、不注意な行動をしたりしてしまうのか考え、発表をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽しむ気持ちが強くあって、そこまで考えることができない。 ・時間がなくて急いでいるから。 ・つい忘れてしまう。 <p>⑤④で考えたことを基に、けがを防ぐにはどうすればよいか考えて班で話し合い発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校庭で鬼ごっこをするときは周りをよく見る。 ・教室から廊下に出るときは飛び出さないようにする。 ・友だちの行動があぶないと思ったら声をかける。 ・合言葉を決めて皆によびかける。 	<p>のかを考えさせる。</p> <p>☆廊下を走る場面や、校庭で周りを見ずに遊ぶ場面の動画を記録して見せる。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content; margin-left: auto; margin-right: auto;">手立て(2)</div> <p>◎学級内に、同じような気持ちになった児童がいることを確認して、皆に共通の課題があることを実感させる。</p> <p>☆ふざけたり、不注意な行動をしたりする理由を考えさせ、危険な行動の見直しをさせる。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content; margin-left: auto; margin-right: auto;">手立て(4)</div> <p>☆学校で安全に過ごすために、どのような行動をすればよいか考えさせる。</p> <p>◇話し合いに意欲的に参加している。 (主体的に学習に取り組む態度) 【発言】</p> <p>◎「校庭ですりきず」「教室で打撲」について班ごとにけがを防ぐ方法を話し合い、発表させる。</p> <p>◇どのように行動すれば、けがを防ぐことができるかを考えている。 (思考・判断・表現) 【ワークシート】</p>
<p>⑥自分がこれから取り組むことを決めてワークシートに書く。</p>	<p>◎ワークシートに記入したことを、クラスで確認する。</p>

9 授業観察の視点

- ・自分の経験や2次元表、動画からけがの原因を考えることは、けがをしない行動を考える上で有効であったか。
- ・自分がけがをしたときのことを振り返り、今後どのように行動すればよいかについて考え、意思決定することは、けがを防ぐ意識を高めるために有効であったか。

第3学年 特別活動（生活安全）学級活動（2）イ よりよい人間関係の形成

「心の距離感」について考えよう<生命（いのち）の安全教育>

場 所 3年3組教室

対 象 第3学年3組 33名

指導者 次藤 謙之介

1 学級活動（2）で育成を目指す資質・能力

- ・ 自己の生活上の課題に気づき、考えたり話し合ったりすること等から得られる多様な意見を基に、自ら解決方法を意思決定することができるようにする。
- ・ 自己の生活をよりよくするために、他者を尊重してよりよい人間関係を形成する態度を養えるようにする。

2 学習指導要領との関連

特別活動 学級活動 内容（2）

イ よりよい人間関係の形成

学級や学校の生活において互いのよさを見付け、違いを尊重し合い、仲よくしたり信頼し合ったりして生活すること。

<生命（いのち）の安全教育の目標>

生命の尊さを学び、性暴力の根底にある誤った認識や行動、また、性暴力が及ぼす影響等を正しく理解した上で、生命を大切に考える考えや、自分や相手、一人一人を尊重する態度等を発達段階に応じて身に付けることを目指す。

<中学年のねらい>*「生命（いのち）の安全教育 指導の手引き」を参考に、本校において独自に設定。

「心の距離感」について、自分や相手の生命や体を大切に、相手の気持ちを考えて関わっていけるような態度を身に付け、行動できるようにする。

3 題材（単元）について

（1）児童の実態

本学級では、休み時間や給食準備中等、児童同士がちょっかいを出したり出されたりして訴えてくることがよくある。具体的には、「体育着の着替えを見られた」「鬼ごっこでタッチの時押された」「体に触ってきた」「急に腕を捕まれた」等である。その際、自分ではどうしてよいのか分からず、教師に相談に来て解決してもらおうとする児童が多かった。

最近では、「放課後、遊ぶ約束をしたのに来なかった」「誘ったのに断られてけんかになった」等、友達同士の「心の距離感」に関するトラブルも増えてきている。しかし、そんな時、話しかけても反応がないからとすぐ諦めてしまい、自分の力で解決しようとする児童はほとんどいない。そのため、不安な気持ちをもったまま過ごす場合が多いと思われる。

（2）題材設定の理由

内閣府・文部科学省が連携し、令和3年4月に発達段階に応じた「生命（いのち）の安全教育」教材及び指導の手引きが作成され、さらに、「令和5年度においては、これらの取組の一層の強化を通じ、生命（いのち）の安全教育の全国展開の加速化を図る。」と、文部科学省からの通達があった。

そこでまず、1学期に、プライベートゾーンの大切さや、自分の体を見られたり触られたり

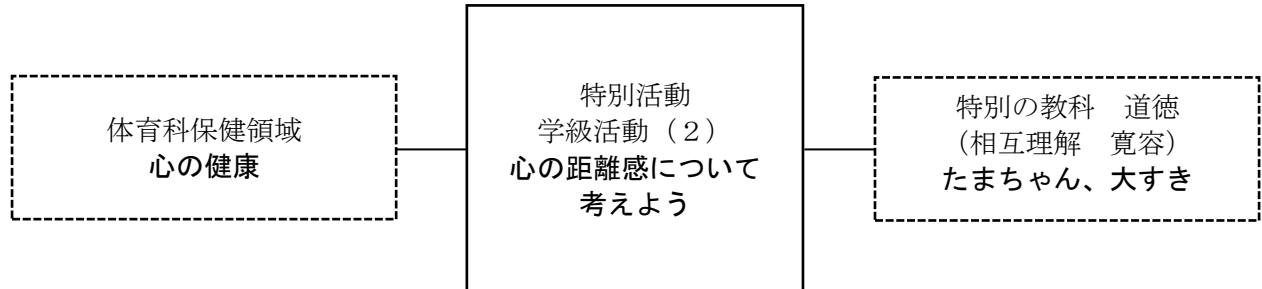
して嫌な気持ちになったときの身の守り方を考える学習を行った。そこで児童は、友達同士の触れ合いでも嫌だと感じることもあり、感じ方は人それぞれであることに気付いた。そして、嫌な気持ちになったときは、相手に伝えたり家族や先生等の身近な大人に相談したりすればよいことを学んだ。

本単元では、1学期の振り返りに加えて、新たに「心の距離感」について学習する。本来ならば高学年で扱うべき内容の「心の距離感」であるが、児童の実態を踏まえた上で、他者とどう関わったらよいのかを考え、判断し、行動できるようにさせるとともに、自分で解決しようとする気持ちをもたせることが大切だと考え、あえて中学年で取り上げることにした。児童は、事例について考えたり、友達と話し合ったりする活動を通して、人によって感じ方が違うことや、どうやって距離感を保っていったらよいのか考えを深める。そして、実際の場面において、解決に向けてどう相手に伝えたらよいのかについて考えていく。

4 評価規準

観点	よりよい生活を送るための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
評価規準	日常生活への自己の適応に関する諸課題の改善に向けて取り組むことの意義を理解し、よりよい生活を送るための知識や行動の仕方を身に付けている。	日常生活への自己の適応に関する諸問題に気付き、解決方法などについて話し合い、自分に合ったよりよい解決方法を意思決定して実践している。	自己の生活をよりよくするために、見通しをもったり振り返ったりしながら、意欲的に課題解決に取り組み、他者と協力し合ってよりよい人間関係を形成しようとしている。

5 他教科等との関連



6 安全教育の視点に迫るための手立て

友達や他人との身体や心の距離感を感じる場面を、自分事として捉えるための手立て

(1) 事前の朝学習の時間に、「友達や他人とのことで、嫌でもないけれど気になること」についてアンケートを行う。その結果を紹介したり、具体的な場面の映像を見せたりすることにより、今まで経験したことや経験しそうなことを思い出したりイメージしたりできるようにする。

(2) Google Jamboard を活用することにより、様々な友達の考えを素早く共有できるようにする。

感じ方が人によって違うことを理解するための手立て

(3) 共通の事例について考えることや、視点を示して友達の考えを聞かせ、班で話し合うことにより、自分との共通点や違いを明確にさせる。

自分と他者との心の距離感をどう保っていくのか意思決定をすることができる手立て

(4) 心の距離感について人による感じ方の違いやどう保つかを、話し合いや全体で共有することにより、多様な考えを導き出せるようにし、意思決定の参考にする。

7 指導計画（全1時間）

時	○主な学習活動	◎指導上の留意点 ◇評価 ☆安全教育の視点に立った留意点
事前	○アンケートに記入する。	☆「友達や他人とのことで、嫌でもないけれど気になること」についてアンケートをとり、児童が気にしていることを把握する。 ◇他者のことで気になることを進んで振り返ろうとしている。 (主体的に学習に取り組む態度)
1本時	○1学期に学習した、「自分や他人の体は大切なものであり、どう対応すればよいのか」を振り返る。 ○体や心の距離感の意味について知り、自分の経験を振り返って、距離感について保つ方法を考えたり話し合ったりする。	◎1学期に学習した資料を示す。 ☆「プライベートゾーン」も確認する。 ◎事例を決めて少人数で話し合わせる。 ☆「距離感」は映像や児童のアンケート結果から説明する。 ◇心の距離感について自他の考えを知り、どう保っていけばよいのか考えている。 (思考・判断・表現)
事後	○心の距離感を保っているか振り返り、友達と実践を伝え合う。	☆実践を伝えあうことにより、自分に合った方法があれば、これからの生活に生かしていくように助言する。 ◇心の距離感を保つための行動の仕方を理解している。 (知識・技能)

8 本時の展開（1／1時）

(1) ねらい

心の距離感について自他の考えを知り、どう保っていけばよいのか考えることができるようにする。

(2) 展開

○学習活動	◎指導上の留意点 ◇評価 ☆安全教育の視点に立った留意点
①自分や他人の体は大切なものであることを振り返る。 ②心の距離感の意味について知る。	◎以前学習した資料を示す。 ☆「プライベートゾーン」も確認する。 ☆動画とアンケート結果で意味と具体例を示す。 めあて 自分と他の人との、心の「距離感」について考えよう。
③心の距離感について自分の経験を振り返り、共有する。 ・放課後、公園で遊ぼうって誘われたけれど、行きたくなかった。 ・休みの日に、家でゲームをしようって誘ったけれど、断られて嫌だった。	◎Google Jamboardに入力させる。 ◎振り返りやすいように、具体的な場面を伝える。 ・時 (例 休み時間、放課後、休みの日) ・場所 (例 公園、友達の家) ・事柄 (例 「～しよう」、遊びの約束) ☆大型提示装置に Google Jamboard を映して共有させる。 手立て(2)

<p>④事例について自分の考えを書く。</p> <p>(1) 自分が誘われる事例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私は嫌だ。 ・私は断る。 ・ぼくは行く。 <p>(2) 自分が誘って断られる事例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私は平気。 ・とても嫌な気持ちになる。 <p>⑤友達と感想を伝え合い、発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分と同じ考えの人がいてほっとした。 ・～さんが自分と違っていてびっくりした。 ・人によって感じ方が色々で、みんな自分と同じだと思っていたから驚いた。 <p>⑥心の距離感を保つための方法を考えて、発表する。</p> <p>(1) ・行きたくない時は断る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・好きな友達なら行く。 <p>(2) ・別に気にしない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がっかりする。 	<p>◎全体で考える事例を2つ伝え、自分の考えと比べやすくする。</p> <p>◎事例を分かりやすくするため、再現した映像を流す。</p> <p>◎ワークシートに書かせる。</p> <p>◎4～5人班で話し合わせる。</p> <p>☆友達の話聞く時、次の視点を意識して話し合わせる。</p> <p>手立て(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分と同じか違うか、どう違うか、それをどう思うか。 <p>☆自分と他の人では、感じ方が違うことを確認する。</p> <p>手立て(4)</p> <p>◎2つの事例について考えさせる。</p> <p>☆嫌ならば断っていいこと、断られたら相手の気持ちを理解することを、映像も用いて確認する。</p> <p>☆実際の場面での伝え方についても、具体的に確認する。</p>
<p>⑦学習感想を書く。</p>	<p>◇心の距離感について自他の考えを知り、どう保っていけばよいのか考えている。</p> <p>(思考・判断・表現) 【ワークシート】</p>

※動画…文部科学省 生命 (いのち) の安全教育教材・指導の手引き 小学校向け 動画教材より

9 授業観察の視点

- ・今まで経験したことや経験しそうなことを思い出したりイメージしたりできるようにするために、アンケート結果を紹介したり動画を見せたりすることは有効であったか。
- ・友達の様々な考えを早く知るために、Google Jamboardを活用することは有効であったか。
- ・「距離感」に対する自分と友達との共通点や違いに気付かせるために、共通の事例について考えさせたり、視点を明確にして話し合いをさせたりすることは有効であったか。

第4学年 社会科（災害安全）

自然災害から人々を守る

場 所	4年1組教室	4年2組教室
対 象	第4学年1組	27名
	2組	28名
指導者	1組 市川 恵理子	
	2組 安部 久美子	

1 単元的目標

自然災害から人々を守る活動について、過去に地域で発生した自然災害と人々の活動を関連付けて考え、表現することを通して、関係機関の人々は今後想定される自然災害に対して様々な備えをしていることを理解できるようにするとともに、地域社会の一員として防災・減災に向けてできることを実践しようとする態度を養う。

2 学習指導要領との関連

社会科 内容（3）

ア(ア)地域の関係機関や人々は、自然災害に対し、様々な協力をして対処してきたことや、今後想定される災害に対し、様々な備えをしていることを理解すること。

(イ)聞き取り調査をしたり地図や年表などの資料で調べたりして、まとめること。

イ(ア)過去に発生した地域の自然災害、関係機関との協力などに着目して、災害から人々を守る活動を捉え、その働きを考え、表現すること。

3 題材（単元）について

(1) 児童の実態

これまでの学習を通して、出合った社会事現象ら気付きや疑問をもち、それを話し合いながら学習問題を見いだすことができるようになってきている。地震は、多くの児童が経験したことがあるため、身近なこととして捉えることができ、毎月の避難訓練の振り返りでは、避難の仕方がよく分かったと答える児童が9割となっている。しかし、児童は、平成25年生まれのため実際に起きた大きな地震で被災した経験はない。そのため、児童が自分事として捉え主体的に考えられるように映像や写真、実際に体験して考えられる活動を取り入れながら学習していくようにする。3年生では、交通事故や火災発生時には、警察や消防の協力体制のもと組織的な活動によって支えられていることを学んでいるため、その理解をもとに、地震災害発生時にも地域や区、都の協力やつながりをもとに自分たちの命や暮らしが守られていることに気付かせたい。

(2) 題材設定の理由

学習指導要領において、「カリキュラム・マネジメント」が規定され、安全に関する指導については、各教科においてそれぞれの特質に応じて適切に行うように努めることとしている。さらに、「『生きる力』をはぐくむ学校での安全教育」では、安全教育の内容として「学校における安全教育は、児童生徒等が安全に関する資質・能力を教科横断的な視点で確実に育むことができるよう、自助、共助、公助の視点を適切に取り入れながら、地域の特性や児童生徒等の実情に応じて各教科等の安全に関する内容のつながりを整理し教育課程を編成することが重要である」と示されている。そのため、社会科「自然災害から人々を守る」において、過去に東京都で発生した地震災害、関係機関との連携等に着目して、聞き取り調査をしたり資料で調べ

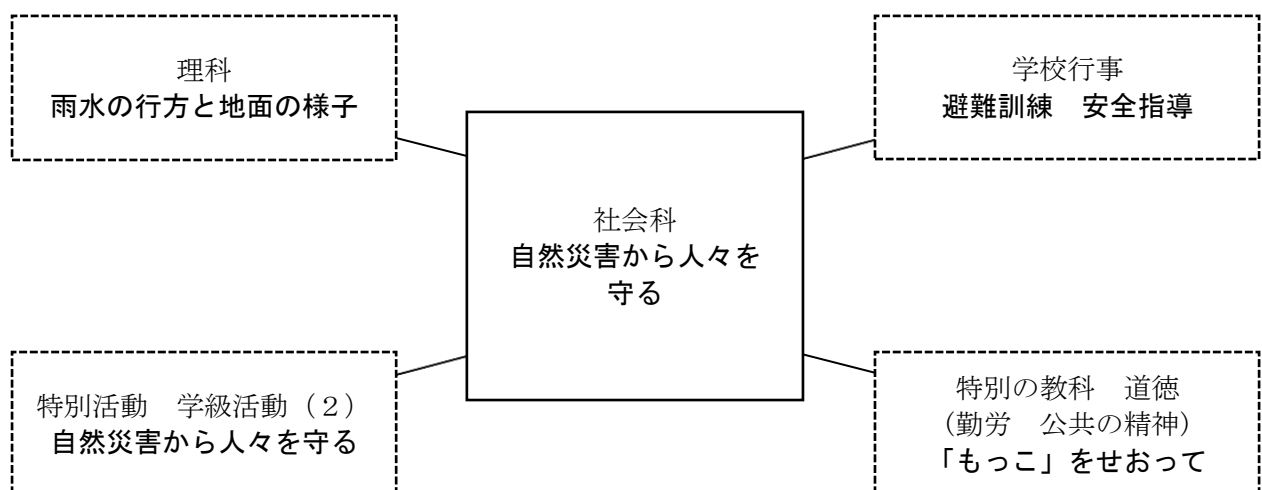
たりする学習を通して、関係機関や地域の人々は地震災害に対し様々な協力をして対処してきたことや、今後想定される自然災害に対して様々な備えをしていることを理解できるようにする。学級活動では、社会科の学習を通して見いだした課題から、人々の命や生活を守る働きの大切さを考えたり、自分たちにできることを選択・判断したりして、適切に表現できる力も養えるようにする。そのために、避難生活の様子映像資料等を活用して、地域の災害リスクを具体的に想像できるようにする。

本単元の導入では、過去に東京都で発生した地震災害の資料を見て、気付きや疑問を出し合う。そして、地震が起きた時に気掛かりなことを出し合い、そこから、知りたいことや調べたいことを考え、学習問題をつくる。次に地震から人々の命や暮らしを守るための備えを、家庭、学校から区、都という順序で視野を広げながら学習を進めていく。区や都の取り組みを学習する際は、葛飾区の防災課の方に学校へ来ていただき、葛飾区の施策や取り組みの学習、防災グッズの実技演習を行う。社会科、学級活動それぞれの教科・領域で学んだ知識・技能が実生活において活用できるようにこのような単元設定をした。今後起こり得る地震に対して今の自分ができることを地域社会の一員として選択・判断することができるようにしていきたい。

4 評価規準

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	<p>地域の関係機関や人々は、自然災害に対し、様々な協力をして対処してきたことや、今後想定される災害に対し、様々な備えをしていることを理解している。</p> <p>聞き取り調査をしたり、地図や年表などの資料で調べたりしてまとめている。</p>	<p>過去に発生した地域の自然災害、関係機関の協力などに着目して、災害から人々を守る活動を捉え、その働きを考え、表現している。</p>	<p>自然災害から人々を守る活動について、主体的に問題解決しようとしたり、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとしたりしている。</p>

5 他教科等との関連



6 安全教育の視点に迫るための手立て

児童が地震災害をイメージし、自分事として考えることができる手立て

- (1) 児童は被災体験がないため、自然災害を自分事として捉えることは難しいと考えられる。よって、地図や地域の写真、映像資料等の視覚教材を使って、災害発生時の様子を具体的に想像することができるようにした。「もしも自分の身に起こったら」と具体的に想像させながら資料を読み取らせる活動を通して、より主体的に自らの安全な行動をとることを実現しようとする態度を育成することをねらいとしている。

関係機関が人々の命や暮らしを守るための備えをしていることを理解するための手立て

- (2) 災害発生時に備え、地域の人々や区、都が行っている取り組みについて調べ、それぞれの関係機関が災害に対して連携・協力している様子や被害を防ぐために事前、事後の対策をとっていることに気付かせる。そのために、地域防災課の方々に協力してもらい、実際の備蓄品や様々な取り組みを知ることによって自助だけでなく、共助・公助の視点からも考えられるようにする。

児童が安全確保のために何が必要なのかを考え、適切に意思決定することができる手立て

- (3) 葛飾区は昔、海の底にあり、軟らかい土砂が厚く堆積したため、非常に軟らかい地盤となっている。また、荒川沿岸には木造住宅が密集していることから、荒川沿岸では、地震が発生すると延焼火災の危険が高くなると考えられているが、東京湾の地形上、津波による被害は想定されていない。これらのことから、児童が地域の地震災害のリスクを踏まえて、必要な情報を収集し、安全な生活を実現するために何が必要かを考えられるように、『わたしたちの便利帳 葛飾暮らしのガイドブック』から、「葛飾区防災ガイド 地震災害編」「地震発生時の避難行動フロー図」「金町地区防災マップ」を取り入れる。災害を身近に感じさせることで、将来的に児童が資料を活用し、安全な行動ができるようにする。

7 指導計画（全10時間 社会科8時間 学級活動2時間）

4年1組 第5時 4年2組 第3時

時	○主な学習活動	◎指導上の留意点 ◇評価 ☆安全教育の視点に立った留意点
1 社会科	[本時の問い]過去に日本ではどのような地震が発生してきたのだろうか。 ○近年発生した地震に関する地図や写真を整理する。	◎過去に東京都で発生した地震災害の資料を準備し、地震災害の規模・発生日時・場所・被害数に着目させる。 ◇過去の地震について調べ、地形や日時によって被害の様子が違うことを理解している。 (知識・技能) ☆自衛隊や警察、消防が協力して救助活動をしていることに気付かせる。
2	[めあて]地震が起きる前と起きた後でどのようなことをするのか予想し、学習問題を考えよう。 ○前時の学習から疑問に思ったことを整理し、学習問題をつくる。	◇大規模な地震から自分たちの命や生活を守る取り組みについての学習問題をつくり、表現している。 (思考・判断・表現) ☆学校で行われている避難訓練の時の教師の話を思い出させたり、家族で地震に備えて話し合ったりしていることを想起させ、次時につなげる。
	【学習問題】地震災害から私たちの命や暮らしを守るために、だれがどこで、どのような取り組みをしているのだろうか。	

3 二 組 本 時	<p>[本時の問い]家庭では、どのような備えをしているのだろうか。</p> <p>○家庭では地震に備えてどのような取り組みをしているのか話し合う。</p>	<p>☆あらかじめ宿題として家や地域で備えていることを調べさせる。</p> <p>☆家での地震発生の場面を想定し、自分に必要な非常持ち出し袋の中身を考えさせる。</p> <p>☆「起きる前の準備」と「起きた後の協力や対策」の2つに分類させることで、事前と事後の備えのどちらも必要で大切であるということに気付かせる。</p> <p>◇家庭では、起きる前の準備と起きてからの対策をしていることを理解している。</p> <p>(知識・技能)</p>
4	<p>[本時の問い]地域では、どのような備えをしているのだろうか。</p> <p>○地域では地震に備えてどのような取り組みをしているのか話し合う。</p>	<p>◇家庭と同じように地域でも地震に対する準備や対策をしていることを理解している。</p> <p>(知識・技能)</p> <p>☆家庭での取り組みと比較させ、共通点や相違点を考えさせることで、どちらも起きる前と起きた後の両方の取り組みをしていることや、規模が違うことに気付かせ、避難所となる学校の取り組みへとつなげさせる。</p> <p>☆自分の地域は自分で守るという共助の考えが大切であることに気付かせる。</p>
5 一 組 本 時	<p>[本時の問い]区役所は、避難所としての学校にどのような備えをしているのだろうか。</p> <p>○学校備蓄品の使い方を知り、体験したことを基に話し合う。</p>	<p>☆家庭で備蓄している食料の数や量を比較させることで、規模の大きさに気付かせる。</p> <p>☆実際に実物に触れて体験させる。</p> <p>☆区役所の方の話を聞いて、都と連携を図っていることに気付かせる。</p> <p>◇避難所となる学校では、たくさんの人が一時的に生活できるように備蓄品を保管し、区を中心に学校、地域の人たちと連携して対応できるような体制をとっていることを理解している。</p> <p>(知識・技能)</p>
6	<p>[本時の問い]東京都や区役所では、どのような取り組みをしているのだろうか。</p> <p>○都や区が進める大地震への対策について、具体例を見付けて調べ、分かったことや考えたことを話し合う。</p>	<p>☆区役所の方の話と防災会議を関連付け、災害に備えた都の取り組みを、児童に捉えさせる。</p> <p>◇地震の被害を防ぐ取り組みについて複数の資料から読み取り、今後の発生が想定される地震の被害を少なくするために、都や区が中心となって様々な対策や事業に取り組んでいることを理解している。</p> <p>(知識・技能)</p>
7 学 活 ①	<p>[めあて]避難所での生活で、自分には何ができるのか考えよう。</p>	<p>☆避難所生活では、自分たちも役割を担うことが必要だという意識をもたせる。</p> <p>◇避難所で自分にできることを、理由を付けて考えている。</p> <p>(思考・判断・表現)</p>
8	<p>[めあて]避難所シミュレーションをしよう。</p> <p>○水や電気等が使えないことを想定し、仮設トイレ、アルファ米を実際に作り、自分がやるべきこと、みんな</p>	<p>☆行政からの支援(公助)には、限界があり大きな災害時には、自分の命は自分で守る(自助)や、地域の人たちが助け合って地域を守る(共助)の精神が必要であることを押さえる。</p> <p>◇これまでの学習を基に、避難所では、いろい</p>

	<p>なで協力してやること、区のを借りること等、役割分担して取り組むことの大切さについて考える。</p>	<p>ろな立場の人たちと協力していくことや役割分担することが大切であることを理解している。 (知識・技能)</p>
9	<p>[めあて] 調べたことを基に地震とその取り組みについて整理し、まとめよう。 ○調べたことを表に整理し、地震への対策と自分たちとの生活の関わりについて考える。</p>	<p>☆自助・共助・公助の3つに分けて考えさせ、それぞれの役割の大切さを捉えさせる。 ◇これまでの学習を表に整理し、災害から人々の生活を守るために都や地域が対策を進めていることを理解している。(知識・技能) ◇地震の被害と自分たちの生活を関連付け、地震への対策の重要性や、地域の一人として取り組むべきことを考え、日常生活に生かそうとしている。 (主体的に学習に取り組む態度)</p>
10 学 活 ②	<p>[めあて]地震が起こったら、自分たちの命を守るためにどのような行動をとったらよいか考えよう。</p>	<p>☆地震発生時における、安全確保の正しい知識を身に付けさせる。 ◎首都直下地震についての資料を提示する。 ◇地震発生時の行動について考え、具体的な自分のめあてを決めている。 (思考・判断・表現)</p>

8 本時の展開 (3/8時) <4年2組>

(1) ねらい

家庭では、地震に備えてどのような取り組みをしているのか調べて話し合い、理解できるようにする。

(2) 展開

○学習活動	◎指導上の留意点 ◇評価 ☆安全教育の視点に立った留意点
<p>①家庭では地震に備えてどのようなことをしているか振り返る。</p> <p>②本時の問いを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 問い 家庭では、どのようなそなえをしているのだろうか。 </div>	<p>◎それぞれの家庭で、実際にどのような備えをしているのか、事前に調べてくる。</p> <p>☆家庭での備えに関する写真(水、食料、転倒防止グッズ等)を提示する。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block;"> 手立て(1) </div>
<p>③家庭では、なぜそのような備えをしているのかを予想する。</p> <p>④家庭で備えていることを、地震が「起きる前の準備」と「起きた後の協力や対策」の2つに分けて分類する。</p> <p>⑤自分の非常持ち出し袋の中身を考える。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 非常持ち出し袋に入れる物は5つで、優先順位をつけて考える。 </div> <p>⑥自分で考えた非常持ち出し袋の中身を基に、グループで話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・薬を飲む必要があるから、薬を入れた。 ・情報を集めるために携帯ラジオが必要だ。 <p>⑦インタビュー映像を見て、家庭での備えだけでは足りないことを知る。</p>	<p>☆それぞれ家庭で調べてきたことを基に、実物や写真を用意し、予想しやすいようにする。</p> <p>☆「起きる前の準備」と「起きた後の対策」の2つに分類することで、どちらも大切であるということに気付かせる。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block;"> 手立て(3) </div> <p>◎非常持ち出し袋の実物を提示する。</p> <p>☆葛飾区防災ガイド 避難行動フロー図を提示する。</p> <p>☆大きな地震が起き、1人1つ非常持ち出し袋を持ち、避難するという想定で考えさせる。</p> <p>☆必要最低限の物のみ、持てる重さを非常持ち出し袋の中に入れることを押さえる。</p> <p>☆それぞれの家庭や状況によって、必要な物が変わることを押さえる。</p> <p>☆話し合いでは、優先順位をつけた物の中から、1番必要だと考えた物を、理由と共に発表する。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block;"> 手立て(2) </div> <p>☆実際に被災経験がある人の話を聞くことで、自助の備えだけでなく、共助の支援が必要になることを押さえる。</p>
<p>⑧学習を振り返る。</p> <p>本時の学習感想や、今後自分がすべきことを考える。</p>	<p>◇家庭では、起きる前の準備と起きてからの対策をしていることを理解している。</p> <p>(知識・技能)【ワークシート・発言】</p>

9 授業観察の視点

- ・児童が家庭での備えについて事前に調べてくることは、災害時の備えを自分事として考えさせる上で有効であったか。
- ・優先順位をつけて考えることは、児童が避難する際に自分にとって何が重要になるのかを考えさせる上で有効であったか。

8 本時の展開(5/8時) <4年1組>

(1) ねらい

区役所は、地震発生時に備え、避難所となる学校にどのような備えをしているのかを調べ、備蓄品の使い方を知り、地域の人達と連携して対応できるような体制をとっていることを捉えることができるようにする。

(2) 展開

○学習活動・予想される児童の反応	◎指導上の留意点 ◇評価 ☆安全教育の視点に立った留意点
①災害時に、学校が避難所になった時のことを想像し、備蓄倉庫には何が入っているのかを予想させる。 ・非常食 ・簡易トイレ等 ②本時の問いを確認する。	☆地震発生時の避難行動フロー図、学校の備蓄品倉庫の写真を見せる。 ◎避難行動フロー図、学校の備蓄倉庫写真を提示する。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 2px; display: inline-block;">手立て(3)</div>
問い 区役所は、避難所となる学校にどのような備えをしているのだろうか。	
③備蓄倉庫の中にある物の使い方を知る。 ・水やビスケットは家庭よりも数が多い。 ・5年も保存できる。 ④地域防災課の本橋さんから、備蓄品の使い方を聞く。 ・簡易トイレってどうやって使うのだろう。 ⑤実際に、備蓄品の組み立てを見る。 ・マンホール用トイレ等の組み立て方 ⑥なぜこれらの物が準備されているのかを考える。 ・高齢者や体の不自由な人も生活できる。 ⑦自分の考えたことをもとに、グループで気が付いたことを話し合う。 ⑧地域防災課本橋さんから、学校は地域の防災拠点としての必要物資の提供、情報の収集・提供を行い、地域の人が主体となって行うことや、日頃からの備えの大切さについて聞く。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 2px; display: inline-block;">手立て(2)</div>	◎学校備蓄品標準一覧表を提示する。 ☆前時の家庭での備えと比べながら、備蓄倉庫の中にあるものでたくさんの人が生活することを確認する。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 2px; display: inline-block;">手立て(1)</div> ☆葛飾区の学校避難所設備動画を見る。 ☆学校が避難所になった際には、たくさんの人が一緒に生活すること、そのための備蓄品が準備されており、区や地域の方々が事前訓練を行っていることを知り、実際に使い方を見せる。 ◇避難所となる学校では、たくさんの人が一時的に生活できるように備蓄品を保管し、区を中心に学校、地域の人たちと連携して対応できるような体制をとっていることを理解している。 (知識・技能)【ワークシート・発言・観察】 ☆災害はいつ起こるか分からないことや、地域には幼児、高齢者、障がいのある方など、様々な人が生活しているため、災害の被害を減らすためには、国と都と区の協力による地震を想定した緊急時の連絡体制などの整備や救助計画、地域での防災訓練が大切であることを押さえる。
⑨本時の学習について、振り返りを書く。 ・自分が考えたこと、もっと調べたいことをノートに書く。	◎これからの生活に生かそうとする発言を発表させる。 ◇避難所の備蓄品は、いろいろ考えて準備されていることを理解している。 (知識・技能)【ワークシート・観察】

9 授業観察の視点

- ・写真や映像は、児童に避難生活を自分事として捉えさせる上で有効であったか。
- ・備蓄品の組み立て体験は、児童に避難生活を自分事として想像させる上で有効であったか。

第4学年 特別活動（災害安全）学級活動（2）ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成

自然災害から人々を守る

場 所 4年3組教室 4年4組教室

対 象 第4学年3組 28名

4組 28名

指導者 3組 鹿濱 優斗

4組 雁部 弥生

1 単元の目標

自然災害から人々を守る活動について、過去に地域で発生した自然災害と人々の活動を関連付けて考え、表現することを通して、関係機関の人々は今後想定される自然災害に対して様々な備えをしていることを理解できるようにするとともに、地域社会の一員として防災・減災に向けてできることを実践しようとする態度を養う。

2 学習指導要領との関連

特別活動 学級活動 内容(2)

ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成

現在および生涯にわたって心身の健康を保持増進することや、事件や事故、災害等から身を守り安全に行動すること。

3 題材（単元）について

(1) 児童の実態

本学年の児童は、普段の安全指導で、災害が起きた時の正しい行動を説明する等、自らの安全を守る方策を理解している。また、避難訓練において警告があったとき、素早く机の下にもぐる等、自らの安全を守るために行動して、避難することができる。しかし、児童は平成25年度生まれのため、東日本大震災を経験していない。また、ほぼ全員が本校学区内で生まれ育ったため、その他の自然災害によって被災した経験がない。そのため、避難所で集団生活をする際、児童自身がどのような役割を果たせばよいか分からない児童が多い。よって、既にもっている災害に関して学んだ知識を、実際に起きた時に安全な生活を実現するためにどのように生かすか考え、適切に意思決定し、行動することに課題がある。

(2) 題材設定の理由

学習指導要領において、「カリキュラム・マネジメント」が規定され、安全に関する指導については、各教科においてそれぞれの特質に応じて適切に行うように努めることとしている。さらに、「『生きる力』をはぐくむ学校での安全教育」では、安全教育の内容として「学校における安全教育は、児童生徒等が安全に関する資質・能力を教科横断的な視点で確実に育むことができるよう、自助、共助、公助の視点を取り入れながら、地域の特性や児童生徒等の実情に応じて各教科等の安全に関する内容のつながりを整理し教育課程を編成することが重要である」と示されている。

そのため、社会科「自然災害から人々を守る」において、過去に東京都で発生した地震災害、関係機関との連携等に注目して、聞き取り調査をしたり資料で調べたりする学習を通して、関係機関や地域の人々は地震災害に対し様々な協力をして対処してきたことや、今後想定される自然災害に対して様々な備えをしていることを理解できるようにする。

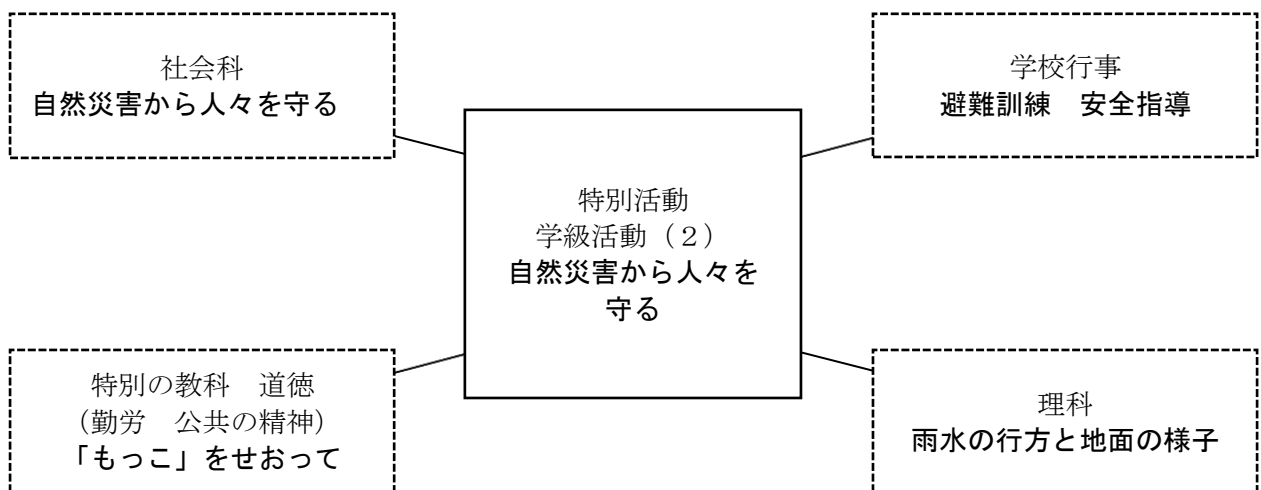
学級活動では、児童が身近な地域にも自然災害が起こり得ることを知ると「どのように備えればよいのだろうか」「どのような場所に避難したらよいのだろうか」という課題を見いだす

ことが予想される。そこで、自分や他の生命を尊重し、危険を予測し、事前に備える等日常生活を安全に保つために必要な事柄を理解しつつ、避難所での生活や、実際に自分のいた場所で地震が起こった時に必要な情報を自ら収集し、よりよく判断し行動できるように具体的な意思決定をさせる。また、学校行事の避難訓練と関連付けて、本当に避難が必要となきときに実践できるよう考えを深めさせたい。

4 評価規準

観点	よりよい生活を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
評価規準	日常生活への自己の適応に関する諸課題の改善に向けて取り組むことの意義を理解し、よりよい生活を送るための知識や行動の仕方を身に付けている。	日常生活への自己の適応に関する諸課題に気づき、解決方法等について話し合い、自分に合ったよりよい解決方法を意思決定して実践している。	自己の生活をよりよくするために、見通しをもったり振り返ったりしながら、意欲的に課題解決に取り組み、他者と協力し合っよりよい人間関係を形成しようとしている。

5 他教科等との関連



6 安全教育の視点に迫るための手立て

児童が地震災害をイメージし、自分事として考えることができる手立て

- (1) 児童は被災体験がないため、自然災害を自分事として捉えることは難しいと考えられる。よって、地域の方々が地震発生時に行動することを考えるために、地図や写真、映像資料等の視覚教材を使って、災害発生時の様子を具体的に想像することができるようにした。「自分の身に起こったら」と具体的に想像させながら資料を読み取らせる活動を通して、より主体的に自他の安全を実現しようとする態度を育成することをねらいとしている。

地震発生時やその後の安全な避難の仕方を理解するための手立て

- (2) 避難所で自分たちができることを考える手立てとして Google Jamboard を活用することで、自分では気が付かなかった意見を知り、実際の避難の際に役立てる。

児童が安全確保のために何が必要かを考え、適切に意思決定をすることができる手立て

- (3) 日常的に軽度な地震が多発している東京都では、震度7以上の地震が起きる可能性がある。よって、児童が防災リスクを踏まえて必要な情報を収集し、安全な生活を実現するために何が必要かを考え、適切に意思決定できるよう、授業で「地震が起きたと仮定した地図」を取り入れたり、グループでの話し合いを通して避難所での生活を想起させたりする。活動を通し

て、自分自身にも起こり得ることだと身近に感じさせることで、地震発生時における安全確保の正しい知識を学ばせ、将来的に児童が自身で安全な行動をとれるようにする。

7 指導計画（全10時間 社会科8時間 学級活動2時間）

4年3組 第7時 4年4組 第10時

時	○主な学習活動	◎指導上の留意点 ◇評価 ☆安全教育の視点に立った留意点
1 社会科	<p>[本時の問い]過去に日本ではどのような地震が発生してきたのだろうか。</p> <p>○近年発生した地震に関する地図や写真を整理する。</p>	<p>◎過去に東京都で発生した地震災害の資料を準備し、地震災害の規模・発生日時・場所・被害数に着目させる。</p> <p>◇過去の地震について調べ、地形や日時によって被害の様子が違うことを理解している。 (知識・技能)</p> <p>☆自衛隊や警察、消防が協力して救助活動をしていることに気付かせる。</p>
2	<p>[めあて]地震が起きる前と起きた後でどのようなことをするのか予想し、学習問題を考えよう。</p> <p>○前時の学習から疑問に思ったことを整理し、学習問題をつくる。</p>	<p>◇大規模な地震から自分たちの命や生活を守る取り組みについての学習問題をつくり、表現している。 (思考・判断・表現)</p> <p>☆学校で行われている避難訓練の時の教師の話を思い出させたり、家族で地震に備えて話し合ったりしていることを想起させ、次時につなげる。</p>
<p>【学習問題】地震災害から私たちの命や暮らしを守るために、だれがどこで、どのような取り組みをしているのだろうか。</p>		
3	<p>[本時の問い]家庭では、どのような備えをしているのだろうか。</p> <p>○家庭では地震に備えてどのような取り組みをしているのか話し合う。</p>	<p>☆あらかじめ宿題として家や地域で備えていることを調べさせる。</p> <p>☆家での地震発生場面を想定し、自分に必要な非常持ち出し袋の中身を考えさせる。</p> <p>☆「起きる前の準備」と「起きた後の協力や対策」の2つに分類させることで、事前と事後の備えのどちらも必要で大切であるということに気付かせる。</p> <p>◇家庭では、起きる前の準備と起きてからの対策をしていることを理解している。 (知識・技能)</p>
4	<p>[本時の問い]地域では、どのような備えをしているのだろうか。</p> <p>○地域では地震に備えてどのような取り組みをしているのか話し合う。</p>	<p>◇家庭と同じように地域でも地震に対する準備や対策をしていることを理解している。 (知識・技能)</p> <p>☆家庭での取り組みと比較させ、共通点や相違点を考えさせることで、どちらも起きる前と起きた後の両方の取り組みをしていることや、規模が違うことに気付かせ、避難所となる学校の取り組みへとつなげさせる。</p> <p>☆自分の地域は自分で守るという共助の考えが大切であることに気付かせる。</p>
5	<p>[本時の問い]区役所は、避難所としての学校にどのような備えをしているのだろうか。</p> <p>○学校備蓄品の使い方を知り、体験したことを基に話し合う。</p>	<p>☆家庭で備蓄している食料の数や量を比較させることで、規模の大きさに気付かせる。</p> <p>☆実際に実物に触れて体験させる。</p> <p>☆区役所の方の話を聞いて、都と連携を図っていることに気付かせる。</p>

		◇避難所となる学校では、たくさんの人が一時的に生活できるように備蓄品を保管し、区を中心に学校、地域の人たちと連携して対応できるような体制をとっていることを理解している。 (知識・技能)
6	[本時の問い]東京都や区役所では、どのような取り組みをしているのだろうか。 ○都や区が進める大地震への対策について、具体例を見つけて調べ、分かったことや考えたことを話し合う。	☆区役所の方の話と防災会議を関連付け、災害に備えた都の取り組みを、児童に捉えさせる。 ◇地震の被害を防ぐ取り組みについて複数の資料から読み取り、今後の発生が想定される地震の被害を少なくするために、都や区が中心となって様々な対策や事業に取り組んでいることを理解している。 (知識・技能)
7 学活 ① 三組 本時	[めあて]避難所での生活で、自分には何ができるのか考えよう。	☆避難所生活では、自分たちも役割を担うことが必要だという意識をもたせる。 ◇避難所で自分にできることを、理由を付けて考えている。 (思考・判断・表現)
8	[めあて]避難所シミュレーションをしよう。 ○水や電気等が使えないことを想定し、仮設トイレ、アルファ米を実際に作り、自分がやるべきこと、みんなで協力してやること、区の力を借りること等、役割分担して取り組むことの大切さについて考える。	☆行政からの支援(公助)には、限界があり大きな災害時には、自分の命は自分で守る(自助)や、地域の人たちが助け合って地域を守る(共助)の精神が必要であることを押さえる。 ◇これまでの学習を基に、避難所では、いろいろな立場の人たちと協力していくことや役割分担することが大切であることを理解している。 (知識・技能)
9	[めあて]調べたことを基に地震とその取り組みについて整理し、まとめよう。 ○調べたことを表に整理し、地震への対策と自分たちとの生活の関わりについて考える。	☆自助・共助・公助の3つに分けて考えさせ、それぞれの役割の大切さを捉えさせる。 ◇これまでの学習を表に整理し、災害から人々の生活を守るために都や地域が対策を進めていることを理解している。 (知識・技能) ◇地震の被害と自分たちの生活を関連付け、地震への対策の重要性や、地域の一人として取り組むべきことを考え、日常生活に生かそうとしている。 (主体的に学習に取り組む態度)
10 学活 ② 四組 本時	[めあて]地震が起こったら、自分たちの命を守るためにどのような行動をとったらよいか考えよう。	☆地震発生時における、安全確保の正しい知識を身に付けさせる。 ◎首都直下地震についての資料を提示する。 ◇地震発生時の行動について考え、具体的な自分のめあてを決めている。 (思考・判断・表現)

8 本時の展開（1 / 2時）＜4年3組＞

(1) ねらい

避難所生活で困ることを想像し、自分にできることを考え、表現できるようにする。

(2) 展開

○学習活動 ・ 予想される児童の反応	◎指導上の留意点 ◇評価 ☆安全教育の視点に立った留意点
①前時の振り返りをする。 「避難所生活で大切なことは何ですか。」 ・周りの人と一緒に過ごすので、他の人に迷惑をかけないようにする。 ・避難所にいる人で協力し、助け合う。 ②本時のめあてを確認する。	◎避難所での生活は、普段の生活とは違う点が多いことを捉える。
めあて ひなん所での生活で、自分には何ができるのか考えよう。	
③避難所での困ることについて思い付くことを発表する。 ・食べ物が少なく、食料不足になる。 ・自由に遊べる場所がない。 ・トイレが混み合う。 ④実際に避難した経験のある教員から、避難所での生活について話を聞く。 ⑤考えを深めるために動画を見る。 (避難所生活で不便だった体験) ⑥個人で、できることを考えてワークシートに書き入れる。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 2px; display: inline-block;">手立て(2)</div> ⑦自分たちができることを考え、グループで話し合い、Google Jamboardにまとめていく。 ・服を水洗いして繰り返し着る。 ・災害が起きる前に持ち出し袋に食料を多めに入れておく。 ・避難所内の掃除をする。	◎避難所生活に関係しないような意見でも、まずは意見を出させる。黒板に板書する。 ○児童の意見を「衣」「食」「住」の大きな3つのまとまりに分けて可視化する。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 2px; display: inline-block;">手立て(1)</div> ☆防災教育映像「避難所の利用マナーやルール」(出典:YouTube citykatsushikaチャンネル, 2021/04)を見せる。 ○動画を提示して、児童たちから出ない困ることを引き出す。 ☆避難所での生活には、自分たちも役割を担うことが必要だという意識をもたせる。 ◎グループ活動の終着点は、「3つのまとまりで、自分たちにできることを出す」こととする。また、理由付けもする。(15分程度) ◎3～4人グループで話し合い、自分たちの考えをまとめていく。 ◎グループのフレームを大型提示装置に映す。
⑧学習を振り返る。 ・振り返りをワークシートに書く。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 2px; display: inline-block;">手立て(3)</div>	◇避難所で自分にできることを、理由を付けて考えている。 (思考・判断・表現) 【ワークシート・観察】 ☆再度、避難所での生活には自分たちの協力が周囲の支えになることを確認する。

9 授業観察の視点

- ・避難所生活の写真や経験をした人の映像を見ることは、自分事として考えるために有効であったか。
- ・Google Jamboardを使うことは、自分たちにできることを共有するのに有効であったか。

8 本時の展開（2／2時）＜4年4組＞

(1) ねらい

地震が起きたときに、自分たちの命を守るためにどのような行動をとったらよいか具体的な行動を考えることができるようにする。

(2) 展開

○学習活動・予想される児童の反応	◎指導上の留意点 ◇評価 ☆安全教育の視点に立った留意点
<p>①これまで社会科で学んだ災害時に必要な自助、公助、共助について振り返る。</p> <p style="text-align: center;">手立て(1)</p> <p>②本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> めあて 地しんが起こったら、自分たちの命を守るために どのような行動をとったらよいか考えよう。 </div>	<p>☆各種資料から、東京都では、30年以内にM7以上の地震が起こると予測されていることを確認し、災害を自分事として捉えさせる。</p> <p>☆スライドを見て、場面を想定し、大地震の後、在宅避難することが多く、避難所に避難する人が少ないことや死者、けが人、家屋等に大きな被害が出ることを押さえる。</p> <p>◎社会科見学で訪れた「防災体験学習施設そなエリア東京」の動画を見せる。</p>
<p>③地震が起きたと仮定した地図を通して、屋内・屋外や乗り物ではどのような危険があるか考え、場所を選び、自分がどうするかをワークシートに記入する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 倒れてきそうな棚の近くを通らないようにする。 <p>④グループで意見を共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 乗り物でも前に飛び出さないように姿勢を低くして頭を守るんだ。 <p>⑤グループで出た意見を全体で発表し、共有する。</p> <p style="text-align: center;">手立て(3)</p>	<p>☆資料を通して、屋内にとどまる場合にもリスクが生じることを捉えさせる。</p> <p>◎消防庁防災マニュアル-震災対策啓発資料-(総務省消防庁)「防災地図」を掲示する。</p> <p>☆ライフラインが突然止まると、自分たちの暮らしがどうなるのか画像等を用いて目を向けさせていく。</p> <p>☆資料を通して、外出した時に発生するリスクを捉えさせる。</p> <p>◇身を守るための行動を自分事として捉え、命を守るためにどのような行動をとればよいか考えている。</p> <p style="text-align: right;">(思考・判断・表現) 【発言・観察】</p>
<p>⑥自分がいる場所で地震があったらどうするかについて学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 地震で、家の中の物が落ちたり倒れたりしそうだから離れて歩く。 机の下にもぐり、頭を守る行動をとる。 	<p>◎地震発生時に自分がどのように行動するか具体的なめあてや実践方法を決めさせる。</p> <p>◇地震発生時の行動について考え、具体的な自分のめあてを決めている。</p> <p style="text-align: right;">(思考・判断・表現) 【ワークシート・観察】</p>

9 授業観察の視点

- 写真や映像は、児童に自然災害を自分事として捉えさせる上で有効であったか。
- 地震が起きたと仮定した地図は、児童が災害リスクを踏まえて必要な情報を収集し、安全確保のために適切な意思決定をする上で有効であったか。

第5学年 特別活動（災害安全）学級活動（2）ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成
自然災害とともに生きる

場 所 5年1組教室
対 象 第5学年1組 34名
指導者 磯前 紘希

1 学級活動（2）で育成を目指す資質・能力

- ・日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全といった、自己の生活上の課題の改善に向けて取り組むことの意義を理解するとともに、そのために必要な知識や行動の仕方を身に付けるようにする。
- ・自己の生活上の課題に気づき、多様な意見を基に、自ら解決方法を意思決定することができるようにする。
- ・自己の生活をよりよくするために、他者と協働して自己の生活上の課題の解決に向けて粘り強く取り組んだり、他者を尊重してよりよい人間関係を形成しようとしたりする態度を養う。

2 学習指導要領との関連

特別活動 学級活動 内容（2）

ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成

現在及び生涯にわたって心身の健康を保持増進することや、事件や事故、災害等から身を守り安全に行動すること。

3 題材（単元）について

（1）児童の実態

本学級の児童は、理科「台風と防災」において、台風の進路による天気の変化や台風と降雨との関係及びそれに伴う自然災害について学習しており、事前アンケート「雨、風、雪による災害にどんな危険があるか分かり、適切な行動をすることができますか。」との問いに対して、94%の児童が「よくできる」「できる」と回答した。よって、台風に伴う自然災害発生の仕組みや災害から身を守るためにとるべき行動をおおむね理解していると言える。しかし、児童は平成24年度生まれのため、カスリーン台風や東日本大震災等の自然災害によって被災した経験がない。そのため、災害を自分事として捉えることに課題が残る。そこで、既にもっている災害に対する知識を地域の災害リスクと関連付け、安全な生活を実現するために何が必要かを考え、適切に意思決定し、行動する力を身に付けさせていきたい。

（2）題材設定の理由

『生きる力』をはぐくむ学校での安全教育では、教育課程における安全教育について「学校における安全教育は、児童生徒等が安全に関する資質・能力を教科等横断的な視点で確実に育むことができるよう、自助、共助、公助の視点を適切に取り入れながら、地域の特性や児童生徒等の実情に応じて、各教科等の安全に関する内容のつながりを整理し教育課程を編成することが重要である」と示されている。よって、カリキュラム・マネジメントの視点から、各教科等の安全に関する内容のつながりを整理し、系統的・体系的に安全教育を実施できるように単元を構成した。

まず、社会科「自然災害とともに生きる」において、自然災害は国土の自然条件などに関連して発生していることや自然災害から国土を保全し国民生活を守るために国や県（都）等が様々な対策や事業を進めていること（公助）を理解できるようにする。その上で、東日本大震災等の災害発生時には行政が全ての被災者を迅速に支援することが難しいことや、行政自身が被災

して機能が麻痺するような場合があるということ（「公助の限界」）を捉えさせ、自分の命を守るためにはどうしたらよいのだろうかという課題意識につなげられるようにする。

学級活動では、社会科の学習を通して見いだした課題について、必要な情報を収集し、よりよい解決方法を考えて、安全を確保するための的確な意思決定や行動選択をすることができるようにする。そのために、AR（拡張現実）や映像資料等を活用して地域の災害リスクを具体的に想像させる。さらに、安全確保のための正しい知識を得られるよう、国土交通省作成の「このつぎなにながおきるかな」「小中学生向けマイ・タイムライン検討ツール ～逃げキッド～」や区作成の「水害ハザードマップ」等の資料を効果的に活用する。

理科、社会科、学級活動それぞれの教科・領域で学んだ知識や技能等の資質・能力が互いに関連し合い、災害発生時に活用できるようにする。

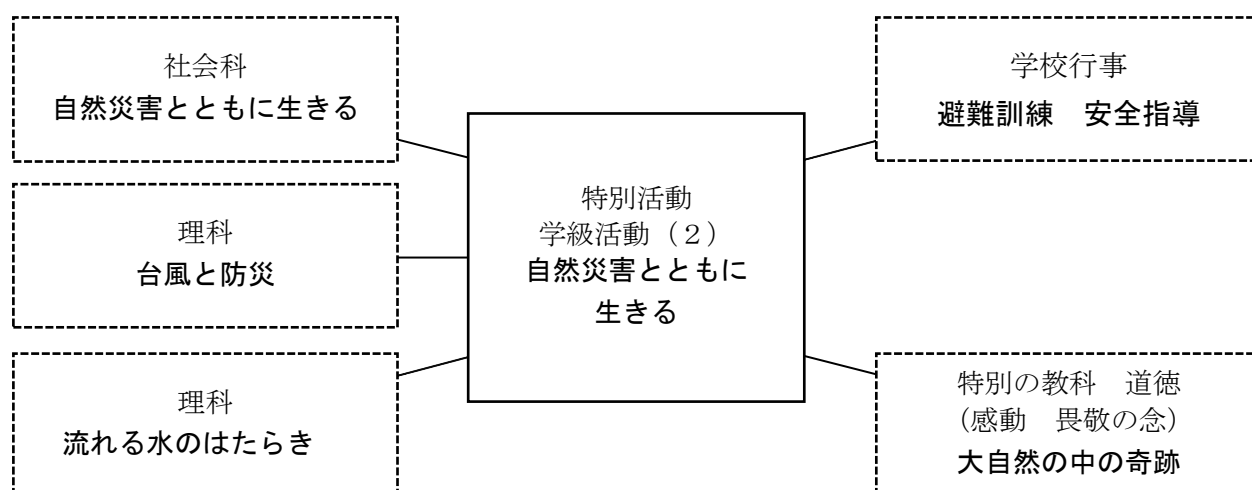
※地域の災害リスク

児童が住む葛飾区は、江戸川や荒川、中川等の大きな河川に囲まれていることが特色である。昭和22年（1947年）に発生したカスリーン台風では、利根川の増水によりさくら堤が決壊し、区内に甚大な被害をもたらした。今後、地球温暖化によって台風が大型化し、勢力がさらに強くなることにより、葛飾区でも大規模な水害が発生する可能性が指摘されている。

4 評価規準

観点	よりよい生活を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
評価規準	日常生活への自己の適応に関する諸課題の改善に向けて取り組むことの意義を理解し、健全な生活を送るための知識や行動の仕方を身に付けている。	日常生活への自己の適応に関する諸課題を認識し、解決方法等について話し合い、自分に合ったよりよい解決方法を意思決定して実践している。	自己の生活をよりよくするために、見通しをもったり振り返ったりしながら、自主的に課題解決に取り組み、他者と信頼し合ってよりよい人間関係を形成しようとしている。

5 他教科等との関連



6 安全教育の視点に迫るための手立て

児童が自然災害をイメージし、自分事として考えることができる手立て

- (1) 児童は被災経験がないため、自然災害を自分事として捉えることは難しいと考えられる。よって、地図や地域の写真、AR（拡張現実）、映像資料等の視覚教材を使って災害発生時の様子を具体的に想像することができるようにした。「自分の身に起こったら」と具体的に想像させながら資料を読み取らせる活動を通して、より主体的に自他の安全を実現しようとする態度を育成することをねらいとしている。

水害発生時の安全な避難の仕方を理解するための手立て

- (2) 国土交通省発行の防災カードゲーム「このつぎなにがおきるかな」を活用し、水害時に起こり得るリスクを疑似的に体験させる。活動を通して、水害発生時における安全確保の正しい知識を学ばせる。

児童が安全確保のために何が必要かを考え、適切に意思決定することができる手立て

- (3) 河川に囲まれた葛飾区では、大規模な水害が起きる可能性がある。よって、児童が地域の災害リスクを踏まえて必要な情報を収集し、安全な生活を実現するために何が必要かを考え、適切に意思決定することができるよう、授業に「葛飾区水害ハザードマップ」やマイ・タイムライン検討ツール「逃げキッド」を取り入れる。ハザードマップやマイ・タイムラインを身近に感じさせることで、将来的に児童が必要な情報を自ら収集し、よりよく判断し行動する力を育むことができるようにする。

※用語「リスク」について

「葛飾区水害ハザードマップ」において「リスク」という言葉が使用されているため、指導案上は同様に記載している。しかし、児童には理解しづらい用語のため、授業では「きけん」という言葉を使用する。

7 指導計画 (全9時間 社会科7時間 学級活動2時間)

時	○主な学習活動	◎指導上の留意点 ◇評価 ☆安全教育の視点に立った留意点
1 社会科	<p>[本時の問い] 日本では、どのような自然災害が発生しているのだろうか。</p> <p>○近年発生した自然災害に関する写真や地図等の資料を読み取り、自然災害の発生と国土の自然条件との関係について話し合う。</p>	<p>◎自然災害が日本の自然条件と関係があることに気付かせる。</p> <p>◇自然災害の種類ごとに、被害の様子や発生場所を資料からの確に読み取り、自然災害の広がりや国土の自然条件との関連性を捉えている。(知識・技能)</p>
2	<p>[本時の問い] 日本では、これまでにどれぐらい自然災害が発生してきたのだろうか。</p> <p>○日本の自然災害の年表等を読み取り、過去の発生状況から分かったことや考えたことを整理する。</p>	<p>◇日本の各地で様々な自然災害が繰り返し発生していることを複数の資料から捉えている。(知識・技能)</p> <p>◎自分たちの身近な地域では、これまでにどのような災害が起こってきたのだろうかという問いを引き出す。</p>
3	<p>[本時の問い] 自然災害について話し合い、学習問題をつくろう。</p> <p>○前時までの学習を通して、疑問に思ったことを整理し、学習問題をつくる。</p>	<p>◇大規模な自然災害から国民の命や生活を守る取り組みについての学習問題をつくり、表現している。(思考・判断・表現)</p> <p>◇大規模な自然災害から国民の命や生活を守る取り組みについて予想し、それを基に学習計画を考え、主体的に追究しようとしている。(主体的に学習に取り組む態度)</p>
<p>【学習問題】 さまざまな自然災害から私たちのくらしを守るために、国や都道府県はどのような取り組みをしているのだろうか。</p>		
4	<p>[本時の問い] 大きな津波からくらしを守るために、どのような対策が進められているのだろうか。</p> <p>○国や都道府県等が進める津波への対策について具体例を見つけて調べ、分かったことや考えたことを話し合う。</p>	<p>◇津波の被害を防ぐ取り組みについて複数の資料から読み取り、今後の発生が想定される津波の被害を少なくするために、国や都道府県が中心となって、様々な対策や事業に取り組んでいることを捉えている。(知識・技能)</p>
5	<p>[本時の問い] 大きな地震からくらしを守るために、どのような対策が進められているのだろうか。</p> <p>○国や都道府県等が進める大地震への対策について具体例を見つけて調べ、分かったことや考えたことを話し合う。</p>	<p>◇地震の被害を防ぐ取り組みについて複数の資料から読み取り、今後の発生が想定される大地震の被害を少なくするために、国や都道府県が中心となって、様々な対策や事業に取り組んでいることを捉えている。(知識・技能)</p> <p>◇学習問題に即して調べてきたことを振り返り、さらに調べる必要があること等を確かめ合い、追究しようとしている。(主体的に学習に取り組む態度)</p>
6	<p>[本時の問い] 大規模な風水害や雪害、火山災害からくらしを守るために、どのような対策が進められているのだろうか。</p> <p>○国や都道府県等が進める大規模災害への対策について、災害の種類別に具体例を見つけて調べ、共有する。「減災」の考えや取り組みについて話し合う。</p>	<p>◇各種災害の被害を防ぐ取り組みについて複数の資料から読み取り、国や都道府県が中心となって進める自然災害の対策・事業の重要性や限界を捉えている。(知識・技能)</p>

7	<p>[本時の問い] 調べたことを基に自然災害とその取り組みについて整理しまとめよう。</p> <p>○調べたことを自然災害の種類別に表に整理し、相互の事実を関連付けながら、災害が発生しやすい国土の自然条件、災害への対策・事業と自分たちの生活との関わり等について考える。</p>	<p>◇これまでの学習を表に整理し、自然災害の発生には国土の自然条件が関連していること、様々な災害から人々の生活や国土を守るために国や都道府県が対策・事業を進めていることを理解している。(知識・技能)</p> <p>◇自然災害と国土の自然条件を関連付けたり、自然災害の被害と国民生活を関連付けたりして、自然災害への対策・事業の重要性や、自然災害が多い国土で暮らす一人として取り組むべきことを考え、適切に表現している。(思考・判断・表現)</p> <p>☆映像資料を通して、「公助の限界」を捉えさせる。</p>
学活① 本時	<p>[めあて] 水害が起こったら、自分たちの命を守るためにどのような行動をとったらよいか考えよう。</p>	<p>☆葛飾区には水害のリスクがあることに気付かせ、命を守るための具体的な行動を考えさせる。</p> <p>◇水害発生時にどのような行動をとればよいか、考えている。(思考・判断・表現)</p> <p>◇水害発生時の行動について考え、自分のめあてを決めている。(思考・判断・表現)</p>
学活②	<p>[めあて] 台風が発生してから、川の水がはんらんするまでにすることを決めよう。</p>	<p>☆「逃げキッド」を使い、災害が発生するまでの自分の行動を考える。</p> <p>◇水害が発生するまでに準備することや避難場所について考え、自分のめあてを決めている。(思考・判断・表現)</p>

8 本時の展開 (1/2時)

(1) ねらい

自分たちが住んでいる地域が被災する可能性があることを知り、水害発生時の具体的な行動を決めることができるようにする。

(2) 展開

○学習活動	◎指導上の留意点 ◇評価 ☆安全教育の視点に立った留意点
①葛飾区の災害リスクについて話し合う。 ・首都直下地震が起こる可能性がある。 ・葛飾区は川に囲まれているので、水害の被害も受けそうだ。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block; margin-top: 10px;">手立て(1)</div>	☆各種資料を通して、葛飾区には水害のリスクがあることを知らせ、災害を自分事として捉えさせる。 ☆葛飾区の地図や「カスリーン台風」(利根川河川事務局・郷土と天文の博物館)を提示する。
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px auto; width: 80%;"> めあて 水害が起こったら、自分たちの命を守るためにどのような行動をとったらよいか考えよう。 </div>	
③映像資料や拡張現実(以下AR)を通して、屋外ではどのような危険があるか話し合う。 ・身動きがとれず避難することができない。 ・流れてきたものに当たってけがをする。 ・水に飲まれて死んでしまう。 ④ハザードマップの資料を通して、どんな場所に避難したらよいか話し合う。 ・高い建物 ・土地が高くなっているところ ・学校 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block; margin-top: 10px;">手立て(3)</div>	☆映像資料「フィクションドキュメンタリー 水害が起きたら」やARを使用することで、児童にとって身近な場所が水害の被害にあったらどのような様子になるか具体的に想像することができるようにする。 ☆資料「自宅にとどまる場合のリスクと対策」(葛飾区水害ハザードマップ)を通して、屋内にとどまる場合にもリスクが生じることを捉えさせる。 ◇水害発生時にどのような行動をとればよいか、考えている。(思考・判断・表現)【発言・観察】 ☆防災カードゲーム「このつぎなにがおきるかな」(国土交通省)を通して水害時に想定されるリスクに気付かせ、安全確保の正しい知識を学ばせる。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block; margin-top: 10px;">手立て(2)</div>
⑥学習を振り返る。	◎本時を振り返り、これから自分が水害発生時にどのように行動するか具体的なめあてや実践方法を決めさせる。 ◇水害発生時の行動について考え、自分のめあてを決めている。(思考・判断・表現)【ノート・観察】

9 授業観察の視点

- ・地図や映像資料、ARは、児童に自然災害を自分事として捉えさせる上で有効であったか。
- ・「水害ハザードマップ」の活用は、児童が地域の災害リスクを踏まえて必要な情報を収集し、安全確保のために適切な意思決定をする上で有効であったか。
- ・防災カードゲームは、水害発生時における安全確保の正しい知識を身に付けさせる上で有効であったか。

第5学年 体育科（生活安全、交通安全）

けがの防止

場 所 5年2組教室

対 象 第5学年2組 34名

指導者 村上 彩香

1 単元の目標

- ・交通事故や身の回りの生活の危険が原因となって起こるけがの防止について、課題の解決に向けた事項を理解できるようにする。けが等の簡単な手当ができるようにする。
- ・けがの防止に関わる事象から課題を見付け、危険の予測や回避する方法を考え、それらを表現することができるようにする。
- ・けがの防止について自分事として考え、学習活動に意欲的に取り組むことができるようにする。

2 学習指導要領との関連

体育科 内容 G保健（2）けがの防止

（2）けがの防止について、課題を見付け、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア けがの防止について理解するとともに、けがなどの簡単な手当をすること。

（ア）交通事故や身の回りの生活の危険が原因となって起こるけがの防止には、周囲の危険に気付くこと、的確な判断の下に安全に行動すること、環境を安全に整えることが必要であること。

（イ）けがなどの簡単な手当は、速やかに行う必要があること。

イ けがを防止するために、危険の予測や回避の方法を考え、それらを表現すること。

3 題材（単元）について

（1）児童の実態

本学級の児童は、日頃の安全指導や生活指導を通して、安全に気を付けて生活することのよさや、身の回りのきまりが安全に生活するためのものであることをよく理解している。しかし実際には、教室内を走り回って遊ぶ、廊下を走る、自転車で並走をする、青信号が点滅していても急いで横断歩道を渡り始めるなど、学校や地域において日常的に危険な行動が見られる。また、机の横に掛けている水筒のひもが床に付いたり、廊下の荷物が床に落ちているのをそのままにしていたりと、生活環境と安全への意識が結び付いていない様子も見られる。

けがへの意識アンケートでは、学級の大半が校内や地域のいずれかにおいて「けがをしたことがある」、「けがをしそうになったことがある」と回答した。また、けがをした状況や、けがをしそうになった状況から、児童の日常生活の中には、様々な場面で危険が存在していることが分かる。

以上のことから、児童は、安全に気を付けて生活をするよさや学校や地域でのきまりやルールは理解しているものの、自分や他者の安全確保のために何が必要かを考え、危険を予測して安全な行動をすることに課題がある。

けがへの意識アンケート 結果

項目	はい
学校の教室でけがをしたことはありますか。	15人
学校の教室でけがをしそうになったことはありますか。	14人
学校の廊下や階段でけがをしたことはありますか。	7人
学校の廊下や階段でけがをしそうになったことはありますか。	14人
学校の校庭でけがをしたことはありますか。	20人
学校の校庭でけがをしそうになったことはありますか。	16人
登下校中にけがをしたことはありますか。	5人
登下校中にけがをしそうになったことはありますか。	9人
交通事故に遭ったことはありますか。	0人
交通事故に遭いそうになったことはありますか。	9人

項目	主な回答
どのようなときにけがをしましたか。	<ul style="list-style-type: none"> ・床がぬれていて滑って転んだ。 ・友達とぶつかった。 ・教室で鬼ごっこをしていたら転んで机に頭をぶつけた。 ・石につまずいて転んだ。 ・教科書やプリントで手を切った。
どのようなときにけがをしそうになりましたか。	<ul style="list-style-type: none"> ・教室で友達が走ってきてぶつかりそうになった。 ・階段を急いで降りていたら階段を踏み外して転びそうになった。 ・信号のない横断歩道で車にひかれそうになった。 ・自転車に乗っているとき車とぶつかりそうになった。
自分が知っているけがの手当の方法を書いてください。	<ul style="list-style-type: none"> ・傷口を水で洗って、消毒をする。 ・絆創膏を貼る。

(2) 題材設定の理由

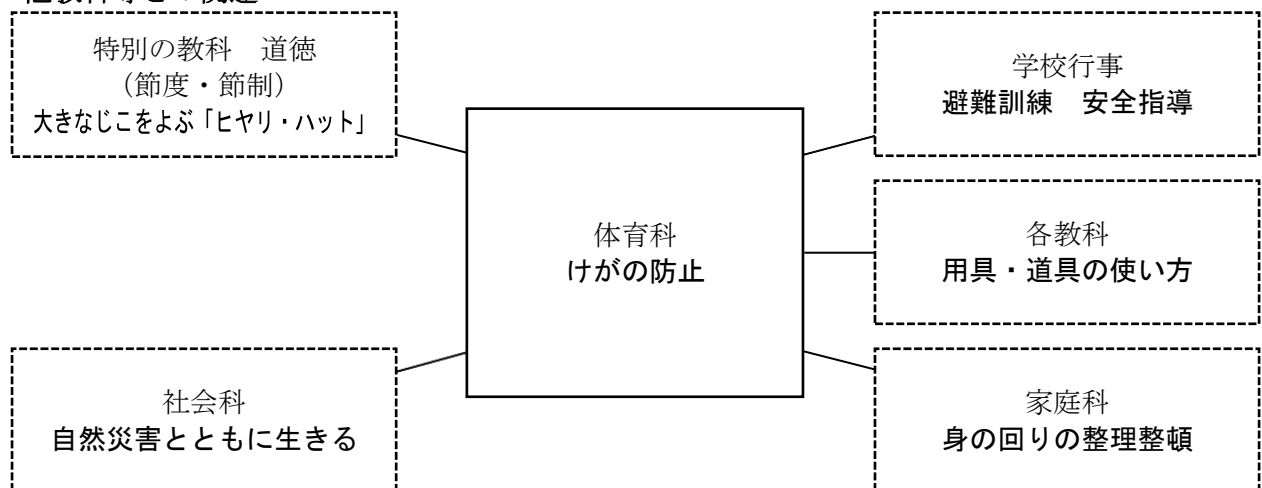
全国の小学生の交通事故による被害は年々減少しているが、令和4年における死者数は9人、重傷者数は618人であり、多大な被害が生じている。そのうち約40%が登下校中に交通事故に遭っている。学区内での交通事故は、令和4年で0件、令和5年（1学期）で0件であったが、児童の下校時や放課後にひやりとした場面に遭遇したことがあると本校の教職員から話が挙がった。また、全国の小学校校内でも様々な事故が起こっているが、その約50%が休憩時間中に発生している。負傷種類別に見ると、全体の約30%が「挫傷・打撲」であり、次に「骨折」、「捻挫」の順である。本校での保健室利用（外科）は、令和4年度で699件、令和5年度（1学期）で253件であり、負傷種類別に見ると、「挫傷・打撲」、「擦り傷・切り傷」が多いという。このような状況から、学校や地域において、誰にでもけがをしたりさせたりする可能性はあると考えられる。

そこで、自分たちの生活の中でのけがは「人の行動」や「環境」等様々な原因によって引き起こされていることに気付き、危険を予測して的確な判断の下に安全に行動したり、環境を安全に整えたりする力の育成をねらいとして本題材を設定した。児童の実態を受けて、危険の予測や回避の方法を理解するだけでなく、学校や地域でのけがを自分事として考え、自分や他者の身を守るために、危険を予測し回避するにはどうしたらよいか考え、実生活に生かせるようにする。けがの防止策は、「周囲の危険に気付き、的確な判断の下に安全に行動すること」と、「環境を安全に整えること」である。事故やけがの体験や、事故やけがの一步手前で済んだが「ひやり」とした体験を誰もがしている。児童のそういった体験や、普段生活している周りの環境を踏まえて、人的要因と環境要因の両面から考えていけるように指導を工夫していく。

4 評価規準

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	<p>交通事故や身の回りの生活の危険が原因となって起こるけがの防止には、周囲の危険に気付くこと、的確な判断の下に安全に行動すること、環境を安全に整えることが必要であることを理解している。</p> <p>けがなどの簡単な手当は、速やかに行う必要があることを理解しているとともに、技能を身に付けている。</p>	<p>人の行動や環境などから、けがの防止に関わる課題を見付け、危険の予測や回避の方法を考えるとともに、それらを表現している。</p>	<p>けがの防止について、教科書や資料などを見たり、自分の生活を振り返ったりする学習活動に進んで取り組もうとしている。</p> <p>自分の経験や学習したことを基に、身の回りの危険箇所を見付けようとしている。</p>

5 他教科等との関連



6 安全教育の視点に迫るための手立て

児童が学校や地域での危険をイメージし、自分事として考えることができる手立て

- (1) 児童が自分の生活を振り返り、普段生活している地域や校内の交通事故やけがの発生状況等、児童にとって身近な場所やそのデータを教材として扱う。児童が学校や地域での危険を具体的にイメージし、自分事として考えられるようにする。

危険から自分や他者の身を守るための行動や環境を理解するための手立て

- (2) イメージした危険から、どのようにしたら事故やけがを防ぐことができるか人的要因と環境要因の視点で考える。ワークシートに書いたり、グループで考えを共有したりしながら考えを広げ、理解につなげる。

児童が安全確保のために何が必要かを考え、適切に意思決定をすることができる手立て

- (3) 自動車、自転車、歩行者のそれぞれの目線や動きから危険を予測する活動を行う。地域での歩行時や自転車乗車時の危険をイメージし、自他の安全確保のために何が必要かを考え、適切に意思決定をすることができるようにする。

7 指導計画（全4時間）

時	○主な学習活動	◎指導上の留意点 ◇評価 ☆安全教育の視点に立った留意点
1	【けがの発生】 ○事故やけがの原因を考え、けがは行動と環境が関わって起こることを知る。	◎アンケート調査や「ひやり」とした体験を振り返って、学習課題をつかませる。 ◎けがは行動と環境が関わっていること、行動は心の状態や体の調子と関係していることを押さえる。 ◇事故やけがは、人の行動や周りの環境が原因で起こること、人の行動は心の状態や体の調子と関係していることを理解している。 （知識・理解） ◇資料を見たり、自分の生活を振り返ったりする学習活動に進んで取り組もうとしている。 （主体的に学習に取り組む態度）
2 本 時	【交通事故の防止】 ○地域のどこで交通事故があるのか捉え、具体的な状況から危険を予測し、危険を回避する方法を考える。	☆地域の交通事故データから地域での危険について捉えさせる。 ☆危険予測トレーニングを用いて交通事故を具体的にイメージし、危険を予測させる。 ◇地域の交通事故データや具体的な状況から危険を予測し、回避するための行動や環境について考え、表現している。 （思考・判断・表現）
3	【学校や地域でのけがの防止】 ○花の木小学校では、どこでどのようなけがが発生しているのかを予測し、危険を回避する方法を考える。	☆養護教諭から校内のけがの実態を伝える。 ☆校内けがマップから危険を予測させる。 ◇校内けがマップから危険を予測し、回避する方法を考え、表現している。 （思考・判断・表現） ◇自分の経験や学習したことを基に、身の回りの危険箇所を見付けようとしている。 （主体的に学習に取り組む態度）
4	【けがの手当】 ○正しい手当の方法や簡単なけがの手当について知り、実践する。	◎養護教諭から簡単なけがの手当について習う。 ◇それぞれのけがに対する正しい応急手当の要点を押さえ、簡単な応急手当ができている。 （知識・技能）

8 本時の展開 (2 / 4時)

(1) ねらい

様々な場面で発生する危険を予測し、危険を回避するためにはどのような行動や環境が必要か考えることができるようにする。

(2) 展開

○学習活動	◎指導上の留意点 ◇評価 ☆安全教育の視点に立った留意点
①前時の学習を振り返る。 ・けがは行動と環境が関わって起こることを確認する。 ②本時のめあてを確認する。	◎前時の学習を振り返り、けがは行動と環境が関わって起こることを押さえる。 ◎学級のアンケート結果から、地域での交通事故に関心をもたせ、めあてを設定する。
めあて 交通事故を防ぐためにはどうしたらよいか考えよう。	
③地域の交通事故マップやデータから実態を知る。 ・学区内で交通事故が起こりそうな場所を予想する。 ・交通事故マップで交通事故の発生状況を確認する。 ・様々な場面の写真から、どのような危険が起こりそうか考える。 ④危険予測トレーニングで危険を予測する。 ・動画を見てどんな危険が予測されるか考える。 ・考えたことをワークシートに書く。 ⑤交通事故を防ぐためにはどうしたらよいか考える。 ・交通事故を防ぐためにはどのような行動や環境が必要かワークシートに書く。 ・ペアで交流する。 ・発表する。	◎交通事故が起こりそうな場所(学区のマップ)に丸をつけさせる。 ☆地域の交通事故データから地域の危険な場所や場面について捉えさせる。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block; margin: 5px;">手立て(1)</div> ☆学区内の写真を使用することで児童にとって身近な地域で具体的に危険を予測できるようにする。 ☆危険予測トレーニングを用いて交通事故を具体的にイメージし、危険を予測させる。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block; margin: 5px;">手立て(3)</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block; margin: 5px;">手立て(2)</div> ☆ワークシートに人的要因、環境要因の2つの視点で書かせ、書いたことをペアで交流させる。 ◇地域の交通事故データや具体的な状況から危険を予測し、回避するための行動や環境について考えている。 (思考・判断・表現) 【発言・ワークシート】
⑥学習を振り返る。	◎地域の交通安全に関する諸機関や団体が行っている対策や活動を紹介する。

9 授業観察の視点

- ・地域の交通事故データや危険予測トレーニングの活用は、児童が地域での危険をイメージし、自分事として考える上で有効であったか。
- ・様々な場面で発生する危険を予測し、安全な行動について考える活動は、危険から自分や他者の身を守るための行動や環境を理解する上で有効であったか。

第5学年 特別活動（生活安全）学級活動（2）ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成
SNSを使うときに注意することを考えよう<生命（いのち）の安全教育>

場 所 5年3組教室

対 象 第5学年3組 34名

指導者 堀切 貴志

1 学級活動（2）で育成を目指す資質・能力

- ・ 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全といった、自己の生活上の課題の改善に向けて取り組むことに意義を理解するとともに、そのために必要な知識や行動の仕方を身に付けるようにする。
- ・ 自己の生活上の課題に気づき、多様な意見を基に、自ら解決方法を意思決定することができるようにする。
- ・ 自己の生活をよりよくするために、他者と協働して自己の生活上の課題の解決に向けて粘り強く取り組んだり、他者を尊重してよりよい人間関係を形成しようとしたりする態度を養う。

2 学習指導要領との関連

特別活動 学級活動 内容（2）

ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成

現在及び生涯にわたって心身の健康を保持増進することや、事件や事故、災害等から身を守り安全に行動すること。

<生命（いのち）の安全教育の目標>

生命の尊さを学び、性暴力の根底にある誤った認識や行動、また、性暴力が及ぼす影響などを正しく理解した上で、生命を大切に考えることや、自分や相手、一人一人を尊重する態度等を発達段階に応じて身に付けることを目指す。

<高学年のねらい>

自分と相手の心と体を大切にすることを理解し、よりよい人間関係を構築する態度を身に付けることができるようにする。また、性暴力の被害に遭ったとき等に、適切に対応する力を身に付けることができるようにする。

3 題材（単元）について

（1）児童の実態

本学級の児童は、男女ともに好奇心が強く、流行にも敏感な児童が多い。休み時間になると動画共有サイトの話をしている。児童同士で共通の話題になっていることも多く、会話が弾んでいることがほとんどである。スマートフォンや携帯電話、タブレットの所有率も高い。自分のスマートフォンや携帯電話は無くとも家のパソコンでオンラインゲームをする児童もいる。学級全体としてSNSやインターネットに対して積極的に関わる傾向にある。

このような傾向は事前アンケートを見ても明らかで、学級の8割の児童に「今までにオンラインで顔の見えない相手と交流したことがある」という事実がある。しかし、そこに潜む危険についての理解は低い。よって自分たちが何気なく使っているコミュニケーションツールにも危険が潜んでいることや、性被害に遭わないようにするために実例を出して自分事として考えさせたい。

コミュニケーションツールを使う児童は学級全体の8割もいる。しかし、知らない相手から

も見られる可能性があったり、自分の投稿などによって友達の身に危険が及んだりするなどの正しい知識を身に付けている児童は約6割にとどまった。こうした現状からも、自分や他者の安全を守るために気を付けることや普段の生活につながる学習活動を取り入れる。

(2) 題材設定の理由

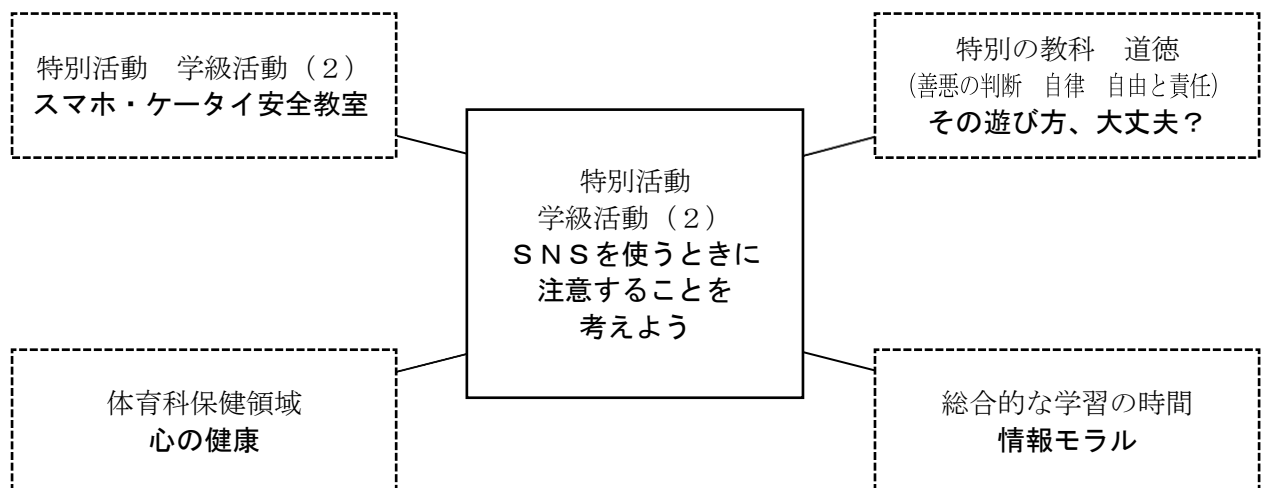
警視庁の集計によれば、令和4年中に児童ポルノ事犯の被害に遭った児童は全国で100名おり、そのうちの40名が自撮り画像を送っている。相手が見えないことに加え、なりすましに気付かず画像を送ってしまうという傾向がある。スマートフォン等のコミュニケーションツールが普及する一方で、そこに潜む危険についての知識がないために被害に遭うことが多いと考えられる。

そこで本単元では小学校1年生～4年生で身に付けた「自分と他の人の体を大切にする」という考え方を基に、自分以外の他人を尊重するための心と体の距離感を学ぶ。自分と他の人を守る距離感のルールを理解することで、性暴力の加害者・被害者にならないための思考力を高める。また、スマートフォンを所持している児童や、パソコンを使用できる環境にある児童も多く、SNS等を介した性暴力被害を未然に防ぐため、事例を通してSNSの危険性を理解することも必要だと考える。

4 評価規準

観点	よりよい生活を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
評価規準	日常生活への自己の適応に関する諸課題の改善に向けて取り組むことの意義を理解し、健全な生活を送るための知識や行動の仕方を身に付けている。	日常生活への自己の適応に関する諸課題を認識し、解決方法などについて話し合い、自分に合ったよりよい解決方法を意思決定して実践している。	自己の生活をよりよくするために、見通しをもったり振り返ったりしながら、自主的に課題解決に取り組み、他者と信頼し合ってよりよい人間関係を形成しようとしている。

5 他教科等との関連



6 安全教育の視点に迫るための手立て

児童がSNSに起因する危険をイメージし、自分事として考えることができる手立て

- (1) スマートフォンはもちろん、パソコンやポータブルゲーム機などでのオンライン通信でも見えない相手と繋がるという事実を示す。学級全体のコミュニケーションツールの保有率から考えても、学級のほぼ全ての児童がSNSの危険を自分事として捉えることができる。

児童がSNSでのやり取りで、注意する点を理解するための手立て

- (2) 代表1名がコメント.net を使って、見えない相手と実際にやりとりする様子を見て、危険性や気を付けることを客観的に見付けられるようにする。

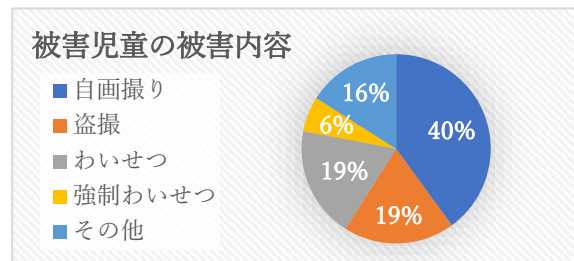
※コメント.net

PCやスマートフォンから匿名でコメントができるコミュニケーションツールのこと。

実際に使用する二次元コード



- (3) 自分の顔や住んでいる地域が特定されるような写真を投稿したことで発生した事件では、気軽に投稿できる裏で危険が潜んでいることを示す。
- (4) 自画撮り画像を送ったことから発生した事件が多い(警視庁調べ)事実を示し、自分事として捉えられるようにグラフを用いて示す。



児童が安全確保のために何が必要かを考え、適切に意思決定をすることができる手立て

- (5) ロールプレイやコメント.net でのやり取りを通して、自分で気付いたことや考えたことをまとめ、今後に気を付けることを記入する。

7 指導計画 (全2時間)

時	○主な学習活動	◎指導上の留意点 ◇評価 ☆安全教育の視点に立った留意点
1	○実際に相手に会わないSNSやオンラインゲームを行う際に危険なことは何かを考え、次時へつなげる。	◎自分と他者の大切なところを守るルールを確認し、自分を守り他者を尊重するための心と体の距離感や、距離感が守られないときの対応方法について指導する。 ◇自分と他人の大切なところを危険から守るためになにができるかを伝え合っている。 (主体的に学習に取り組む態度) ◇心と体の距離感について、自分と他者との感じ方の違いに気付き、他者への配慮と自分の体を大切にするという考えをもっている。 (知識・技能) ☆性暴力被害に遭ったもしくは遭っている児童がいる可能性を十分に考慮し気分が悪くなった場合は途中退席してよいことを伝える。

2 本 時	<p>○SNSやオンラインゲームを行う際の危険について、事例やロールプレイ通じて、被害に遭わないための方法を考えさせる。</p> <p>○コメント.net を用いて見えない相手との交流を疑似体験する。</p> <p>○学習したことから考えた、SNSを使うときの注意点をワークシートに書く。</p>	<p>◎実際に被害に遭ったもしくは遭いそうになった児童がいる可能性を考え、無理に最後まで聞く必要はない旨を伝える。</p> <p>☆警視庁管内で起きた事例を示し、自分事として捉えられるようにする。</p> <p>◇文科省SNSチェックで、SNSで注意することを正しく理解し、正解を選んでいる。 (知識・技能)</p> <p>◇SNSを使うときに注意することに対する解決策を書いている。(思考・判断・表現)</p>
-------------	--	--

8 本時の展開 (2 / 2時)

(1) ねらい

SNSを使う際の危険性について事例や体験を通して理解し、解決方法を考えることができるようにする。

(2) 展開

○学習活動	◎指導上の留意点 ◇評価 ☆安全教育の視点に立った留意点
<p>①前時の振り返りをする。</p> <p>②SNSを使用するときに危険だと感じていることを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発言したあとでクラスの集計結果を知る。 <p>③実際に犯罪に巻き込まれている件数や内容を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・性暴力が起こりやすくなる場面を知る。 	<p>◎前時のスライドを見せ、学習したことを確認する。</p> <p>☆アンケート結果を見せる。 手立て(1)</p> <p>◎クラスの集計結果を大型掲示装置に投影する。</p> <p>◎亀有警察署からのデータを掲示する。</p> <p>☆自撮り画像を送った40名のうち12名が小学生であり、年々増加傾向にあることを伝える。</p> <p>手立て(4)</p>
<p>めあて SNSを安全に使うために気を付けることを考えよう。</p> <p>手立て(2)</p>	
<p>④知らない相手とやりとりをする危険について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コメント.netで見えない相手(空き教員またはICT支援員)とのやりとりを行う。 ・実際にやりとりをしてみて、不安に思ったことを、代表の児童が発表する。 	<p>☆事前に、代表の児童を決めておく。</p> <p>◎代表の児童のやり取りを見て、「自分だったら」という考えをもたせる。</p> <p>手立て(3)</p>
<p>⑤事例を通じて、危険の予防策を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なりすましや相談した後に起こった事例を示して理解を深める。 	<p>☆事例をスライドや映像で流す。</p> <p>☆被害に遭っている児童もいるかもしれないことを考慮し、無理に聞く必要がないことを伝える。</p>
<p>⑥学習したことを振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文科省SNSチェックに取り組む。 ・ワークシートに、自分で考えた解決方法を記入する。 	<p>◇文科省SNSチェックで、SNSで注意することを正しく理解し、正解を選んでいる。 (知識・理解) 【観察(Forms)】</p> <p>◇SNSを使うときに注意することに対する解決策を書いている。 (思考・判断・表現) 【ワークシート】</p> <p>手立て(5)</p>
<p>⑦人気のSNSやボイスチャットができるゲーム、動画の投稿の多くは、13歳以上が対象であることを知る。</p>	<p>☆打ち明けにくい相談は、専用の窓口があることをスライドで示す。</p>

9 授業観察の視点

- ・昨年全国で起きた犯罪件数の開示は、児童が自分事として捉える上で有効であったか。
- ・顔が見えない相手とのやりとりというロールプレイは、SNSによる危険を感じる体験として有効であったか。

第6学年 特別活動（生活安全）学級活動（2）イ よりよい人間関係の形成
ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成

スマートフォン等使用時のルール決めをしよう

場 所 6年1組教室

対 象 第6学年1組 33名

指導者 平野 孝二

1 学級活動（2）で育成を目指す資質・能力

- ・ 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全といった、自己の生活上の課題の改善に向けて取り組むことの意義を理解するとともに、そのために必要な知識や行動の仕方を身に付けるようにする。
- ・ 自己の生活上の課題に気付き、多様な意見を基に、自ら解決方法を意思決定することができるようにする。
- ・ 自己の生活をよりよくするために、他者と協働して自己の生活上の課題の解決に向けて粘り強く取り組んだり、他者を尊重してよりよい人間関係を形成しようとしたりする態度を養う。

2 学習指導要領との関連

特別活動 学級活動 内容（2）

イ よりよい人間関係の形成

学級や学校の生活において互いのよさを見付け、違いを尊重し合い、仲よくしたり信頼し合ったりして生活すること。

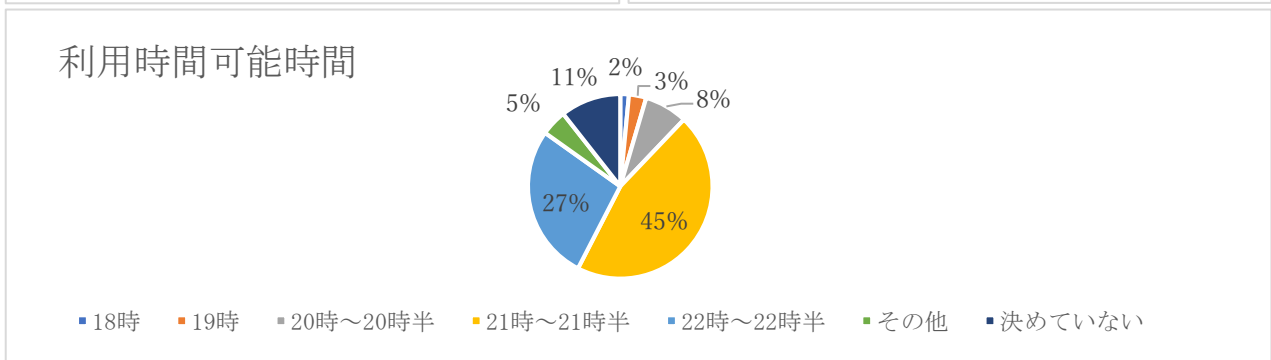
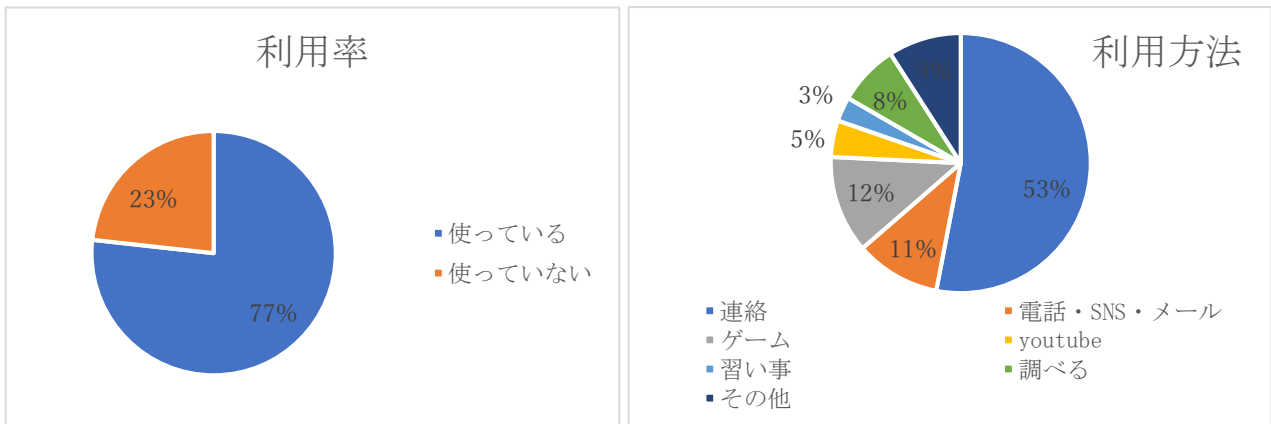
ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成

現在及び生涯にわたって心身の健康を保持増進することや、事件や事故、災害等から身を守り安全に行動すること。

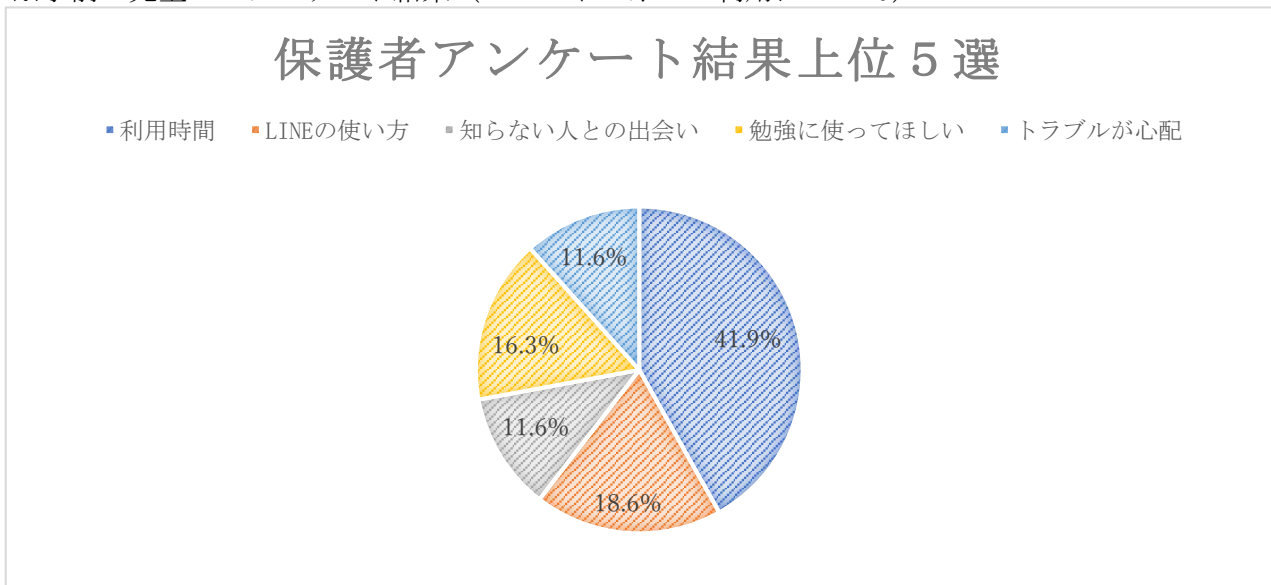
3 題材（単元）について

（1）児童の実態

本学級の児童は、本校独自の「SNS花の木小ルール」を基にスマートフォン等の使い方のルールを保護者と話し合って決めている。しかしながら一部の児童がSNSで悪口を言ったり、迷惑なメッセージを送信して相手にいやな思いをさせたり、実際はきまりを守ることができていないことがあった。そこで本学年の児童のスマートフォンの利用状況等について事前にアンケートを行った。その結果、本学年児童のスマートフォンの利用率は77%であった。内閣府の調査結果では、11歳のインターネット利用率は約98%となっており、そのうちスマートフォンを専用または親や兄弟と共用している使用率は約97%となっている。つまり、ほぼ全員の児童がスマートフォンを近いうちに使用すると考えられる。そのため、現在は利用していない児童も危険性やルールの大切さについて学習する必要があると感じた。そして、本校の児童はアンケート結果から、夜遅くまで利用できる環境であり、児童の安全な利用にはルールが不足していると改めて分かった。また、保護者へのアンケート結果よりアンケート自体に回答のない家庭や、ルールそのものを策定していないと回答した家庭も見られたため、家庭に対しても情報モラルへの意識をもたせる必要性を感じた。この学習を通して、SNSを利用する際の注意点や正しい使い方を今一度考えさせるようにする。



※事前の児童へのアンケート結果（スマートフォンの利用について）



◆保護者アンケート結果

「児童のスマートフォンの利用方法について、現在困っていることや心配なこと」

(2) 題材設定の理由

インターネット等のルールやマナーをしっかりと守っていくことや、なぜそのような行為がよくないのかを理解するためにインターネット安全教室等を今まで複数回行ってきた。そのため、スマートフォンを使用する際のルールやマナーは、知識として身に付いている。しかし、保護者のアンケートからスマートフォンの利用の仕方についての不安や、利用時間等のルールが守れていないことへの心配の声が寄せられた。そのため本単元では、既習の知識を自分事として捉えていくために、第1時では保護者アンケートを用いながら、実は自分たちのささいな行動が、危険への入り口であると意識付けたい。まずは、社会一般的なスマートフォン使用時の危険について既習事項を踏まえ確認し、その上で保護者という身近な人からの心配事を目の

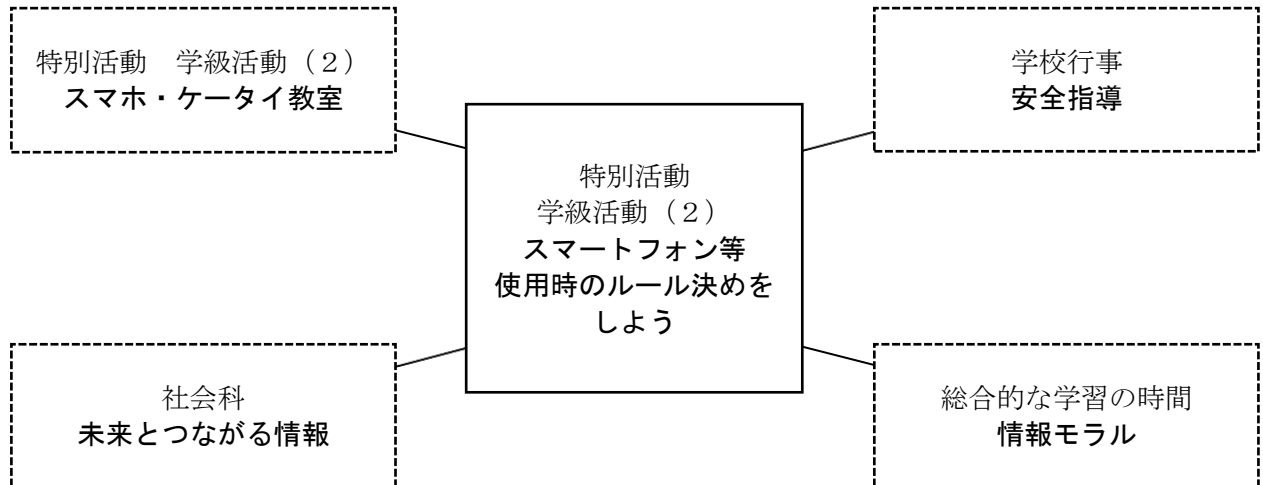
当たり前にすることで、既習の知識を自分事として捉えさせる。第2時では、家庭でのスマートフォンの使用状況や生活環境によって、自分事として捉えられる課題が異なるため、児童自身に改善したい項目を選ばせ話し合い活動を行うことで、より自分事として考えさせる。本単元のまとめである第3時では改善点をまとめ、発表する活動を通して考えたことを共有し、ルールを守らないといけないという意識をもたせたい。そして、最後にルールを模造紙にまとめ廊下に掲示する。また、定期的に家庭でも振り返りを行うことで、児童自身のみならず家庭も含めて常にスマートフォンの使い方を意識できるようにし、スマートフォン使用時のルールを守ろうとする態度を育成する。

なお、本時の展開の中にある【キニナル】【キニナルワード】の意味は、それぞれ児童が「大丈夫かな」「本当にいいのかな」「心配だな」「調べたいな」という意味合いであること、その意味合いを含んだ単語や文章のことである。家庭での問題点の価値観がそれぞれ違うため、「問題点」という言葉でのくくりではなく、キニナルという幅広く受け止められる言葉をあえて使っている。各家庭のルールやマナーを否定はせずに、その上で改善方法やよりよい使い方を児童に考えさせていく。

4 評価規準

観点	よりよい生活を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
評価規準	日常生活への自己の適応に関する諸課題の改善に向けて取り組むことの意義を理解し、健全な生活を送るための知識や行動の仕方を身に付けている。	日常生活への自己の適応に関する諸課題を認識し、解決方法等について話し合い、自分に合ったよりよい解決方法を意思決定して実践している。	自己の生活をよりよくするために、見通しをもったり振り返ったりしながら、自主的に課題解決に取り組み、他者と信頼し合ってよりよい人間関係を形成しようとしている。

5 他教科等との関連



6 安全教育の視点に迫るための手立て

スマートフォン等使用時の課題を知り、自分事として考えることができる手立て

- (1) 映像資料を視聴し、具体的にトラブルについてイメージできるようにする。まずは、一般的なトラブルについて既習の知識を基に考えさせ、その後に保護者のアンケート結果で自分の行動と結び付けることで、より自分事として考えられるようにする。
- (2) 問題点を考える基となるキーワードを個人で抽出する活動の際のワークシートに、バリエーションを用意する。目に付いた言葉が印象に残りやすいため、内容は同じだが、保護者の意

見の並び順をランダムに入れ替えた4種類のワークシートを用意した。そうすることでキーワード抽出が偏らないようにし、視野を広げ自分事として考えられるようにする。

スマートフォン等使用時の問題の改善に向けて取り組むことの意義を理解するための手立て

- (3) 保護者からのアンケート結果を基に、自分たちに必要なルールを考える活動を通して、自分たちの使い方に危険なところがあることに気付かせる。そしてスマートフォン等使用時のルールの必要性を自分事として考えられるようにする。

スマートフォン等使用時のトラブルを未然に防ぐために何が必要かを考え、適切に意思決定することができる手立て

- (4) 自身に必要なルールを考え、似た考えの児童とグループで問題点や解決策を話し合うことで、多様な考えをもてるようにする。
- (5) まとめた成果物を廊下に掲示し、ルールが守られているのか定期的に振り返る活動を通して継続してルールを守る行動がとれるようにする。

7 指導計画 (全3時間)

時	○主な学習活動	◎指導上の留意点 ◇評価 ☆安全教育の視点に立った留意点
1 本 時	<ul style="list-style-type: none"> ○SNS利用時の危険性やトラブルについて具体的な事例を基に考える。 ○保護者へのアンケート結果から、各家庭の困りごとを共有する。 ○家庭の困りごとを全体でカテゴリー分けする活動を通して、自分たちのスマートフォンの利用方法の問題点を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○SNS のトラブルをイメージできるように映像を見せる。 ☆保護者へのアンケート結果を基に、利用方法の問題点について考えられるようにする。 ◇自分たちのスマートフォンの使い方を見つめ直し、問題点を考えている。 (思考・判断・表現)
2	<ul style="list-style-type: none"> ○それぞれの家庭で決められているルールを発表して共有する。 ○改善したい問題点を選び、同じ考えの人同士のグループで班を作り、解決策を話し合う。 ○話し合った内容を発表し共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎色々な意見を聞くことで考えを広げることができるようにする。 ☆自身に必要なルールを考え、似た考えの児童とグループで解決策を話し合うことで、多様な考えをもてるようにする。 ◇解決方法を話し合い、ルールを設ける必要があることを理解している。 (知識・技能)
3	<ul style="list-style-type: none"> ○使用ルールを決める。「○○宣言」という題名でルールを作成する。 ○作成した模造紙をグループごとに発表する。 ○今後は家庭内で約束が守られているのかを週に1度程度チェックしてもらい実践をしていく。模造紙やチェック用紙は廊下に掲示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇解決方法を決定し、自分たちでルールを考え、今後の自己の生活をよりよくしようとしている。 (主体的に学習に取り組む態度)

8 本時の展開 (1/3時)

(1) ねらい

スマートフォンを利用する際の、自分たちの使い方を見つめ直し、問題点を考えることができるようにする。

(2) 展開

○学習活動	◎指導上の留意点 ◇評価 ☆安全教育の視点に立った留意点
①クラスのスマートフォン利用率や一般のスマートフォンの普及率、インターネット利用率について知り、自分たちの利用状況と照らし合わせて考える。	☆「スマートフォン普及率」や「インターネット利用率」の資料を提示し、スマートフォン等を現在は持っていない児童も、自分事として考えられるようにする。
めあて スマートフォンの【キニナル】使い方について見つめ直し、問題点を考えよう。	
②動画を視聴し、【キニナル】使い方を考える。 ・個人情報を教えてはいけない。 ・知らない人と連絡を取っているのは危ない。 ③ワークシートにある保護者の困っていることや心配なことから【キニナル】使い方の下線を引き、【キニナルワード】を考え記入する。 ④書き出した【キニナルワード】を発表する。 (予想されるカテゴリー) ・使い過ぎ ・SNS ・勉強 ・知らない人 ⑤選んだ【キニナルワード】を基にジャムボードを使用し、問題点を付箋で貼り発表する。また、全体で問題点を考える。 ・使う時間が決まっていないのがよくない。 ・知らない人と連絡を取っているのは危ない。 ・動画を見た時の意見と一緒にだ。	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content; margin-bottom: 10px;">手立て(1)</div> ☆自分たちには正しい使い方の知識が身に付いていることを確認する。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content; margin-top: 10px;">手立て(2)(3)</div> ◎【キニナルワード】をカテゴリー分けする。 ☆保護者のアンケート結果から問題点を考える活動を通して、スマートフォン等利用時のルールの必要性を自分事として考えられるようにする。 ◎問題点は、根拠を踏まえて発表させる。 ◎知識が身に付いているはずなのに、アンケート結果から保護者が不安に思っていることに気付かせる。
⑥自分たちのスマートフォンの【キニナル】使い方を振り返りに書く。 ・自分のスマートフォンの使い方が正しくないと改めて分かった。 ・ルールを守れていないことに気付かされた。	◇自分たちのスマートフォンの使い方を見つめ直し、問題点を考えている。 (思考・判断・表現) 【ワークシート・観察】 ◎分かっているにもかかわらずできていなかったり、心配されたりしていることを書いている児童を意図的に指名する。

9 授業観察の視点

- ・映像資料を用いて考察することは、既習の知識と自身の実際の行動を結び付ける一助になったか。
- ・保護者のアンケートを用いて考察することは、既習の知識と自身の実際の行動を結び付け、自分事と捉えることに有効であったか。

第6学年 理科（災害安全）

土地のつくりと変化

場 所 理科室

対 象 第6学年2組 33名

指導者 治田 美穂

1 単元目標

- ・土地やその中に含まれているものに着目して、土地のつくりやでき方を多面的に調べる活動を通して土地のつくりや変化についての理解を図る。
- ・観察、実験などに関する技能を身に付けるとともに、妥当な考えをつくりだす力や主体的に問題を解決しようとする態度を養うことができるようにする。
- ・土地のつくりと変化について学んだことを自分事として捉えさせ、生活に生かそうとする態度を育成する。

2 学習指導要領との関連

理科 内容B（4）

ア 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する技能を身に付けること。

（ア）土地は、礫、砂、泥、火山灰などからできており、層をつくって、広がっているものがあること。また、層には化石が含まれているものがあること。

（イ）地層は、流れる水の働きや火山の噴火によってできること。

（ウ）土地は、火山の噴火や地震によって変化すること。

イ 土地のつくりと変化について追究する中で、土地のつくりやでき方について、より妥当な考えをつくりだし、表現すること。

3 題材（単元）について

（1）児童の実態

本学級の児童は、他教科で学習したことや前年度までに学習したことから予想したり考察したりし、学習課題を主体的に設定していく力が身に付いている児童が多い。本単元でも、第5学年社会科「自然災害とともに生きる」や第5学年理科「流れる水のはたらき」などの前年度学習したことや、「5他教科との関連」にある単元等で学習したことから、実験結果を予想したり自分たちの住む土地について考えたりすることが想定される。しかし、事前アンケートの自分たちの住む地域で想定される被害についての質問で、既習である地域の水災害について触れて答えた児童は90%だったのに対し、大地震発生時の液状化について答えた児童は3%であった。学習した災害知識は身に付いているが、液状化については知識不足であると言える。

（2）題材設定の理由

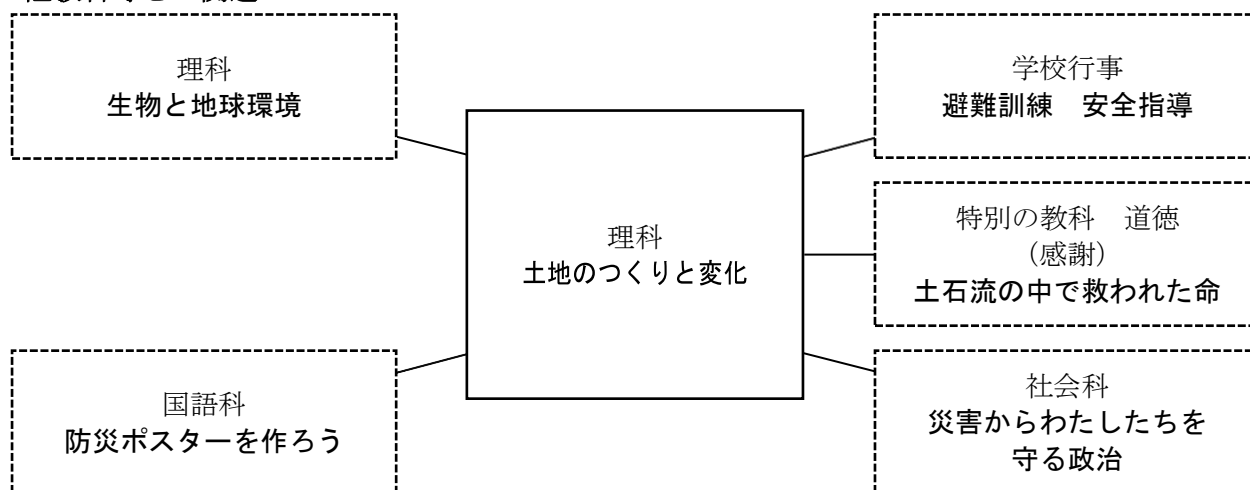
本単元では、第2・3時で本校のボーリング資料を活用したり、第4・5時では流れる水のはたらきから低地の地層のつくりについて学習したりする。本学級の児童は、自分たちの住む地域の土地のつくりを学習していく過程で、「地震災害が起きたらこの地域も変化するのだろうか」「5年生で学習した水災害以外にも起こり得る災害がありそうだ」という課題を見いだすと考えられる。東京都が公表した「首都直下型地震等による東京の被害想定」（平成24年4月）における建物被害想定では、葛飾区は大きな液状化被害を受けると指摘されている。また、「東京の液状化予測図」（令和3年度改定）を見ると、大地震発生時に地盤が液状化する可能性の高い地域が学区内にも多く存在することが確認できる。しかし、教科横断的指導の中でも、地域の液状化被害の可能性については今まであまり触れておらず、調べ学習時

にもテーマとして挙げる児童はいなかった。そこで、本単元のまとめとして第 10・11 時には「東京の液状化予測図」や防災教育 AR 動画を活用して、自分たちの地域の災害発生時のリスクや備えについて考え、自分事として具体的に考え意思決定させる活動を行い、学んだことを生活に生かそうとする態度を育成する。

4 評価規準

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	<p>土地は、礫、砂、泥、火山灰などからできており層をつくって広がっているものがあること、また、層には化石が含まれているものがあることを理解している。</p> <p>地層は、流れる水の働きや火山の噴火によってできることを理解している。</p> <p>土地は、火山の噴火や地震によって変化することを理解している。</p> <p>土地のつくりと変化について、観察、実験などの目的に応じて、器具や機器などを選択して、正しく扱いながら調べ、それらの過程や得られた結果を適切に記録している。</p>	<p>土地のつくりと変化について見いだした問題について、予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現するなどして問題解決している。</p> <p>土地のつくりと変化について、観察、実験などを行い、得られた結果を基に考察する中で、土地のつくりやでき方について、より妥当な考えをつくりだし、表現するなどして問題解決している。</p>	<p>土地のつくりと変化についての事物・現象に進んで関わり、粘り強く他者と関わりながら問題解決しようとしている。</p> <p>土地のつくりと変化について学んだことを学習や生活に生かそうとしている。</p>

5 他教科等との関連



6 安全教育の視点に迫るための手立て

児童が地震災害で起こる液状化による被害をイメージし、自分事として考えることができる手立て

- (1) 日本大震災が発生した 2011 年は、本学年の児童の生まれ年である。そのため、児童は今まで震災と同等の大地震は経験しておらず、震災の学習に実感が伴わない。活動の前に、実際の揺れの様子を映像で見たり VR ツールを用いて疑似体験したりし、実験場面を具体的に想定してから実験に入れるようにする。
- (2) 考察の場面では、液状化実験で分かったことから自分の生活を想定し自分事として捉えなおさせる。そのために、AR 動画などの映像資料を使って、災害発生時の様子を具体的に想像することができるようにした。本時では、『【首都直下地震】防災教育 VR 「B - VR (ビーバー)」～通学路編～』(東京消防庁)を活用する。本時で使わない VR は、朝学習時に活用したり、Google Classroom で共有したりする。

大地震やそれに伴う液状化発生時の安全な避難の仕方を理解するための手立て

- (3) 児童は災害経験がなく、大地震が起きたら自分たちの住む地域の土地がどのように変化するか自分事としてとらえることは難しいと考える。さらに、横断的学習の観点からも他教科等で「液状化」についてはあまり触れていない。本時では、砂や泥、水を混ぜて、学校の下土地を再現した実験装置を準備し、実際に揺らして大地震を発生させることで、児童が液状化現象を疑似体験できるようにした。

児童が安全確保のために何が必要かを考え、適切に意思決定をすることができる手立て

- (4) 大地震発生時に地盤が液状化する可能性の高い地域が学区内にも多く存在する。自分たちの住む地域がかつて液状化被害に遭っていることや、液状化のリスクが高い地域であることを読み取らせ、安全確保のために何が必要かを考え、適切に意思決定をすることができるよう、「東京の液状化予測図(令和 3 年度改定版)」(東京都建設局)を提示する。また、各授業で使用したサイトや資料については、その都度 Google Classroom 共有し、家庭で話題にしたり、自主学習したり、将来的に自分で資料を活用できるようにする。

7 指導計画 (全 11 時間)

時	○主な学習活動	◎指導上の留意点 ◇評価 ☆安全教育の視点に立った留意点
1	○地面の下の様子を見て気付いたことを話し合う。	◎しま模様の色や構成物の違いに着目させ、問題を見いださせる。 ◇土地のつくりと変化について、差異点や共通点を基に、問題を見だし、表現する等して問題を解決している。(思考・判断・表現)
2 3	○しま模様に見える土地の様子をいろいろな方法で調べる。 ・本校地層のボーリング資料	◎本校の地層の様子をボーリング資料で調べ、意欲的に取り組めるようにする。 ☆学校の下地層には、砂岩や泥岩が多く含まれていることや、貝殻が含まれていることからかつて海だったことを押さえる。 ◇土地は、礫、砂、泥、火山灰等からできており、層をつくって広がっていること、層には化石が含まれているものがあることを理解している。(知識・技能)
4 5	○流れる水の働きと地層のでき方の関係を調べる。 ・東京湾の古地図	◎粒の大きさの違いに着目させ、しま模様ができるモデル実験の結果を実際の川や海などの様子と関係付けて考えるように促し、地層がどのようにできるのか妥当な考えをつくり出せるようにする。 ☆低地や平野の土地にはどのようなものが多く

		<p>含まれているか考える。また、そのような土地はどのような危険があるか考える。また、自分たちの住む地域も関東平野であることを押さえる。</p> <p>◇土地のつくりと変化について、観察実験などを行い、土地のでき方について、より妥当な考えをつくりだし、表現するなどして問題解決している。 (思考・判断・表現)</p>
6 ・ 7	○火山の働きと地層のでき方の関係を調べる。	<p>☆実際の噴火の映像を活用し、住む上での危険やその土地の人々の思いを知ることができるようにする。</p> <p>◇地層は、火山の噴火によってできることを理解している。 (知識・技能)</p>
8 ・ 9	○火山活動や地震による土地の変化を、いろいろな方法で調べる。	<p>◎事前に閲覧するサイトをまとめ、具体的な事例から火山活動や地震により土地が変化することを身近に感じられるようにする。</p> <p>◇土地は、火山の噴火や地震によって変化することを理解している。 (知識・技能)</p>
10 本 時	○自分の住んでいる地域の地震による土地の変化を知る。 ・液状化実験 ・防災教育VRビーバー通学路編	<p>☆この地域の土地に似せた実験装置を用いて、液状化現象の実験をする。液状化現象により、どのような被害が考えられるか、関連して考えさせる。</p> <p>◇土地のつくりと変化について、器具や機器などを正しく扱いながら調べ、それらの過程や得られた結果を適切に記録している。 (知識・技能)</p> <p>◇液状化が起きると土地がどのように変化するか理解し、想定される被害について考えている。 (思考・判断・表現)</p>
11	○土地のつくりと変化について学んだことから、災害に対する備えや避難の仕方などを考え学習をまとめる。 ・東京の液状化予測図	<p>◇土地のつくりと変化について学んだことをもとに、災害に対する備えや避難の仕方を考え、学習したことを実生活に生かそうとしている。 (主体的に学習に取り組む態度)</p>

8 本時の展開 (10/11 時)

(1)ねらい

自分たちの住む地域で液状化が起きると土地がどのように変化するか理解し、どのような被害が出るのか、被災した際の生活を想定して考えることができるようにする。

(2)展開

○学習活動	◎指導上の留意点 ◇評価 ☆安全教育の視点に立った留意点
<p>①学校の下地層がどのようにになっているか振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・粒の細かい砂岩や泥岩でできていた。 ・貝殻が混ざっていたから海だったのかもしれない。 ・災害時にもろそう。 <p>②大地震の揺れをAR動画で体験する。</p> <p>③本時の問題を確かめる。</p>	<p>◎ボーリング資材を活用する。</p> <p>☆地層のでき方の実験を想起させ、砂や泥が多いということはどのような地域か考えさせる過程で、海拔の低い平野であることや、かつて古東京湾であったことを振り返る。</p> <p>☆実験場面を具体的に想定してから実験に入れるようにする。</p> <p style="text-align: right;">手立て(1)</p>
<p>問題 大きな地震によって自分たちが住んでいる地域の土地はどのように変化し、どのような被害が出るのだろうか。</p>	
<p>④大きな地震によって、自分たちが住んでいる地域の土地がどのように変化するか予想する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建物が倒れてくる。 ・地面にひびが入ったり割れたりする。 ・砂や泥が多いから崩れてしまう。 ・水を多く含んでいるから水が出てくる。 <p>⑤実験の方法を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校と同じような地面を作り、揺らす。 ・砂・泥・水が必要。 <p>⑥液状化を再現する実験装置を用いて実験する。</p> <p>⑦実験結果をノートにまとめ、発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地面が柔らかくなった。 ・地面から水が上がってきて建物が傾いた。 ・地面がドロドロになった。 ・鉄球が沈んだ。 <p>⑧自分たちの地域の土地はどのように変化するか考察する。(個人→全体共有)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地面から水が上がってきてドロドロになり建物や電信柱が倒れたりする。 ・ライフラインが遮断される。 	<p>◎学校の下地層が何でできているか考えながら予想を立てるよう声を掛ける。</p> <p>☆「学校の下地層のつくりと同じように、砂、泥、水を使う」ということを引き出す。</p> <p style="text-align: right;">手立て(3)</p> <p>☆学校の下地層のつくりと同じように、砂、泥、水を混ぜていることを意識させる。部品は建物やマンホールに見立てたものであることを押さえる。</p> <p>◇土地のつくりと変化について、器具や機器などを正しく扱いながら調べ、それらの過程や得られた結果を適切に記録している。</p> <p style="text-align: right;">(知識・技能) 【観察の様子・ノート】</p> <p style="text-align: right;">手立て(2)</p> <p>☆実験結果を自分たちの生活に置き換えて考察できるよう、VR動画を視聴する。</p> <p>資料：【首都直下地震】防災教育VR「B-VR(ビーバー)」～通学路編～</p>

<p>⑨動画や資料を見て、液状化について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの住む地域は、液状化する可能性が高い。 ・実際にこの地域が液状化被害に遭っている。 	<p>☆動画の中で液状化の仕組みについて触れる。 資料：NHK明日をまもるナビ「首都直下地震 液状化現象にも注意！」</p> <p>☆自分たちの住む地域は液状化する可能性が高いことに気付かせる。 資料：「東京の液状化予測(令和3度改定版)」(東京都建設局)</p> <p>◇液状化が起きると土地がどのように変化するか理解し、想定される被害について考えている。 (思考・判断・表現)【実験の様子・ノート・発言】</p>
<p>⑩結論をまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大きな地震によって、自分たちの住む地域は液状化し、建物が倒れたり、身動きが取れなくなったりする可能性がある。 	<p>◎次時につなげるために、液状化が起きた時の危険について、どのように備えたらよいか疑問に思っていたり、避難の仕方を考えたりしている児童を意図的に指名する。</p>

手立て(4)

手立て(2)

9 授業観察の視点

- ・液状化を再現した実験装置やVR動画、液状化予測図等の資料は、児童に災害を自分事として捉えさせる上で有効であったか。
- ・児童が、自分たちの住む地域は大きな地震が発生したら液状化の被害に遭う可能性が高いということを捉え、避難の仕方や備えについて考えたいという思いをもたせることができたか。

第6学年 社会科（災害安全）

「わたしたちの暮らしを支える政治～災害からわたしたちを守る政治～」

場 所 6年3組教室

対 象 第6学年3組 33名

指導者 水野 純

1 単元の見込み

- ・地方公共団体の政治の働きについて理解するとともに、統計などの各種資料を通して、情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- ・地方公共団体の政治の特色や生活との関連や意味を多角的に考える力、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を考え、考えたことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- ・地方自治体の政治の働きについて、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、日本の将来を担う国民としての自覚を養う。

2 学習指導要領との関連

社会科 内容（1）

ア（イ）国や地方公共団体の政治は、国民主権の考え方の下、国民生活の安定と向上を図る大切な働きをしていることを理解する。

（ウ）見学・調査したり各種の資料で調べたりして、まとめること。

イ（イ）政策の内容や計画から実施までの過程、法令や予算との関わりなどに着目して、国や地方公共団体の政治の取組を捉え、国民生活における政治の働きを考え、表現すること。

3 題材（単元）について

（1）児童の実態

本学級の多くの児童は、自然災害に対しての避難行動の方法や危険性について、正しく理解をしている。「憲法とわたしたちの暮らし」の単元では、資料を基に考えをまとめたり、話し合い活動をしたりすることはスムーズに行う様子が見られた。そのため本単元でも、資料を基に釜石市の政治の働きについてまとめる活動を通して、自然災害発生後の復興に向けた政治の動きを理解できると考える。また、学習を進める中で、身近な葛飾区は自然災害発生時に向けてどのような働きをするのだろうかという疑問をもっていくことが想定される。そのため、釜石市の事例のみでなく、身近な葛飾区の政治の働きについても触れ、知識を深める発展的な学習に取り組む。しかしながら、東日本大震災が発生した2011年は、本学年の児童の生まれ年であるため、児童は今日まで震災と同等の大地震を経験しておらず、実際に避難所での生活を送った経験もない。震災の学習に実感が伴っていないのが現状である。そのため、資料のみではなく、実際に葛飾区役所の担当者の話を直接聞くことで、災害時の政治の仕組みについて具体的に考えさせたい。

（2）題材設定の理由

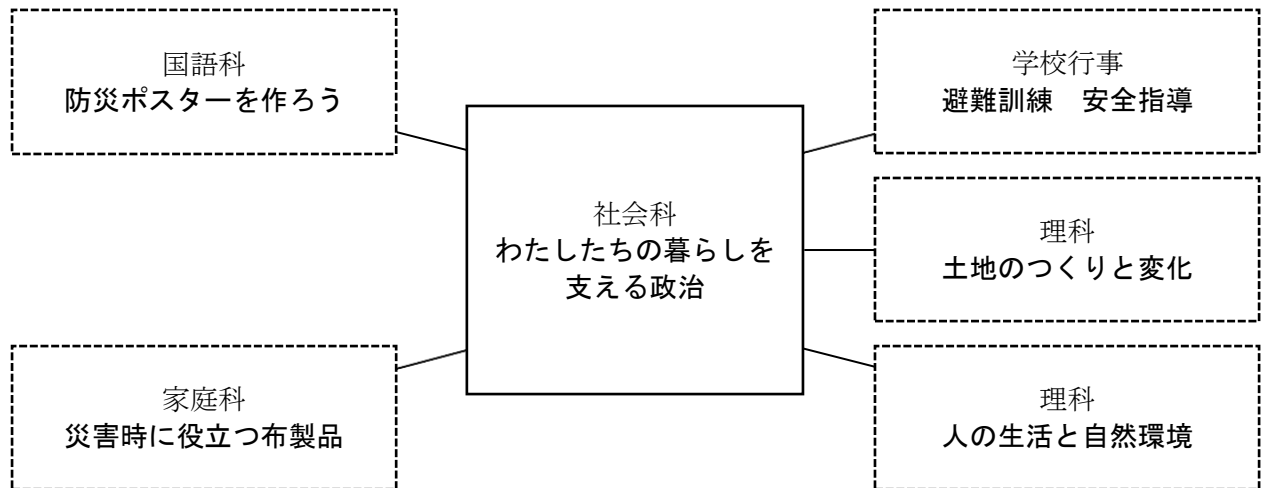
東京都教育委員会では、「危険を予測し回避する能力と、他者や社会の安全に貢献できる資質や能力を育成するために安全教育を推進していく必要がある」としている。本単元では、釜石市の災害時の政治の働きを基に公助について学んでいく。区の防災への取り組みを糸口にし

て政治に関心をもち、地方公共団体や国の政治は国民生活の安定と向上を図るために大切な働きをしていることをより広い視点から考え、判断する力を培っていく。本単元は、東日本大震災を題材にして学習する。仙台市では「仙台版防災教育実践ガイド」において東日本大震災の発生時期に合わせて12月に「復興の願いを実現する政治」を学習したり、兵庫県では「防災教育カリキュラム作成の手引き」において、阪神淡路大震災の発生時期に合わせて1月に「自然災害からの復旧・復興」の学習をしたりしている。そこで本校においても、大震災発生時期に本単元を学習することで、児童が震災についてより自分事として考え、政治の働きへの関心が高まり、地方自治体の公助の役割について理解が深まるのではないかと考えてカリキュラムマネジメントを行った。本単元では、地方自治体の公助の役割を深く理解する手立てとして、第1時から第3時では、釜石市を例に政治の働きを学ぶ。それと同時に、自分たちの住む葛飾区は災害時にどのような働きをしているのだろうかという疑問を引き出していく。第4時には、第3時までの疑問を基に葛飾区役所の担当者から話を聞く学習を設定することで、釜石市を例に学習したことを想起しながら各自自治体の公助の役割について考える。例に挙げた市と身近な葛飾区の類似点や相違点などを比較しながら、公助への理解を深め多角的な思考や理解を通して、日本の将来を担う国民としての自覚を養う。なお、ここでは、災害発生時と復興を含め災害時と記載している。

4 評価規準

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	<p>政策の内容や計画から実施までの過程、法令や予算との関わりなどについて見学・調査したり統計などの資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、地方公共団体の政治の働きについて理解している。</p> <p>調べたことを図表や文などにまとめ、地方公共団体の政治が国民主権の考えのもと、災害からの復旧・復興を進め、災害に強いまちづくりを行う大切な働きをしていることを理解している。</p>	<p>政策の内容や計画から実施までの過程、法令や予算との関わりなどに着目して、問いを見だし、地方公共団体の政治の働きについて考え、表現している。</p> <p>政治の取り組みと災害からの復旧・復興を関連付け、地方公共団体の政治と住民の関係を考え、表現する。</p>	<p>地方公共団体の政治の働きについて、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、主体的に学習問題を追及し、解決しようとしている。</p> <p>学習したことを基に、国民と政治の関わり方について多角的に考えようとしている。</p>

5 他教科等との関連



6 安全教育の視点に迫るための手立て

児童が自然災害をイメージし、自分事として考えることができる手立て

- (1) 東日本大震災発生時の映像資料を活用し、災害発生時の様子を具体的にイメージできるようにする。また、被災者のインタビュー動画などを視聴することで、被災者の生の声を聴き実際に自分の身に起こったらどうするか考えさせる。

地方公共団体の政治の働きについて知り、災害時の対応を理解するための手立て

- (2) 区役所の担当者の方から災害時の葛飾区の政治の仕組みについての話を聞くことで、災害時に葛飾区がどのような対応や対策をしているかを理解できるようにする。

国民と政治の関わりを多角的に考え、災害時に適切に意思決定することができる手立て

- (3) インタビューや共通点や相違点を比較する学習を通し、釜石市と自分たちの住む区の地方自治体を結び付けることで、国民と政治の関わりを多角的に考え日本の将来を担う国民としての自覚を養う。

7 指導計画（全5時間）

時	○主な学習活動	◎指導上の留意点 ◇評価 ☆安全教育の視点に立った留意点
1	<p>[本時の問い] 東日本大震災の被害状況を知り、被災者の願いを考えよう。</p> <p>○東日本大震災による被害を調べ、被災者の願いを想像し、願いをかなえる政治の働きについて学習問題をつくり、学習計画を立てる。</p> <p>○学習のまとめに葛飾区の担当者から話を聞くということを知る。</p> <p>○釜石市の事例から葛飾区の政治の仕組みを想像しながら学習することを知る。</p>	<p>◎東日本大震災の被害を統計や動画資料を用いて被害状況を捉えさせる。</p> <p>☆動画教材等を活用し、東日本大震災の被害を具体的にイメージさせ、震災への備えや避難行動について考えさせる。</p> <p>◇東日本大震災の被害から、問いを見いだし、学習問題として表現している。 (思考・判断・表現)</p> <p>◇学習問題について予想や学習計画を立て主体的に追究し考えている。 (主体的に学習に取り組む態度)</p>
2	<p>[本時の問い] 被災した人々に対する緊急の支援は、どのように行われたのだろうか。</p> <p>○被災した人々に対して、どのような緊急の支援が行われたのか、また、それはどのような仕組みによって実現したのかを調べる。</p>	<p>◎震災直後の混乱や道路の寸断がある中で、迅速な支援活動が行われたことに目を向けさせる。</p> <p>◇政策の内容や計画から実施までの過程、法令や予算との関わりなどに着目して、国や地方公共団体の政治の取り組みを捉え、国民生活における政治の働きを考えている。 (思考・判断・表現)</p> <p>◎葛飾区の緊急の支援と政治の仕組みについて考える。</p>
3	<p>[本時の問い] まちの復興に向けた取り組みは、どのようなしくみのもとで進められてきたのだろうか。</p> <p>○釜石市で行われてきた復興への取り組みや計画づくりについて調べ、復興を進めていく上で大切なことを考える。</p>	<p>◎誰が復興の取り組みを行ったのかを考え、政治の働きに目を向けさせたい。</p> <p>◇市役所や市議会の働きを調べ、住民の願いを基に復興を進めていくための政治の仕組みや働きを捉えて理解している。(知識・技能)</p> <p>◎葛飾区のまちの復興にむけた政治の取り組みについて考える。</p>
4 本 時	<p>[本時の問い] 災害時に葛飾区はどのような取り組みをしているのだろうか。</p> <p>○釜石市と葛飾区の行政の働きを比較し、身近な問題として考える。</p>	<p>◎葛飾区の災害時の取り組みを予想させてから活動に入ることで、児童に主体的に考えさせる。</p> <p>◇釜石市と葛飾区の行政の働きを比較し、地方公共団体の政治が国民主権の考えのもと、災害からの復旧・復興を進め、災害に強いまちづくりを行う大切な働きをしていることを理解している。 (知識・技能)</p>
5	<p>[本時の問い] 復興のまちづくりが進められる中で、市の様子は、どのように変わったのだろうか。</p> <p>○復興に向けて行われた事業や継続して行われている取り組みを調べ、災害に強いまちづくりを行うために大切なことを考え、話し合う。</p>	<p>◎公助だけではなく、自助や共助の取り組みにも児童の意識を広げていく。</p> <p>◇災害に強いまちづくりを行うための取り組みを調べ、復興を進める上での国や県、市による政治の働きを捉え理解している。 (知識・技能)</p>

8 本時の展開（4／5時）

（1）ねらい

葛飾区の区役所や区議会の働きを知り、復興を進めるための政治の働きを理解できるようにする。

（2）展開

○学習活動	◎指導上の留意点 ◇評価 ☆安全教育の視点に立った留意点
①前時までの釜石市の災害時の取り組みについて振り返る。 ・復興まちづくり基本計画がつけられた。 ・国が補助金を出した。 ・市民の願いを取り入れた。 ②本時の問いを確認する。	◎前時までに学習した、釜石市の行政の働きについて押さえる。
問い 災害時に葛飾区はどのような取り組みをしているのだろう。	
③これまで学習を踏まえて、災害時に葛飾区ではどのような取り組みをしているのかグループで話し合い、予想し発表する。 ・復興に向けた計画があるのではないかな。 ・区民の願いを聞く制度があるのではないかな。 ④葛飾区の担当者から水元地区の災害時の行政の働きについて話を聞く。 ⑤担当者へ質問をする。	◎第3時までに釜石市と比べて個人で疑問に思ったことの中から、葛飾区でも取り組んでいそうなことをグループで選び予想をさせる。 ◎各グループでホワイトボードを使い、予想をまとめ、黒板に貼り出す。 ☆区役所の担当者から直接話を聞くことで、災害時の取り組みを身近に感じ、自分事として捉えられるようにする。
質問例 ・支援の補助金は具体的にどのようなことに使われる予定ですか。 ・釜石市では漁業の再開にも力を入れていましたが、葛飾区では、復興の際に一番力を入れるポイントはどこになりますか。	◎区の担当者の話を聞いた上でも解決しなかった疑問や、さらに聞きたくなったことを質問させる。
⑥本時の学習を振り返る。 ・災害時に葛飾区はどのような取り組みをしているのかをまとめる。	☆区の災害時の取り組みを具体的に考え、自分ができることを考えられるようにする。 ☆釜石市と比較することで政治の働きについて多角的に捉えられるようにする。 ◇釜石市と葛飾区の行政の働きを比較し、地方公共団体の政治が国民主権の考えのもと、災害からの復旧・復興を進め、災害に強いまちづくりを行う大切な働きをしていることを理解している。（知識・技能）【ノート・観察】

9 授業観察の視点

- ・区役所の担当者から直接話を聞くことで、区が災害時にどのような取り組みを行っているのかを理解し、行政の働きを理解できるようになったか。
- ・釜石市と葛飾区の災害時の取り組みを比較することで、行政の働きを多角的に捉えられたか。

memo

A memo template consisting of a rectangular frame. At the top center, the word "memo" is written in a cursive font. Below this, there is a horizontal dashed line. The rest of the page is filled with 18 horizontal dashed lines, providing a guide for writing the body of the memo.

全国・東京都学校安全教育のあゆみ

回	全安研会長 都安研会長	期 日	大 会 主 題	会 場
1	全 柏 茂夫 都 柏 茂夫	昭和 51 年 6 月 29 日 (火)	学校安全教育の現状と問題点の解明	東京都港区立青南小学校 (柏 茂夫 校長)
2	全 柏 茂夫 都 石井 善一	昭和 52 年 11 月 24 日 (木)	これからの学校安全教育の方向と その実践のあり方	東京都千代田区立佐久間小学校 (石井 善一 校長)
3	全 石井 善一 都 石井 善一	昭和 54 年 2 月 6 日 (火)	学校教育における安全指導の展開	東京都千代田区立佐久間小学校 (石井 善一 校長)
4	全 三枝 源一郎 都 三枝 源一郎	昭和 55 年 2 月 5 日 (火)	学校における安全教育の実践	東京都渋谷区立大向小学校 (三枝 源一郎 校長)
5	全 三枝 源一郎 都 新井 三郎	昭和 56 年 11 月 11 日 (火)	学校における安全教育の充実	千葉県船橋市立演湊町小学校 (半田 文江 校長)
6	全 三枝 源一郎 都 新井 三郎	昭和 57 年 3 月 4 日 (木)	学校安全教育の今日的課題の解明 ～地域をふまえた学校安全教育の推進～	東京都新宿区立淀橋第一小学校 (古島 稔 校長)
7	全 大橋 一憲 都 新井 三郎	昭和 58 年 2 月 28 日 (月)	学校安全教育の充実と推進 ～地域の特性をふまえた安全教育～	東京都葛飾区立高砂小学校 (高橋 文治 校長)
8	全 大橋 一憲 都 新井 三郎	昭和 59 年 2 月 24 日 (金)	学校安全教育の充実と推進 ～地域の特性をふまえた安全教育～	東京都港区立南山小学校 (磯崎 乙彦 校長)
9	全 大橋 一憲 都 古島 稔	昭和 60 年 3 月 5 日 (火)	学校安全教育の充実と推進 ～指導場面の特性を活かした指導～	東京都文京区立元町小学校 (原口 通子 校長)
10	全 新井 三郎 都 磯崎 乙彦	昭和 61 年 2 月 27 日 (木)	安全に行動できる子どもの育成をめざして ～人間工学的視点から～	東京都大田区立立山小学校 (厚地 大司 校長)
11	全 新井 三郎 都 村田 績雄	昭和 62 年 2 月 20 日 (金)	安全に行動できる子どもの育成をめざして ～子供の発達段階をふまえて～	東京都板橋区立立山小学校 (村田 績雄 校長)
12	全 大竹 章善 都 小嶋 孝夫	昭和 63 年 2 月 26 日 (金)	安全に行動できる子どもの育成をめざして ～子供の発達段階をふまえて～	東京都品川区立第二延山小学校 (小嶋 孝夫 校長)
13	全 大竹 章善 都 小嶋 孝夫	平成元年 2 月 10 日 (金)	安全に行動できる子どもの育成をめざして ～自ら安全な生活に立ち向かう児童・生徒の育成～	東京都品川区立第二延山小学校 (小嶋 孝夫 校長)
14	全 大竹 章善 都 鈴木 文雄 (埼安研会長)	平成元年 11 月 10 日 (金)	安全に行動できる子どもの育成をめざして ～児童・生徒の発達段階をふまえて～	埼玉県八潮市立八潮第七小学校 (米本 洋一 校長) 埼玉県八潮市立八潮中学校 (加藤 功 校長) 埼玉県八潮市立八潮高等学校 (荒木 貞行 校長)
	全 大竹 章善 都 木下 靖正	平成 2 年 2 月 8 日 (木)	安全に行動できる子どもの育成をめざして ～自ら安全な生活に立ち向かう児童・生徒の育成～	東京都板橋区立金沢小学校 (木下 靖正 校長)
15	全 檜山 克美 都 笠原 恒雄	平成 3 年 2 月 8 日 (金)	自主的に安全な生活を実践することができる幼児・児童・生徒の育成 ～発達特性をふまえた効果的指導の工夫～	東京都東大和市立第四小学校 (笠原 恒雄 校長)
16	全 檜山 克美 都 樋 詰男	平成 4 年 2 月 7 日 (金)	自主的に安全な生活を実践することができる幼児・児童・生徒の育成 ～発達特性をふまえた効果的指導の工夫～	東京都板橋区立緑小学校 (樋 詰男 校長)
17	全 黒瀬 忠生 都 古川 絢子	平成 5 年 2 月 2 日 (火)	自主的に安全な生活を実践することができる幼児・児童・生徒の育成 ～発達特性をふまえた効果的指導の工夫～	東京都葛飾区立住吉小学校 (古川 絢子 校長)
18	全 黒瀬 忠生 都 四十九院公洋	平成 6 年 2 月 3 日 (木)	自主的に安全な生活を実践することができる幼児・児童・生徒の育成 ～発達特性をふまえた効果的指導の工夫～	東京都足立区立梅島小学校 (四十九院 公洋 校長)
19	全 川邊 重彦 都 四十九院公洋	平成 7 年 2 月 16 日 (木)	自主的に安全な生活を実践することができる幼児・児童・生徒の育成 ～子どもの側に立った安全指導の工夫～	東京都足立区立千寿桜小学校 (金子 美江子 校長)
20	全 川邊 重彦 都 四十九院公洋	平成 8 年 2 月 9 日 (金)	自主的に安全な生活を実践することができる幼児・児童・生徒の育成 ～子どもの側に立った安全指導の工夫～	東京都文京区立窪町小学校 (川邊 重彦 校長)
21	全 四十九院公洋 都 伊東 英明	平成 9 年 2 月 13 日 (木)	自主的に安全な生活を実践することができる幼児・児童・生徒の育成 ～子どもの側に立った安全指導の工夫～	東京都板橋区立成増ヶ丘小学校 (伊東 英明 校長)
22	全 宇津木 順一 都 諸藤 登	平成 10 年 2 月 13 日 (金)	自主的に安全な生活を実践することができる幼児・児童・生徒の育成 ～子どもの側に立った安全指導の工夫～	東京都港区立赤坂小学校 (木村 美千子 校長)
23	全 宇津木 順一 都 諸藤 登	平成 11 年 1 月 29 日 (金)	自主的に安全な生活を実践することができる幼児・児童・生徒の育成 ～子どもの側に立った安全指導の工夫～	東京都港区立白金小学校 (諸藤 登 校長)

回	全安研会長 都安研会長		期 日	大 会 主 題	会 場
	全	都			
24	全	諸藤 登	平成 12 年 2 月 8 日 (火)	自他の生命を尊重し、健康で安全な生活ができる幼児・児童・生徒の育成 ～生きる力をはぐくむ新たな安全教育の創造～	東京都足立区立千寿第五小学校 (清水 豊 校長)
	都	清水 豊			
25	全	清水 豊	平成 13 年 2 月 6 日 (火)	自他の生命を尊重し、健康で安全な生活ができる幼児・児童・生徒の育成 ～生きる力をはぐくむ新たな安全教育の創造～	東京都文京区立礪川小学校 (岩切 玲子 校長)
	都	岩切 玲子			
26	全	岩切 玲子	平成 14 年 2 月 7 日 (火)	自他の生命を尊重し、安全な生活ができる幼児・児童・生徒の育成 ～生きる力をはぐくむ新たな安全教育の創造～	東京都板橋区立志村小学校 (久富 美智子 校長)
	都	久富 美智子			
27	全	岩切 玲子	平成 15 年 2 月 20 日 (木)	自他の生命を尊重し、安全な生活ができる幼児・児童・生徒の育成 ～生きる力をはぐくむ新たな安全教育の創造～	東京都葛飾区立東金町小学校 (池田 實 校長)
	都	池田 實			
28	全	池田 實	平成 16 年 2 月 12 日 (木)	自他の生命を尊重し、安全な生活ができる幼児・児童・生徒の育成 ～生きる力をはぐくむ新たな安全教育の創造～	東京都足立区立千寿小学校 (林 正樹 校長)
	都	林 正樹			
29	全	林 正樹	平成 17 年 2 月 18 日 (金)	自他の生命を尊重し、安全な生活ができる幼児・児童・生徒の育成 ～生きる力をはぐくむ新たな安全教育の創造～	東京都文京区立千駄木小学校 (米山 和道 校長)
	都	米山 和道			
30	全	林 正樹	平成 18 年 2 月 17 日 (金)	自他の生命を尊重し、安全な生活ができる幼児・児童・生徒の育成 ～生きる力をはぐくむ新たな安全教育の創造～	東京都江戸川区立清新第一小学校 (池田 光生 校長)
	都	米山 和道			
31	全	米山 和道	平成 19 年 2 月 16 日 (金)	自他の生命を尊重し、安全な生活ができる幼児・児童・生徒の育成 ～生きる力をはぐくむ新たな安全文化の創造～	東京都目黒区立五本木小学校 (小林 元子 校長)
	都	小林 元子			
32	全	小林 元子	平成 20 年 2 月 15 日 (金)	自他の生命を尊重し、安全な生活ができる幼児・児童・生徒の育成 ～生きる力をはぐくむ新たな安全文化の創造～	東京都足立区立西新井第一小学校 (矢萩 恵一 校長)
	都	矢萩 恵一			
33	全	矢萩 恵一	平成 21 年 2 月 13 日 (金)	自他の生命を尊重し、安全な生活ができる幼児・児童・生徒の育成 ～生きる力をはぐくむ新たな安全文化の創造～	東京都台東区立浅草小学校 (沢田 明 校長)
	都	沢田 明			
34	全	沢田 明	平成 22 年 2 月 12 日 (金)	自他の生命を尊重し、安全のための行動ができる幼児・児童・生徒の育成 ～危険を予測し、自ら回避できる能力を育成するために～	東京都板橋区立高島第一小学校 (矢崎 良明 校長)
	都	矢崎 良明			
35	全	矢崎 良明	平成 23 年 2 月 4 日 (金)	自他の生命を尊重し、安全のための行動ができる幼児・児童・生徒の育成 ～危険を予測し、自ら回避できる能力を育成するために～	東京都八王子市立第一小学校 (川上 卓一 校長)
	都	芳森 信夫			
36	全	矢崎 良明	平成 24 年 2 月 10 日 (金)	自他の生命を尊重し、安全のための行動ができる幼児・児童・生徒の育成 ～危険を予測し、自ら回避できる能力を育成するために～	東京都板橋区立高島第五小学校 (原野 隆 校長)
	都	矢崎 良明			
37	全	矢崎 良明	平成 25 年 2 月 15 日 (金)	自他の生命を尊重し、安全のための行動ができる幼児・児童・生徒の育成 ～危険を予測し、自ら回避できる能力を育成するために～	東京都台東区立金竜小学校 (牛島 三重子 校長)
	都	井口 信二			
38	全	井口 信二	平成 26 年 2 月 21 日 (金)	自他の生命を尊重し、安全のための行動ができる幼児・児童・生徒の育成 ～危険を予測し、自ら回避できる能力を育成するために～	東京都葛飾区立花の木小学校 (井口 信二 校長)
	都	永山 満義			
39	全	井口 信二	平成 27 年 2 月 13 日 (金)	自他の生命を尊重し、安全のための行動ができる幼児・児童・生徒の育成 ～危険を予測し、自ら回避できる能力を育成するために～	東京都世田谷区立塚戸小学校 (永山 満義 校長)
	都	永山 満義			
40	全	井口 信二	平成 28 年 2 月 12 日 (金)	自他の生命を尊重し、安全のための行動ができる幼児・児童・生徒の育成 ～危険を予測し、自ら回避できる能力を育成するために～	東京都武蔵野市立本宿小学校 (佐々木 克二 校長)
	都	永山 満義			
41	全	永山 満義	平成 29 年 2 月 17 日 (金)	自他の生命を尊重し、安全のための行動ができる幼児・児童・生徒の育成 ～危険を予測し、自ら回避できる能力を育成するために～	東京都江東区立第一大島小学校 (山田 誠一 校長)
	都	平松 有理子			
42	全	永山 満義	平成 30 年 2 月 9 日 (金)	自他の生命を尊重し、安全のための行動ができる幼児・児童・生徒の育成 ～危険を予測し、自ら回避できる能力を育成するために～	東京都世田谷区立三軒茶屋小学校 (平松 有理子 校長)
	都	平松 有理子			
43	全	木間 東平	平成 31 年 2 月 15 日 (金)	自他の生命を尊重し、安全のための行動ができる幼児・児童・生徒の育成 ～危険を予測し、自ら回避できる能力を育成するために～	東京都墨田区立外手小学校 (新村 出 校長)
	都	伊藤 進			
44	全	木間 東平	令和 2 年 2 月 14 日 (金)	自他の生命を尊重し、安全のための行動ができる幼児・児童・生徒の育成 ～危険を予測し、自ら回避できる能力を育成するために～	東京都調布市立第五中学校 (高汐 康浩 校長)
	都	伊藤 進			
45	全	木間 東平	令和 4 年 2 月 4 日 (金)	自他の生命を尊重し、安全のための行動ができる幼児・児童・生徒の育成 ～危険を予測し、自ら回避できる能力を育成するために～	東京都葛飾区立柴又小学校 (木間 東平 校長)
	都	伊藤 進			
46	全	木間 東平	令和 5 年 2 月 10 日 (金)	自他の生命を尊重し、安全のための行動ができる幼児・児童・生徒の育成 ～危険を予測し、自ら回避できる能力を育成するために～	東京都国分寺市立第十小学校 (坂井 由利子 校長)
	都	高汐 康浩			
47	全	高汐 康浩	令和 6 年 2 月 9 日 (金)	自他の生命を尊重し、安全のための行動ができる幼児・児童・生徒の育成 ～危険を予測し、自ら回避できる能力を育成するために～	東京都葛飾区立花の木小学校 (伊藤 進 校長)
	都	佐々木 克二			

令和5年度 学校安全教育研究会 組織

特別顧問	戸田 芳雄（日本安全教育学会理事長・学校安全教育研究所顧問・明海大学客員教授）
顧問	四十九院公洋 清水豊 岩切玲子 久富美智子 池田 實 小林元子 矢萩恵一 沢田 明 芳森信夫 矢崎良明 澤野明夫 井口信二 永山満義 平松有理子 桶田ゆかり 鳥塚恵子 木間東平

令和5年度 全国学校安全教育研究会組織

役 職	氏 名	所 属・職 名
会 長	高汐 康浩	東京都府中市立府中第八中学校 校長
副会長	渡部佳代子	東京都江東区立大島幼稚園 園長
	伊藤 進	東京都葛飾区立花の木小学校 校長
	角田 成隆	東京都足立区立足立小学校 校長
事務局長	伊藤 淳	東京都府中市立府中第五中学校 校長
事務局員・顧問	木間 東平	東京都葛飾区立柴又小学校 校長
事務局員	本多 亨	千葉県千葉市立貝塚中学校
	木次 勝義	元副会長<島根県>・学校安全教育研究所 教授
	長岡 佳孝	元副会長<山形県>・学校安全教育研究所 教授
	津布久郁夫	元全安研事務局長<東京都>
	山田 誠一	元都安研副会長<東京都>江東区教委
	山田 明	元都安研副会長<東京都>
	原野 隆	元都安研研究部長<東京都>
会計部長	吉羽 優子	東京都文京区立柳町こどもの森 園長
監 事	村田有美子	東京都江東区教育委員会事務局

令和5年度 東京都学校安全教育研究会組織

役 職	氏 名	所 属・職 名
会 長	佐々木克二	世田谷区立東深沢小学校 校長
副会長	渡部佳代子	江東区立大島幼稚園 園長
	原田 英徳	葛飾区立西小菅小学校 校長
事務局長	藤咲 孝臣	府中市立本宿小学校 校長
事務局次長	坂下 惣栄	東村山市立東村山第一中学校 校長
事務局員	小俣 弘子	調布市立富士見台小学校 校長
事務局員	三澤 亘潤	西東京市立保谷第二小学校 校長
事務局員	西原 洋一	大田区立矢口東小学校
研究部長	坂井由利子	国分寺市立第十小学校 校長
副部長	渡邊 利枝	杉並区立東田中学校
部員	中澤 郁実	杉並区立浜田山小学校
	清水 洋一	八王子市立第一中学校
	関谷 洋平	府中市立府中第二中学校
	橋詰 貴	町田市立南成瀬中学校
	中野 健	国分寺市立第十小学校
	小野 正門	大田区立矢口東小学校
	門野 幸一	現クアラルンプール日本人学校
	古澤 彰	現日本メキシコ学院
広報部長	松本 麻巳	北区立堀船小学校 校長
部員	南 美貴	西新宿子ども園長
会計部長	立石 晃子	荒川区立南千住第二幼稚園 園長
副部長	吉羽 優子	文京区立柳町こどもの森 園長
部員	千葉 千里	府中市立府中第二中学校
	小川 雄也	武蔵野市立第四中学校
監 事	村田有美子	江東区教育委員会事務局

あとがき

東京都学校安全教育研究会

副会長 原田 英徳

第47回全国学校安全教育研究大会・東京都学校安全教育研究大会に向けて、本研究会では2年間研究を進めてまいりました。

新型コロナウイルスやインフルエンザ等の感染症対策を行いながらも制限のない研究会実施となり、全国から多くの先生方、関係者の皆様にご参加いただいたことを大変うれしく思います。

文部科学省では、学校安全の活動について、「生活安全」、「交通安全」、「災害安全」の各領域を通じて、自ら安全に行動したり、他の人や社会の安全のために貢献したりできるようにすることを目指す「安全教育」、子供たちを取り巻く環境を安全に整えることを目指す「安全管理」、これからの活動を円滑に進めるための「組織活動」という3つの主要な活動から構成されている、としています。

今年度の花の木小学校の研究では、「生活安全」、「交通安全」、「災害安全」の領域を基本に、「生命(いのち)の安全教育」にもフォーカスを当て、実践を行いました。命の大切さを理解し、SNSを含む性犯罪や性暴力の加害者にも被害者にも傍観者にもならない、という今日的な課題に向き合いながら安全教育を推進してきました。

また、個人的なことですが、社会科見学で、区内の防災施設を見学する機会がありました。煙体験、暴風雨体験、都市型水害体験、地震体験を実施しました。子供たちは、体験を通して、災害の怖さを覚えながらも、自分の身を守るために、どのように行動すればいいのか、どのような備えをすればいいのかを自分事として捉えていました。

本大会では、各教科・領域での指導を通して、子供たちがまさに安全教育で学んだことを自分事として捉え、大会主題でもある、「自他の生命を尊重し、安全のための行動ができる」素地を育んでいると自負しております。

結びに、本大会の開催にあたり、文部科学省、東京都教育委員会、葛飾区教育委員会をはじめ、関係諸機関の皆様に多大なるご支援、ご指導をいただきましたことに心より感謝申し上げます。また、本大会の会場校を引き受けていただきました葛飾区立花の木小学校の教職員並びにPTAをはじめとする地域の皆様の絶大なるご協力に御礼申し上げます。